

# 鹿児島高専 だより

NATIONAL INSTITUTE OF TECHNOLOGY (KOSEN),  
KAGOSHIMA COLLEGE

第78号

令和6年3月



独立行政法人 国立高等専門学校機構  
鹿児島工業高等専門学校

# 目 次

● 校長室から .....	1
● 祝！鹿児島高専60周年記念 .....	2
● 学生の活躍～部活動編～ .....	4
● 学生の活躍～鹿児島国体編～ .....	11
● 学生の活躍～学会・その他～ .....	14
● 地域と共に .....	15
● 「学ぶ」から「教える」へ～高専生が先生に！～ .....	19
● 学生表彰 .....	24
● 鹿児島高専 Supporting Student Dreams .....	26
● 頑張ってます！課外活動！.....	29
● 学生会だより .....	30
● 寮生会だより .....	31
● 部活動紹介 .....	32
● 旅立ちに寄せて～卒業生あいさつと担任の贈る言葉～ .....	40
● 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧 .....	47
● 卒業生の現在 .....	50
● 教務だより .....	55
● 総務企画だより .....	56
● 学生だより .....	57
● 志学寮だより .....	58
● 専攻科だより .....	59
● 国際交流だより.....	60
● 地域共同テクノセンターだより .....	61
● 学生何でも相談室だより .....	62
● 退職の挨拶 .....	63
● 新任教員の紹介 .....	65
● 学舎リニューアル .....	66
● 後援会だより .....	67



# 校長室から



## 一歩踏み出す小さな勇氣

校長 上田 悦子

校長として鹿児島高専に着任して1年が経とうとしています。着任した2023年が創立60周年の記念すべき年であったこと、また私がちょうど鹿児島高専10代目の校長であることを大変光榮に思いました。また同時に、歴代校長先生方が築いてこられた鹿児島高専の歴史と伝統をしっかり引き継ぎ、そしてこれからの未来を明るいものとするのが私の使命と認識して校長としての仕事が始まりました。私にとって全く初めての地である鹿児島高専に着任することが決まったのが、2023年3月1日でした。着任挨拶のため3月14日に鹿児島高専に来ました。桜島を見ながら鹿児島空港に降り立ち学校に向かうと、正門近くからワシントンヤシの並木が見えてきました。正門を入り、専攻科棟の上に掲げられた「国立鹿児島高専」の文字、創立50周年記念モニュメント、高専制度60周年記念の枝垂れ桜、それらを見ながら「探究の小径」を抜けると覇者の像が迎えてくれました。本校を初めて訪れる人にとって、印象的で魅力的なエントランスを持っている学校だなと思ったことを、今でも覚えています。正門前の道路改良により道幅が広くなり、さらに明るくなったこのエントランスを毎日通るようになって愛着が芽生え、私にとっては校内でも大好きな場所となっています。このエントランスだけでなく構内を毎日美しく整備してくださる職員の大田さん、エントランス付近の花壇整備への学生、教職員の協力のおかげだと思っています。ありがとうございます。

さて、2020年の初めから新型コロナウイルス感染症によるパンデミックにより、学校教育も大きな制限の

もとで行わざるを得ない期間が3年ほど続きましたが、この感染症が5類指定になって以降、学校生活にもコロナ禍以前の雰囲気が戻ってきました。本校でも、外部の方々の参加に制限を設け開催した文化祭や体育祭、また国際交流における海外派遣研修の再開など、学生たちの活動がこれまで以上に広がってきました。抑えられていたことが自由にできるようになって張り切っている人が多いと思いますが、一方で、これまでの3年間自らが仕掛けていく機会が少なかったこともあって、「さあやろう！と言われても、何からどうやって始めたら良いの？」と戸惑っている人もいるのではないのでしょうか。

4月に着任して以降、学生の皆さんには「何か新しいことにチャレンジしてほしい」と話してきました。皆さんの日常で「面白そう」とか「こんなことできたらいいな」などと思うことはたびたびあるのではないのでしょうか。だけど、「自分には無理」とか「やり始めても上手くいかなかったら心折れる……」と思って行動に移すのを躊躇してしまいがちですよね。また、海外留学には「英語がもっと話せるようになってから」、ハッカソンへの応募も「もっとプログラムが書けるようになってすごいアプリを作れるようになってから」など、人は往々にして「貯金ができてから家を建てよう」的な発想になりがちです。ただそのような考えでは、いつまで経っても動きだせず結局は現状に留まってしまう。まずは「とにかくやってみる」「失敗や惨敗当たり前、うまくいったらラッキー」くらいの軽い気持ちで、一歩踏み出す小さな勇氣を持ってもらいたいと思っています。校長として学生の皆さんのそんな気持ちや行動を、これまで以上に応援していこうと考えています。前校長の氷室先生が立ち上げてくださった Supporting Student Dreams プロジェクトの今年の募集に対しては予想以上の申請があり、皆さんのモチベーションに期待が膨らんでいます。また、スタートアップ人材を育成するための起業クラブも立ち上がりました。学内だけでなく、国内外でのさまざまなプロジェクトや企画でも高専生の参加者を募集しています。「友達が楽しそうなことに取り組んでいるから自分もやってみよう」という雰囲気が学校全体に芽生えてくれば、それぞれの Well-being が実現できる鹿児島高専になっていくはず。私の校長としてのチャレンジも始まったばかりです。頑張ります！





# 祝！鹿児島高専60周年記念



図1 60周年記念式典の様子

## 1. 鹿児島高専 60周年を迎えて

校長 上田 悦子

鹿児島高専は、昭和38年に高専制度化第二期校として開校しました。その後、時代の変化と社会の期待に応えるために学科の改組や増設、大学編入、専攻科の設置などの組織整備を続けることにより、多様なキャリアパスを持つ高等教育機関として今年創立60周年を迎えることができました。この間、優れた教育と研究活動による人材育成、そして地域社会への貢献において着実に成果を挙げてまいりました。これは、学校関係の皆様のご尽力、そして保護者の皆様や地域企業ならびに地域住民の皆様からのご理解とご支援があってこそ実現できたものです。特にこれまでに本校を卒業された数多くのOB/OG諸氏の社会における素晴らしい活躍は、本校の誇りでもあり、在校生にとって大きな力となっております。これらのお力添えに、心より感謝申し上げます。

我々は、創立から60年を迎える今、鹿児島工業高等専門学校の伝統と誇りを受け継ぎつつ、新たな時代に向けて変化を恐れず進化し続けていく所存であります。さらに、科学技術教育だけではなく、それぞれの学生がよりよく生きるための、また社会のWell-beingを実現するための力を身につけられる教育を充実すべ

く、昨年度からの1年次混合クラス制度やリベラルアーツ教育など具体的な実践を始めております。このような新たな取り組みをこれからも続けてまいります。

最後に、鹿児島工業高等専門学校の明るい未来に向けて、本校教職員、学生共に力を合わせて歩んでいくことを誓い、皆様の期待に応える教育機関であり続けることをお約束いたしまして、60周年に寄せたメッセージとさせていただきます。

## 2. 60周年記念式典・イベントの概要

総務企画主事 岸田 一也

### (1) 60周年記念式典

60周年記念式典は、衆議院議員・森山裕氏をはじめとして、多くの来賓を迎えて挙行されました。

式典では、衆議院議員・森山裕氏および同窓会長・末廣浩二氏から祝辞を賜りました。森山裕氏(図2)からは、高専および学生への大いなる期待と激励を受け、大変感謝しております。また、鹿児島高専テクニクラブからは公用車を寄贈いただき、鶴ヶ野末央会長から上田校長へ公用車のキーが手渡されました(図3)。最後に、60周年を記念して制作された新校章(図4)が上田校長より発表され、令和6年度から新校章が鹿児島高専のシンボルマークとなります。



図2 祝辞を述べられる森山裕氏



図5 記念講演をなされる高橋忠仁氏



図3 鶴ヶ野会長から上田校長へ公用車の寄贈



図6 プレゼンをされる真嘉比氏



図4 新校章



図7 パネルトークの様子

## (2) 60周年記念イベント

60周年記念式典に引き続き開催された60周年記念イベントでは、本校OBでPALTEKを創業された高橋忠仁氏が記念講演をなされました(図5)。

記念講演に引き続きパネルトークが実施され、パネルトークのはじめにゲストのちゅらデータCEO・真嘉比愛氏からプレゼンテーションがありました(図6)。

パネルトークでは、「ダイバーシティと鹿児島高専の未来(魅力ある鹿児島高専)」をテーマに、ファシリテ-

ターの氷室前校長、上田校長、真嘉比氏、永谷さん(5E)、宮薩さん(5C)の5名のパネラーにより活発な意見交換がなされました。

60周年という記念の節目を迎え、多くの皆さま方にご参加をいただき、式典、イベントを挙げていただきましたことを誠に感謝いたします。鹿児島高専は、次の60年に向けて新たな一歩を踏み出してみたいと思います。今後とも、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。





# 学生の活躍 ～部活動編～

## バドミントン部の活躍

### 勝負の厳しさ

2023チーム主将 山下 水輝

「To Be・・・」

このスローガンのもと、私たち鹿児島高専バドミントン部は2年ぶり2度目の全国高専大会優勝を果たすことができました。それを達成した経緯には、勝つことの難しさを体感してきたことがあると思います。私はキャプテンとして、チームに何が必要なのかを考えてきました。

2年前、バドミントン部は全国高専大会男子団体において鹿児島高専初の全国制覇を果たしました。当時、我々は最大の賛辞と敬意を受けました。しかし、同時に相手チームからは最大の警戒を受けることにもつながりました。「勝負の世界は厳しく、全国の壁は高い」そのことを体感したのが去年の全国高専大会です。結果は団体3位で、目標だった2連覇を果たすことができなかつたのです。優勝することは簡単ではないことを改めて思い知らされる結果になりました。

私は先輩からキャプテンを引き継ぎ、「To Be...」というスローガンを掲げました。この言葉には「～になるために」という意味があります。私はチーム力向上

のため、個人の意識を変えるべきだと考えました。全国高専大会優勝という目標のために選手それぞれが責任と役割を意識し、自主的に行動してほしいという思いを込めました。個人それぞれが高い意識で練習に臨み、課題に取り組んでくれました。

そして迎えた全国高専大会当日、1年前と同様に警戒を受けている我々は、初戦から苦戦を強いられました。しかし、我々はチームの一人ひとりがチームの優勝のために自主的に行動し、一丸となって勝負に挑みました。その結果、鹿児島高専は激闘を勝ち抜き、悲願の全国高専大会優勝を果たすことができたのです。厳しい勝負の世界で戦うことは、我々にとって大きな成長につながることを学びました。鹿児島高専バドミントン部の戦いはまだ続きます。2連覇に向け奮闘する鹿児島高専バドミントン部に温かい応援をどうぞよろしくお願い致します！

### 一体感

2023チーム副主将 徳森 愛季

1年前、先輩方からチームを引き継ぎ、私は副キャプテンとして九州高専大会連覇、全国高専大会優勝のために活動してきました。今年度のチームは「To Be・・・」というスローガンの下でチームの目標のために選手個人が自ら考え、自主的に行動することを



意識して、日々練習に取り組んできました。その中でチームとしての一体感も形成され、試合に出ることが叶わない選手たちもより一層チームのために動くようになり、他チームには絶対負けないと誇れる絆も育まれてきていました。

日々練習に励み、迎えた九州高専大会、男子団体戦においては厳しい戦いの連続でしたが、なんとか決勝まで勝ち抜くことができました。決勝戦はライバルである北九州高専との対戦でしたが、奇跡の逆転勝利などもあり、団体選手の活躍、団体戦に出られない選手の応援、ファンの方々からの応援などが実を結び激闘の末、創部初となる九州高専大会男子団体連覇を達成することができました。

また、男子ダブルスにおいても創部初の優勝と準優勝、第3位入賞、男子シングルスにおいても優勝、第3位に入賞し、創部初の全種目制覇を成し遂げ、全国高専大会への切符を掴みました。

続く全国高専大会においても激闘の連続でしたが、男子団体戦2年ぶり2回目の優勝、男子ダブルスにおいては創部初の優勝という輝かしい功績を収めることができました。

この結果は、出場選手のひたむきな努力と、応援やサポートに徹する選手全員を含めてチームとしての「一体感」、ファンの方々からの応援がゆえのものだと思います。

この「一体感」は今後もますます強くなっていき、鹿児島高専バドミントン部らしさが今よりもさらに存分に発揮されることと思います。そして、応援は必ず選手を成長させてくれます。

先輩方から受け継がれてきた鹿児島高専バドミントン部の歴史はまだこれから続きます。今後も夢に向かって成長をし続ける鹿児島高専バドミントン部にご声援をよろしくお願いいたします！

## 2連覇へ向けて

2024チーム主将 相葉 洵之介

私たち鹿児島高専バドミントン部は、第58回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技兼第47回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会、男子団体戦、男子ダブルスにおいて優勝という結果を果たしました。この結果は、日々応援してくださる、地域の方々

や保護者、顧問、副顧問の先生方など全ての人達のサポートや支えを受けて果たすことができた結果だと思っています。

一昨年の全国高専大会男子団体戦において初優勝を果たしてから、団体2連覇、個人種目での優勝を目指していましたが、出場できず悔しい思いをしました。悔しい思いがあったからこそ、今年は九州高専大会では初戦から「勝つ」という言葉を胸に、いつも以上に力を入れて戦いました。その思いを胸に戦った九州高専大会の男子ダブルスにおいては、2年連続の決勝に進出することができ、決勝戦では仲間である鹿児島高専のペアと対戦することになりました。結果としては負けてしまい準優勝という結果でした。練習では、いつも勝っている相手だったので、とても悔しい結果となりました。

しかし、お互いに全国高専大会の出場が決まっていたので、全国ではリベンジできるように、人一倍、意識を高めて練習し、常に試合をイメージしながら練習に取り組みました。その結果、全国高専大会の男子ダブルス決勝において九州大会で破れた鹿児島高専のペアと決勝で対戦することになりました。厳しい戦いでしたが「勝つ」という気持ちが背中を押してくれ、鹿児島高専バドミントン部初の全国高専大会男子ダブルスにおいて優勝という結果を残すことができました。日本一を達成するには、日々の練習での意識を高く持つことが大切ということ学びました。

来年は、男子団体戦の創部初の2連覇、個人戦においても男子ダブルス2連覇、そして、男子シングルスで優勝して全国高専大会三冠を達成したいと思います。そのためには、メンバー全員で日々高い意識をもち練習に励みたいと思います。2連覇をすることの厳しさを去年知ることができたので、キャプテンとしてその反省を活かし、チームを全国制覇へ導き、個人としても最後の年で三冠を達成して、結果で関係者に恩返しをしたいと思っています。





## 全国高専弓道大会を終えて

弓道部部长 都市環境デザイン工学科4年  
福元 理桜

弓道部は今年度の第10回全国高等専門学校弓道大会において、女子団体が準優勝ならびに射道優秀賞という結果を取ることができました。

今回の大会では制限時間が設けられていたため、制限時間内で所作や射形を意識しながら的中率を上げるということが大変でした。大会前は時間を計りながら練習を繰り返し、ようやく時間内に取ることができたときはホッとしました。

射道優秀賞は弓道連盟霧島支部の西田ヨシエ先生、二宮義一先生に指導していただいたことで得られた結果だと思います。夏休みの練習の際、所作や体配などを細かく丁寧に指導していただいたことで、本番では自信をもって堂々と弓を引くことができました。本当にありがとうございました。

今回の全国高専大会では優勝することはできませんでしたが、自分たちなりに楽しく弓を引くことができましたと思います。今回の大会を通して得た経験や先生方に教えていただいたことを生かし、来年の全国高等専門学校弓道大会では男女ともに結果を残せるよう、日々の練習を頑張ります。これからも応援、よろしくをお願いします。

## 日々努力

機械工学科3年 山田 莉世

私は中学校から弓道を続けています。継続することは簡単ではなく、自分の射について納得するまでひたすら考えていました。しかし、今まで一度も自分の射に納得することが出来なかった悔しさがあったので、高専でも続けています。

今年は、他高専との合同練習や弓道連盟霧島支部の先生方に射形指導をして頂くなどの機会が多くありました。また、調子が悪いときには先生方や先輩方にアドバイスをしてもらい、充実した活動が出来ました。苦しく辛いこともありましたが、「弓道は中てることよりも射が肝心である」ことを心がけて練習をしました。

九州大会は全く調子が出ず、今まで練習してきた意味を見失うほどでしたが、途中で諦めることはしたくなかったので、チームのために何が出来るかを一生懸命考えて臨みました。結果は、女子団体準優勝と個人5位という結果が残せました。また、全国大会では女子団体準優勝と個人準優勝という結果が得られました。そして、団体での射道優秀賞の獲得が私にとって一番嬉しく、弓道の素晴らしさを感じられた結果でした。

これからもサポートして下さる先生方や先輩方、同級生、後輩、保護者への感謝を忘れず、日々努力していくことを大切にしていきたいです。今後も鹿児島高専弓道部を応援していただけたら嬉しいです。

## 全国弓道大会に参加して

都市環境デザイン工学科4年 福元 理桜

私は今回の第10回全国高等専門学校弓道大会で個人の部で3位という結果を残すことができました。こうして結果を残すことができたのも、これまで支えてくださった皆さんのおかげだと思います。

今回の大会では、鹿児島高専の参加選手の中で自分が一番上の学年ということで、後輩たちに負けられないように頑張ろうと思う反面、プレッシャーに感じることもありました。しかし、両親の応援や、先生やメンバー同士での声掛けなどのおかげで落ち着きを取り戻して弓を引くことができました。

大会に向けて練習をするなかで思うような射ができず思い悩んだ時は顧問の先生方や先輩にアドバイスをいただいたことで、冷静になり客観的に練習を行うことができました。また、今年は都城高専弓道部の皆さんと合同練習をしたり、弓道連盟霧島支部の先生方にもご指導していただいたりしていたため、自信をもって試合に臨むことができました。

部長として活動するのは残り僅かとなってきましたが、自分が楽しく弓を引くことができることに感謝し、これからも自分の射を磨き続けたいと思います。



## 全国高専大会 3位・不完全燃焼

ハンドボール部 都市環境デザイン工学科5年  
堀之内 太凱

鹿児島高専ハンドボール部は、九州沖縄地区高専大会優勝、および全国高専大会入賞に向けて日々練習に励んでいます。令和5年度は、目標としていた九州大会で優勝、そしてハンドボール部初の全国大会3位入賞という結果を残すことができました。

思い起こせば、私が入部した令和元年度に、それまで毎年のように優勝していた北九州高専に打ち勝って初めて九州大会優勝を経験させてもらいました。

そこから昨年度まで、九州大会優勝という結果を残しており、私は「自分が5年生になったときにこの結果を残せるか」というプレッシャーが募りました。さらに、就職活動や進学活動があり、中々練習だけでも励むことができず、大会に臨むことが不安でした。

しかし、仲間や後輩達、先生のサポートもあり、練習にあまり来ることができなかった私を暖かく迎えてくれ、試合も楽しみながらプレーできました。結果として、九州大会優勝を果たすことができ、全国大会出場への切符も掴み取りました。

全国大会では、初となる入賞を果たすために、チーム一丸となって取り組みました。試合の組み合わせが決まった際に、ミーティングを開いて、対戦相手の試合動画を確認し、戦術を練っていきました。前日や試合直前まで確認を行い、試合ではそれらをみんなが100%出し切り、予選リーグを突破することができた時には本当に嬉しかったです。

決勝トーナメントの準決勝では、過去の全国大会で敗れていた山口県の高専と戦うことになり、「今年こそは勝つぞ」という心意気で挑みました。前半は、7点差をつけられ、やはり力の差を感じてしまいましたが、タイムアウトのとき、4年生の後輩が「たいがさん、まだいけますよ」と励ましてくれたうえに、試合再開直後に連続得点を決めてくれ、そこからどんどん試合の流れを掴んでいきました。後半戦になると、みんなのオフェンスやディフェンスにも勢いがつき、2点差まで追いつきましたが、ディフェンスの要である選手が大怪我をしてしまうというアクシデントが起きてしまいました。私はハンドボールをする中で、みんなで怪我なく楽しんでプレーすることを第一に考えてい

たので、彼の試合に出たいという気持ちを胸に最後まで全力でプレーしましたが惜しくも準決勝敗退となりました。3位という結果となり、嬉しかった反面優勝できなかったことが悔しくもありました。私達5年生は卒業しますので、後輩たちに全国大会優勝を託したいと思います。

先生方へ。1年生の頃から私達のために色々練習試合や外部コーチを呼んでくださりありがとうございました。また、就職活動などの相談にも応じてくれ、部活以外でもとても頼りになりました。本当にありがとうございました。

4年生へ。先輩後輩という関係ではなく、友達のような関係で接することができました。4年生のおかげで九州大会も優勝できたとし、練習や大会でもとても楽しく過ごすことができました。来年も優勝してね。

3年生へ。甘えるのが上手でいつもかわいいなと思っていました。今の4年生たちはわんぱくな子たちが多いので引張って行ってあげてください。

1・2年生へ。LINEでもハンドボールのことを積極的に聞いてきてくれ、ハンドボールを好きになってくれて嬉しいです。これから5年間大変なこともあると思うけど、辞めずに頑張っ

最後に5年生、学科は違うけれど、プライベートでも遊ぶぐらい仲が良く、仲の良さがプレーにもつながり、私も5年間有意義な部活動を過ごすことができました。そして、ハンドボールという競技を5年間続けてくれてありがとう。

部長として不甲斐ない部分もたくさんあったと思いますが、最後まで私達についてきてくれてありがとうございました！またみんなでハンドボールしましょう！





## 全国高専大会団体第三位

剣道部 情報工学科3年 園田 健治郎

僕は小学校1年生の頃から剣道を続けていて今年で12年目になりました。今では鹿児島高専剣道部の一員として文武両道を心に稽古に励んでいます。ここまで一つのことを続けてきたのは自分でもとても誇りに思っています。また、いつも支えてくれる保護者の方々や顧問の先生方、そして共に日々稽古に励む剣道部のみんなにはとても感謝しています。

この感謝の気持ちを伝えるために大会で結果を残したい。その思いを胸に今年の高専大会に臨みました。去年の団体戦は思うような結果を残すことができず、九州大会止まりでした。悔しい思いをした去年のリベンジを果たし、良い結果を残すために日々努力を惜しみませんでした。そして今年九州大会は団体準優勝、個人戦優勝を勝ち取ることができました。全国大会への切符を手に入れ、チームのみんなもモチベーションが高まり、さらに稽古に励みました。全国大会自体は夏休み期間中にあるので、夏休み中も寮で生活しながら

ら稽古に励みました。そして今年全国大会では第三位という結果残すことができました。この結果はチームのみんなで丸となったことで取ることができたと思うので僕はとても誇りに思いました。そして日々支えてくれるたくさんの方にしっかりと結果で答えることができたのでとても嬉しかったです。今年大会からも自分の課題はたくさん見つかったので、これからも稽古に励むと同時に勉強面のことも頑張りたいと思います。

今年一年はいろんな面で学ぶことが多くありました。しかし、学ぶことが多くあっても活かさなければ意味はありません。今年反省を生かし、来年は今年よりも様々な面で良い一年にしていきたいと思います。



## 全国高専大会を通して

柔道部・情報工学科2年 尾辻 朱蓮

昨年度、私は全国高専大会の準決勝で手も足も出ないまま負けてしまい、悔しい思いをしました。この悔しさを胸に、日々、練習に励んでいます。

久留米で開催された九州高専大会では、男子個人81kg級において全試合一本勝ちで優勝しました。前回は準優勝だったので、この結果はとても嬉しく、自信になりました。そして、千葉県で開催される全国高専大会への出場権を得ました。

気持ちを切り替え、全国高専大会に向け練習に励んでいる中、体重管理が上手くいかず、1週間前に5kgオーバーという、私の柔道人生で最も危険な状況に陥ってしまいました。有酸素運動はもちろんのこと、食事制限を設けるなどして体重を落としました。そして、何とか計量をクリアし、大会に出場することができました。

いざ全国の舞台に立ってみると、周りには強い人ばかりで緊張してしまいましたが、先生方や柔道部の仲

間に励まされ、気合いが入り、落ち着いた状態で試合に挑むことができました。結果は、前回と同じ第三位で個人的に悔しい結果になりました。

試合を通して、組み手や技のテクニック、スピードなど実力不足な部分が多く見つかり、まだ努力が足りないと感じました。そして、技が上手な選手たちの試合をじかに見て、良い勉強になりました。

来年こそは、決勝進出できるように、今後も努力していきます。そして、5年生までに必ず全国高専大会優勝してみせます。



## 大将として挑んだ最後の高専大会

将棋・囲碁部 機械工学科5年 日高 勝十

今年の全国高専将棋大会は岐阜で三日間開催されました。持ち時間は25分、時間切れで負けになります。団体戦は大将、中将、三将が同時に対局し二勝したチームが勝ちになります。メンバー紹介。大将：私 中将：公園を愛し公園に愛されたK君 三将：期待のY君 補佐：O君。緊張の団体戦一回戦は、みな危なげなく勝利しストレート勝ちの好調な出だしでした。二回戦。ここまで大将勝ち、三将負けなので中将戦の結果がそのままチームの行く末を左右します。最終盤。K君は勝利目前にて怒涛の攻めを披露します。が、失敗しました。相手玉が詰まなくなり焦りを隠せません。対する相手方の中将は冷静な面持ち。時間がない中、最後は華麗な詰みで鹿児島高専の勝ちを拾ってくれました。後日談になりますが、K君は当時「テキトウに王手したら勝てるっしょ（笑）」とたかをくくっていたそうです。結果は2-1と薄氷の勝利で無事一日目を終えました。二日目の朝、団体戦三回戦。準決勝進出を賭けた大事な対局です。二回戦までは相手の無理攻めを

的確に答めて完封することができましたが、流石に三回戦ともなると一筋縄ではいかなくなり、激しい攻め合いになります。最後は残り数秒の中、なんとか詰ますことができました。大将として負けられないという気概が勝利を手繰り寄せたのだと思います。結果は2-1と辛くも私達は準決勝へと駒を進めました。K君の「あ、負けました」を聞いたときは絶望でしたが、Y君の「あ、勝ちました」でめっちゃ元気になりました。「負けてもまだ可能性がある。」という団体戦ならではの味わえたのは今でも強く印象に残っています。準決勝ともなると会場は別室に移り「ここまで来たんだなー」とワクワクと緊張が一気に押し寄せてきました。準決勝。大将戦は盤面の駒が入り乱れる大熱戦。終盤は超早指しで互いに時間切れ負けがちらつく中、私は王手放置の反則負けを喫しました。大将として初の黒星は、ストレート負け。団体戦の敗退でした。鹿児島高専将棋・囲碁部として初の団体戦第三位を成し遂げられたのはO君の尽力も大きいです。補佐として対戦校の特徴や得意戦法などを調べてくれたため対局時、非常に参考になりました。来年こそは優勝してくれると信じています！

## 地区高専大会優勝への決意

男子バスケットボール部 都市環境デザイン工学科4年  
加世田 拓弥

昨年の7月1日、2日に北九州市で開催された九州沖縄地区高専大会において鹿児島高専は第3位に入賞しましたが、私にとってとても悔しい結果でした。まず、前回の地区高専大会ではスターティングメンバーとして出場したものの、全く活躍できずに歯痒い思いをしていました。そこで、今回こそ活躍してみせると意気込んで臨んだ地区高専大会でしたが、自分のミスが続いてしまい、試合にすら出られない状況になった時もありました。その中で1日目の予選リーグでは、同級生や後輩が頑張ってくれて、都城高専と沖縄高専に勝ち、決勝トーナメントに進出できたこと、ベンチや応援席からの声援、先輩のサポート、外部コーチのアドバイス、本当に感謝しています。

今年1年間は、あまり自分の成長を感じることができず、何も考えずに単に練習をこなすだけの時間を過

ごしていることに不安を覚えていた私でしたが、周りのみんなが自分に気合いを入れてくれたおかげで、2日目の決勝トーナメントではいつもどおりの自分を見せることができました。忙しい中わざわざ私たちのために練習を見に来てくれる外部コーチに私は地区高専大会の優勝という形で恩返しをしたいと思っています。私の最後の高専大会まであと半年、悔いの残らないよう精一杯頑張りますので応援よろしくお願ひします！！







## 高専大会に参加して

電子制御工学科5年 小久保 光

こんにちは。女子バスケットボール部です。私たちは部員11名、顧問3名で週に4回練習を行い、楽しくバスケットボールをすることをモットーに活動しています。

女子バスケットボール部は、令和5年度の九州沖縄地区の高専大会で3位入賞しました。大会に臨むにあたり、前年度以上の目標として、決勝進出を目標に練習に取り組んできました。

結果を残すために、フィジカル面の強化や、コート内での動き方のルールを作り、それを試合で使えるレベルまで練習を重ねました。予選リーグでは、熊本高専八代キャンパスに、68-51で勝利、大分高専に64-31で勝利し、予選リーグを突破しました。翌日の準決勝で、北九州高専に42-48で負け、準決勝敗退となりました。準決勝は過去のどの試合よりも試合の入りがよく、自分たちの流れで進められていましたが、徐々に追いつかれ、最終的に負けてしまいました。敗因としては、攻撃をパターン化しすぎたことにより、そのパターンを相手に封じられたときに攻められなくなっ

てしまったことだと思います。この反省を活かし、次の大会では、個人スキルを向上させ、決まった動きだけでなく個々の技術とチームプレーを組み合わせながら戦っていききたいと思います。

私はキャプテンとしてこの大会に出場しました。キャプテンといっても部員を格好良く引っ張っていきけるような性格ではないため、キャプテンとしてチームに貢献できたかどうかは不安しか残りませんが、部活動を通してたくさんのことを学びました。特に部員全員の個性を生かしつつ、チームとして同じ方向を向くのはとても難しいことだと実感しました。この経験は、これから様々な人と関わるうえでとても貴重な経験になったと思います。部活動で楽しく、たくさんの経験と学びを得ました。この環境に感謝して学んだことを今後の人生に活かしていきたいです。



## 九州沖縄地区高専大会を通して

都市環境デザイン工学科4年 山崎 英司

今年の九州沖縄地区高専大会テニス競技は、新型コロナウイルスによる制限が解除された大会でした。そのため、他高専の人ともコミュニケーションを交わり、親睦を深めることができました。

大会は、団体戦と個人戦があり、個人戦シングルスは入賞とはなりませんでしたが、個人戦ダブルスでは3位入賞、団体戦では準優勝という結果を残すことができました。個人戦ダブルスでは、昨年ペアを組んでいた先輩が卒業されたこともあり、後輩とペアを組みました。私は、緊張などによりプレーに不調をきたしていましたが、後輩のサポートもあり、準決勝まで順調に進むことができました。しかし準決勝では実力不足もあり、全国大会を目の前に敗けてしまいました。

今回は個人戦で全国高専大会に出場していたため、とても悔しかったです。

試合には敗けてしまいましたが、そこで学ぶことも

多くあり、今まで深く関わることの無かった後輩との関係を深めることができたと思っています。

団体戦では、試合中、後輩に大いに助けられ、目標であった全国高専大会に出場することができました。優勝は逃しましたが、今までに戦ったことのないプレースタイルの相手と試合をするという経験ができ、試合を楽しむことができました。

来年は、高専生活最後の高専大会となりますが、個人戦、団体戦共に全国高専大会に出場できるように日々努力していきたいと思っています。





# 学生の活躍～鹿児島国体編～

## クライミング

電子制御工学科3年 愛甲 裕大

皆さんこんにちは。僕は10月8日から10日に行われた鹿児島国体のスポーツクライミング競技に出場してきました。

国体ではスポーツクライミング競技は二人一組のペアで行い、4～5m程の壁にある4つのルートを二人一組で制限時間内に登り順位を競う「ボルダリング」と、高さ15mの壁を、ロープをつけ、約1mの間隔で壁にあるカラビナにロープをかけながら登り、頂上を目指す「リード」の二種目の成績とペアとの総合成績で順位を競います。何度もトライして登り切った時に達成感を非常に感じられるスポーツです。

約3年半前、クライミングと出会い、初めたとき、僕は国体の出場とか夢のまた夢だと思っていました。母にクライミングを勧められ体験しに行った日から僕のクライマーとしての人生はスタートしました。

クライミングは競技人口が少ない競技なので、選手として活動していくことが決まった時点で最終目標はこの鹿児島国体でした。強くなるため練習もトレーニングも相方と一緒に頑張ってきました。しかし、7月30日、僕は右肩を反復性の脱臼をしてしまいました。大会までクライミングのことしか考えていないくらい一直線になっていた時のことで、正直とてもショックな出来事でした。「国体の日までに競技ができる体に戻っていないかもしれない」、「もし出場できても何もできないかもしれないくらいなら出場をあきらめよう」と何度も思い悩みました。

しかし、クライマー仲間や、トレーナーさん、友達、そして家族とたくさんの人と話して、「後悔はしたくない」という気持ちが湧き出てきて頑張ってみようと思えました。

脱臼をしてからは今までの壁を使った練習は当然できなく、病院でリハビリをして、トレーナーさんにトレーニングを手伝ってもらったり、登れなくてもみんなが練習している場に参加し、地面でのトレーニングを行ったりしていきました。もどかしい気持ちもありましたが、今ここで頑張らないと絶対に後悔すると思い毎日欠かさず頑張りました。また、リハビリやトレーニングをしていく中で自分の弱点を確認することができました。

ようやく登ることができるようになったのは、国体のちょうど一か月前でした。テーピングをぐるぐる巻きに

してやっと登れました。思うように体は動きませんでしたが、登れるだけで楽しく、次の段階に進めたのだなと心の底から喜びがあふれ出してきました。壁でのトレーニングもでき、再び脱臼しないように気を付けつつひたすら登りました。

そして国体当日、いよいよ自分の今まで積み重ねてきた経験値を今の自分に出来るフルで発揮するぞと大会に望みました。他県の選手は世界レベルの選手もいて、今までにない緊張感がありました。相方と励ましあいつつ、全部出し切ろうと気持ちを高めました。

ボルダリングもリードも結果は残せなかったものの、自分の全力を出し切れたなと思います。この大会に出場するにあたって僕の今後の人生の中でも1番くらいのいい経験ができたと思います。開催、出場するにあたり、家族、コーチ、トレーナー、山岳連盟の方々、大勢の方々に支えてもらい、協力していただきました。本当に感謝しかありません。

鹿児島は他県に比べたらクライミングというスポーツが浸透してなくて、施設も少ないなと思います。クライミングを広めるためにも僕たち選手が強くなる必要があります。この気持ちは国体を通してより強くなりました。僕はこの文章を書いている現在、肩の手術を行ったため、再び壁に登ることができるまで約半年必要となっていました。今すぐに行動できることは制限されていますが、登れなくてもできることはたくさんあると思っています。今できることを全力でやっていきたいです。肩を早く良くし、競技に復帰して活躍できるように頑張りますので今後も応援していただけるとうれいす。ここまで読んでいただきありがとうございました。





## 国体を通して

情報工学科3年 竹野 いさな

私は今年開催された鹿児島国体に出場し、500m 6位、200m 7位で入賞することができました。

私がカヌー競技を始めたのは中学1年のときでした。そこから現在まで6年間続けて来ましたが、新型コロナウイルスの影響で2020年に開催予定であった鹿児島国体が2023年に延期になったり、施設が使えず練習できない時期があったりと多くのことがありました。

今年の5月に国体の選考会があり、無事出場権を獲得し、7月には正式にペアで出場することが決まりました。そこからは平日はクラブで活動し個人の調整を行い、土日は県の合同練習に参加しペアの練習をしてきました。最初は2人の息を合わせることを中心に練習しましたが、どちらも組み物に慣れておらず練習はとても大変でした。2人でアイデアを出し合い改善を重ねましたが、思うように成果が出ずとてももどかしかったです。

しかしあっという間に国体期間になり、うまく漕げないまま国体前の最後の合宿が始まりました。ある日、男子カヤックの方に一緒に乗ってもらい教わったことをきっかけに、私達は良い方向に進むことができました。そこからやっと自分たちの漕ぎが出来るようになりましたが、それでもギリギリの状態でした。

ペアを組んでから3ヶ月程しか経っていなかったですし、私達のペアが大会に出るのは今回が初めてで本当に未知の世界だったので、自分たちがどれ程の実力なのか、練習通り発揮できるのか等、わからないことだらけでした。

そんな中で迎えた本番だったので、1レース1レース



が本番であり、練習でもありました。そしてこの短期間でとても成長できたと思います。1レース1レースで満足のいくパフォーマンスをすることができた事で、このような好成績を残すことができたと思います。

最後に、私はこの国体出場を通して、またカヌーという競技を通して、人への感謝や努力すること、物事に真剣になる事、などとても多くの事を学びました。当たり前前のことではありますが、これらを当たり前になすことは簡単ではないと思います。

今回このような成績を残すことが出来たのは周りの人々の応援や支えがあったからです。両親を始め、学校のサポートや、3年越しに開催された鹿児島国体に出場できたこと、またパートナーとペアを組めたことにとっても感謝しています。そして何よりこれまで頑張ってきた自分自身にお疲れ様と言いたいです。

カヌー競技は今回で引退しますが、これまで学んできたことを糧に、これからも色々なことに挑戦し頑張っていきたいと思います。

## 国体活動を通して

一般教育科 北蘭 裕一

(一社)鹿児島県サッカー協会は、2020年の鹿児島国体へ向け、様々な強化策に取組んできた。その強化策の1つがチーム編成である。サッカー競技は、少年男子、女子、成年男子の3種別において開催され、私は2017年から2020年まで成年男子チームの監督を任されることになった。選手構成も、鹿児島ユナイテッドFCと鹿屋体育大学の選抜チームとなり、地元国体へ向け最強チームを編成する狙いであった。鹿屋体育大学チーム

を主体に、鹿児島ユナイテッドFCから補強するという構成で、2017年度は3名、2018年度は2名、2019年度は1名補強する形となった。現役のプロ選手とプロを目指してサッカーへ真剣に取り組んでいる学生へ指導する機会は私にとって非常に貴重な経験となった。技術・戦術等の指導を行うと同時に、モチベーターの役割の方も大きかった気がする。

2017年度から3年連続で九州ブロック予選を突破し、全国大会でも2017年度は5位、2019年度は3位という好成績を残し、地元開催へ向け良い流れが来ていたところ、新型コロナウイルスの影響により2020年度鹿児島国体は中止となった。そして、2023年度へ特別国体



という形で延期となったわけである。2021年、2022年は学生主事などの業務の関係で国体活動に関わることは無かったが、これまでの経験を活かして鹿児島のために何か出来ないかということで、2023年度の地元鹿児島での特別国体では、成年男子チームのコーチとしてサポートすることになった。

2023年度のメンバー構成は鹿屋体育大学の単独チームで外部の人間は私だけである。監督と選手の繋ぎ役となり、選手との距離をいかにして縮めるかを念頭に選手と関わった。素晴らしい人間性を持った鹿屋体育大学生にも助けられ、外部の私を明るく受け入れてくれた学生には感謝の気持ちでいっぱいである。そして結果は準優勝。決勝は延長戦でも決着がつかずPK戦での敗

戦となったが、決勝戦が開催された志布志市陸上競技場には1,500名を超える観客に来ていただき、ピッチと会場が一体となった雰囲気、あの景色は最高であった。日本一は達成出来ずに悔しい気持ちもあったが、2017年から国体に関わって来た自分にとっては達成感を感じる瞬間でもあった。

この誰でもは出来ない貴重な経験を、これからの学生指導や地域貢献活動にも活かし、鹿児島高専サッカー部の活躍、さらには鹿児島県サッカー発展のために尽力していきたい。



2019 茨城国体 第3位



2023 鹿児島国体 準優勝

## 「高専の森」植樹式

一般教育科 町 泰樹

令和5年3月6日(月)に、高専制度創設60周年事業の一環として、全国の国立高等専門学校が記念樹を植樹するイベント「高専の森」植樹式を実施いたしました。

今回、植樹した木は「円熟した美人」の花言葉を持つ枝垂れ桜で、『幸せの枝垂れ桜』と命名されました。学生のWell-Beingと成長、そして未来を『幸せの枝垂れ桜』が見守る意味が込められております。

式典当日は、天候にも恵まれ式典日和となりました。式典では、校長挨拶をはじめ、森山裕衆議院議員(秘書池田和弘様)からご祝辞を賜り、その後、植樹式会場(正門前)へ移動して、記念樹の鋤入れを行い、国立高等専門学校機構谷口功理事長から謝辞をいただきました。

記念樹『枝垂れ桜』の成長とともに、自然との共生をデザインする技術者養成に努めてまいります。

鋤入れをする  
氷室校長



参加した  
学生達



来賓の方々



# 学生の活躍～学会・その他～

## JSTSによって得られた自信

電子制御工学科5年 盛 南洋

私は、今年度 JSTS2023 というセミナーに参加者兼 JSOC（運営）として携わりました。

この JSTS に参加者・JSOC として携わることでいろいろな学びや成長が得られたと思います。この記事ではその中でも特に、JSTS 参加者として1番成長した部分である“自信”について書いていきたいです。

私のチームは5人で、日本の学生が2人、留学生が1人、オンラインで参加した海外の学生が2人という構成でした。話し合いは基本英語なので、私ともう1人の日本人学生は最初、会話を聞き取ってついていくので精一杯でした。（実際は日本語も織り交ぜての会話でしたが…笑）

しかし、話し合いに積極的に参加するために、翻訳アプリも使用しながら英語を話していると、チームのメンバーに自分の意見を伝えることが出来ました。一度下手な英語でも伝わったことで、さらに英語で発言

していくことが出来るようになり、“自分の英語が下手でも伝える意思があれば会話はできる”という自信に繋がりました。

この自信がついたことで、今は JSTS2023 に参加する前と比べて積極的に英語を話すことが出来るようになりました。これによってさらに自信を深めて、さらに英語を話すようになるという、好循環に入れたと思います。

もしこの記事を読んでいる学生の中に、「英語を話せるようになりたいけど最初の一步が踏み出せない」という人や、「英語の勉強はしているけど話す練習が出来ていない」という人が居たら、ぜひ JSTS のような高専機構主催の英語セミナーや本校で行っている海外研修などに参加してみてください！絶対にあなたの英語学習に役立つと保証します！



## JSTS活動を通じた学びと成長

情報工学科5年 山下 紗季

私は本年度、鹿児島高専が主催した JSTS2023 に JSOC（運営メンバー）兼、セミナー参加者として携わりました。

JSTS とは、持続可能な社会構築への貢献のための科学技術に関する日本セミナーであり、各高専、技科大、海外大学の学生が参加します。

本年度の JSTS では、架空の都市「KOSEN City」の様々な SDGs の課題に対して、AI の活用や論理的思考を通じての解決策を議論しました。

JSOC メンバーとしては、テーマの選別、各種資料の作成、リハーサルなど、約半年にわたり準備を進めました。この活動を通して、準備と計画の重要性、それを実践することの難しさを主に実感しました。

本番のセミナーでは、私たちのチームはタイ、マレーシア、スリランカ、日本からの学生5名で構成され、英語での議論を進めました。オンライン参加者も含め、と

ても速いテンポの英語で話が進んでいったため、ついていくのに精一杯でしたが、諦めずに、拙い英語ながらも自分の意見を伝えたことで、議論に積極的に参加でき、自信へとつながりました。

また、同じ工業を学ぶ学生として、英語だけではなく、様々な効率化ツールや話し合いの進め方など、技術面でも多くのことを学びました。

セミナーに参加した主な目的は英語力向上でしたが、結果として SDGs などの社会問題への意識を高め、論理的思考を通じた問題解決法を学び、国内外を問わず広がる交流の機会を得ることができました。これらの貴重な経験と学びを提供して下さった方々に深く感謝し、今後の活動やキャリアに活かしていきたいと考えています。







# 地域と共に

## フットパス・コースマップ作り

鹿児島高専×伊佐市大口東校区コミュニティー  
一般教育科 熊 華磊

今年度は昨年度に続き、伊佐市の地方自治体と連携して学生の夢を実現する鹿児島高専 SSD 活動を行いました（昨年度の活動は鹿児島高専だより第 77 号 p18 をご参照ください）。今年度のメンバーは電子制御工学科 5 年生 2 名と都市環境デザイン工学科 2 年生 4 名の計 6 名です。伊佐市大口東校区コミュニティー（以下大口東校区）の方々と一緒に、1 年近くをかけて「ほしがみねさんぽ」というフットパス・コースマップを作成しました。早速成果物の一部をご覧ください。



今回は 3 つのコースを作成しましたが、上図はその 1 つです。マップの部分はもちろん、象徴的な景色やモニュメントなどを魅せるイラストや、マップに面白さをもたらすキャラクターや謎解きなども、すべて学生による作品です。では、今回の活動経緯について簡単に紹介します。

大口東校区の方々と初めて活動内容について打ち合わせた際、フットパス・コースマップを作ってほしいと依頼されました。フットパスはイギリス発祥で、「歩くことを楽しむための道」を意味するものです。散策しながら、地域の魅力を発見したり、地域の人と交流したりして楽しむものです。大口東校区にはすでに市が作成したコースが 1 つ存在していましたが、それだけだと地域の魅力に十分に触れられず、また、地域の人々の思いが十分に反映されたものではありませんでした。そのため、数年前から地域の方々自らでフットパス・コースマップを作成しようという思いがあったそうです。し

かし、地元の人だけで作ると、どうしても日常見慣れた景観から魅力を見落としてしまいがちなので、今回高専生が依頼されたわけです。地域の人々の思いに応えるべく、今年度は計 6 回、大口東を訪れました。そのうち 3 回はそれぞれのコースを巡見しました。特に 2 回目は、大口東小学校の 6 年生と一緒にコースを散策し、楽しい交流ができました（下図）。あとの 2 回は作成の途中で地域の人々と対面ですり合わせを行いました。台風の後で、フットパスコースが散らかってしまっていたため、学生たちがボランティアで清掃を行ったこともありました。



現地での活動を通して、学生たちは自らの視点で大口東の魅力を発見し、コースマップ作りに反映しただけでなく、2 つの魅力的な提案をし、実現できました。1 つは、大口東小学校の生徒から地域を代表するキャラクターのデザインを募集し、応募した作品の中から優れたものを選定し、さらに手を加えてそれぞれのコースマップに登場させたことです（右図）。もう 1 つは、それぞれのコースマップに簡単なクイズを設定し、地域の人々に協力してもらい、詳細な解説を付け加えたことです。



このように、学生たちによる様々なアイデアと、継続的な努力、そして地域の人々の協力により、立派な成果をあげることができました。

教室を飛び出し、見知らぬ地域を歩き、地元の方々と交流し、「正解」が用意されていないフットパスマップを自分たちで作り上げる今回の SSD 活動は、学生たちにとって非常に楽しく、強く印象に残る活動になりました。この活動を通して蒔かれた「種」が、それぞれの学生の将来において芽生え、花を咲かせることを願っています。





## 吹奏楽部・巡回演奏旅行

情報工学科5年 森山 滉平

吹奏楽部では、毎年7月に巡回演奏旅行を行っています。巡回演奏旅行とは、バスで移動しながら鹿児島県内の小学校やこども園を訪問し、子供たちの前で演奏する活動です。基本的には1日2校から3校訪問し、2泊3日で行われます。技術の向上とボランティア精神の育成のために、約40年間にわたり毎年実施しています。昨年までの3年間は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、やむを得ず中止してきましたが、今年は4年ぶりの再開となりました。

鹿児島県内を北薩・南薩・北大隅・南大隅の4つの地域に分けて、毎年地域を変えながら訪問します。今年は南大隅で演奏しました。生の音楽に触れる機会の少ない、県内でも都市部から遠く離れた地方の学校（特に小規模校）を中心に巡回し、音楽の楽しさや楽器のおもしろさを伝えることを目的としています。

パフォーマンスとしては、「おもちゃのチャチャチャ」や「いぬのおまわりさん」などの童謡、「名探偵コナン」といったカッコいいアニメソング、YOASOBIの「アイドル」といった流行りの曲を演奏しました。童謡ソングでは、特に小学校低学年のみんなが私たちの演奏に合わせて一生懸命歌ってくれました。

また、部員たちは、立ち上がったたり、左右に動いたり、楽器をぐるぐる回したりといった振り付けも入れながら演奏しました。YOASOBIの「アイドル」では、5人の部員が子供たちの目の前でダンスをし、とても盛り上がりました。

さらにトランペットやサクソ、金管楽器の中で最も大きいチューバなどの楽器を紹介したり、子供たちが指揮をして私たちが演奏したり、楽器についての○×クイズをしたりと、盛りだくさんの内容を40分ほどで行いました。ただ聴くだけでなく、たくさん参加する機会を設けて、子供たちといっしょに演奏会を作っていくのが特徴です。

なかでも注目してほしいのは、子供たちが指揮をして、私たちが演奏する取り組みです。この取り組みでは、学校を代表して2人の子供たちに、ドレミの歌やアンパンマンのマーチの指揮をしてもらいます。顧問の松田先生から、子供たちに指揮の振り方を教えますが、子供たちには「曲のテンポを速くしたかったら急に速く



振ってもいいし、遅くしたかったら、ゆっくり振っていいんだよ」と伝えます。これは、演奏者は指揮を見て、テンポを取って演奏していることを実感してほしいからです。指揮をしてくれる子たちは全員初めてでしたが、半分くらいの子たちは器用に指揮してくれました。こういった活動を通して、音楽の楽しさや楽器のおもしろさが伝わったかなと思っています。

私自身が何よりうれしかったのは、子供たちの笑顔です。子供たちに楽しんでほしい、喜んでほしい、そんな思いで演奏中に表情を作ったり、手拍子をお願いしたり、手を振ったり、いろんなことをしますが、子供たちは全部覚えてくれます。その姿が、本当にうれしくてかわいくて、演奏しながら涙が出てきそうになりました。泣いちゃいけないと必死にこらえて、無理やり笑顔を作って、大満足の巡回演奏旅行でした。

実は後日、子どもたちから感謝のお手紙が届きました。その手紙には子どもたちの自筆で、「アイドルを踊っていて、楽しかった！」や、指揮に挑戦した子からは「指揮をもう一回したい！」、など様々な感想をもらいました。子供たちに直接伝えることはできませんが、私たちからも改めて感謝を伝えたいです。

これからも吹奏楽部ではこの活動を続けていきますので、引き続き応援をお願いします。

## あいら若者まちづくり会議

機械工学科4年 北迫 生海

8月23日にイオンタウン始良で行われたあいら若者まちづくり会議に、始良市出身の学生会役員3名で参加させて頂きました。

この会議では、鹿児島高専と始良市内の高校の代表者が集まり、始良市長と今後の始良市の街づくりについて話し合いを行いました。始めに、始良市の強みは何なのか、未だ知られていない始良市の良さとして何があるのか、また、その情報をどのようにして発信していくか等の意見交換を行いました。この意見交換を行ったことで、始良市の現状を把握し、話し合いの方向性を理解することが出来ました。その後、実際に今後どのようなイベントを行いたいのか、どういった年齢層の人達を対象にするか等の話し合いが行われました。より狙いを絞って話し合いを行うことによって徐々に意見が現実味を帯びて来ました。

私は会議の中で2つの意見を述べました。1つ目は「始良市でのスポーツイベントの開催」です。老若男女問わず幅広い年代の人を呼び込むことが出来ると思えました。2つ目は「観光地等への交通環境の整備」です。折角イベント等を企画しても、中・高生は金銭的な面において交通手段に困ると思ったからです。

今回のあいら若者まちづくり会議に参加させて頂いたことで、今後の学校生活や人生に活かして行けることを沢山発見することが出来ました。話し合いを行う際に如何に発言しやすい雰囲気を作るか、また、出た意見に対して様々な視点から着目し、如何により良いものにして行くか、出た意見の整理を行って次に考えなければいけないことを明確にすること等です。これまで学校生活において何度も話し合いを行なって来ましたが、今回の経験を活かすことが出来たら、一味違った話し合いを行なえるのではないかと思います。今回、学生会として参加させて頂きましたが、学生会のみならず多くの学生が外部の方々と交流し沢山のことを学ぶ機会が今後増えることに期待したいです。

## 真孝自治会花壇植替協力

学生主事補(美化) 逆瀬川 栄一

皆さん、こんにちは。突然ですが、皆さんは正門向かって左側にある花壇はどこの花壇かご存じでしょうか。実は、鹿児島高専のものではなく、真孝自治会の花壇です。この花壇は、自治会の会員である、子供さんからご年配の方々が定期的に花の植え替えをしたり、草取りをしたりして管理されています。皆さんの中には、鹿児島高専の花壇と思っておられた方も多いのではないでしょうか。鹿児島高専は、真孝自治会の皆さんのお陰で、学校周辺を綺麗に保っているとも言えます。現在、本校は、地域の皆さんとのWell-beingな関係づくりを推進しています。そこで、鹿児島高専が日頃からお世話になっている地域の皆さんへの感謝の気持ちとして、6月3日に花の植替の協力を行いました。参加してくれたのは、本校学生会15名と寮生会の5名です。また、当日は上田校長先生もご参加いただき、学生と一緒に、作業を行いました。早朝7時半から真孝自治会の方と協力して作業を行いました。このほかに、9月7

日にサッカー部の皆さんが、1時間程度、40名にて草取りの協力を行いました。また、11月12日にも、冬の花植えの準備のために、枯れた花と雑草抜きの協力を行いました。自治会長の方からは、「学生会、寮生会、サッカー部の皆さんが協力してくださり、非常にありがたいです」と嬉しいお言葉をいただいています。学生の皆さんは、地域住民の方や子供たちとも触れ合い、非常に有意義な時間となりました。今後も真孝自治会との協力をはじめ、地域貢献できる学校を目指していきます。







## 高専生のための地域企業研究会

地域共同テクノセンター副センター長  
瀬戸山 康之

令和4年12月7日（水）に「令和4年度高専生のための地域企業研究会」を霧島市隼人体育館にて対面形式で開催いたしました。本研究会には、鹿児島高専の産学官交流組織である鹿児島高専テクノクラブ（KTC）の会員企業59社がブースを設置し、本科4年の全学生と、本科3年と専攻科1年の希望者を含めた240名が参加しました。本研究会は、学生が地域企業についてより理解を深めることを目的としており、地域創生推進事業の一環として本校とKTCが連携しながら開催しているものです。また、地域企業が持つ技術力や研究・開発への取り組み状況、それらの地域企業で活躍しているOB・OGからの生の声、地元企業で働くことの魅力等、今後の就職活動を行うための知識の習得、就職の選択肢としての会員企業に関する情報収集等の機会にもなっています（図1～図7参照）。

開催にあたり、新型コロナウイルス感染拡大防止策として、参加学生には事前に検温を実施し、参加企業には体調等確認シートを提出していただきました。ブース内とブース間の間隔を広く保ち、会場の出入り口付近にアルコール消毒液と体温計を設置するなど、十分な対策を講じて開催いたしました（図8参照）。

令和4年度は、参加学生に表1に示すタイムスケジュールで各ブースを回ってもらいました。フリータイムの時間を2回設けることで、学生自身が興味のある企業の説明を聞きに行く機会を増やしております。参加学生からは、「多くの企業の話聞くことができ勉強になった」という感想がありました。また、参加企業の方からは、「学生からの積極的な質問もあり、伝えたいことをしっかりと伝え、理解していただくことができた」等の意見が寄せられました。

本研究会は、令和5年度も12月5日（火）に霧島市隼人体育館にて対面形式での開催を予定しております。参加企業数は66社と過去最多となり、より一層の活気が予想されます。また、令和5年度は保護者の参加も可能としております。本研究会が、学生だけでなく保護者の皆様にとっても地元企業への理解を深めていただく貴重な機会となっただけの事を期待しております。



図1. 企業研究会全景



図2. 機械系ブース



図3. 電気系ブース



図4. 制御系ブース



図5. 情報系ブース



図6. 建築・土木系ブース



図7. 霧島市のブース



図8. 感染拡大防止策



図9. 学校主催者挨拶



図10. KTC 鶴ヶ野会長挨拶

表1. タイムスケジュール

開 会	14:00～
学校主催者挨拶（図9）	14:00～14:05
KTC 会長挨拶（図10）	14:05～14:10
企業研究会スタート	14:15～
（第1回説明）	14:15～14:35（20分間）
（第2回説明）	14:40～15:00（20分間）
（第3回説明）	15:05～15:25（20分間）
（フリータイム1回目）	15:30～15:50（20分間）
（フリータイム2回目）	15:55～16:10（15分間）





# 「学ぶ」から「教える」へ～高専生が先生に！～

## 高専生によるオンライン出前授業 ～離島小学校への地域貢献とSTEAM教育～

一般教育科 池田 昭大

鹿児島高専の Supporting Students Dreams（鹿児島高専 SSD）は、学生を主体とした地域貢献や学生のコンテスト参加をサポートする取り組みです。令和5年度の SSD 活動の1つ「小学校への出前授業と科学館イベント」について報告します。

本活動には4年生6名が参加し、「小学校への出前授業」と、「鹿児島市立科学館でのアウトリーチ活動（科学振興活動）」を実施しました。小学校への出前授業は全8校へ、科学館でのアウトリーチは全2回（2024年1月実施予定のものを含む）実施し、大きな活動となりました。学生は地域社会への貢献をするとともに、活動を通して様々な経験を得ることができました。

「小学校への出前授業」について詳細を報告します。「光・電磁波」をテーマとしたオンライン出前授業を奄美大島と与論島の小学校8校に対して実施しました。実施した小学校は以下の通りです。

奄美大島：

- 緑が丘小学校（9月5日）
- 笠利小学校（9月9日）
- 屋仁小学校（9月9日）
- 節田小学校（9月14日）
- 佐仁小学校（9月22日）
- 手花部小学校（10月13日）

与論島：

- 茶花小学校（9月9日）
- 与論小学校（9月22日）

授業を受けた児童は総勢154名となり、多くの児童に対して出前授業を行うことができました。2校同時の実施もすることができ、オンラインのメリットを活かすことができました。

出前授業は前半を講義、後半を工作としました。講義は、光や紫外線など太陽からの電磁波について学び、光の特性や、紫外線などへの理解を深められる内容としました。様々な光の現象を通して理科の面白さを伝えるとともに、紫外線への対策など、防災という観点からも授業を行いました。



オンラインで工作の説明をする様子



工作物の例（光のステンドグラス）

授業後半の工作では、光に関する工作を行いました。「きらきら万華鏡」、または「光のステンドグラス」と名付けた、工作を行いました（小学校毎にどちらか一方の工作を実施）。写真の「光のステンドグラス」は偏光板というものにセロハンテープを重ねて貼り、その面をもう一枚の偏光板で挟むと様々な色が見えるというものです。間に児童が書いた絵を挟み、オリジナルのステンドグラスを作りました。

出前授業後のアンケートでは、参加した児童154名のうち、77%の児童が「今日のお話（講義）は楽しかった」と回答、95%の児童が「今日の工作は楽しかった」と回答、76%の児童が「理科がもっと面白いと思うようになった」と回答しました。SSDを通して小学生へ理科の楽しさや魅力を伝えられたと思います。



## 鹿児島県警からのサイバー防犯 ボランティアの委嘱

電子制御工学科 講師 福添 孝明

この活動は K-SEC（高専機構が主導するサイバーセキュリティ人材育成事業）の一環である。2019 年度当初に松田教務主事から声かけを頂き、栢健一准教授と福添の 2 名で担当しており、本科授業への教材導入や専門知識を学ぶ学生育成なども行っているが、ここでは防犯ボランティアに特化して記述する。

この活動は、学生自身が防犯に役立つ知識を教授する資料を作成し、小中学校などへ訪問して自ら講演を行うものである。大人が資料を作成すると説教臭くなりがちであるが、インターネットに触れて育ってきた学生自身が、危険に感じたことやその対処方法について語るとスムーズに聞いてくれると、訪問先の校長先生達から好評を得ている。

2019 年度には 3 名の学生が名乗りを上げてくれた。熊本高専で実施された合宿にてハッキング演習などを体験した後に、奄美大島の赤木名中学校や種子島の古田小学校などを訪問した。

この活動は、これに賛同頂いている鹿児島県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課から委嘱を受けて活動している。そのため、訪問の際には現地警察官が立ち会い、冒頭に講演の趣旨説明をして頂いている。



2020 年度に入るとコロナ禍の影響で訪問が難しくなり、また参加していた学生が卒業したため、活動継続が危ぶまれた。しかし 2021 年度には SSD が始まり、本件採択に至って新規募集したところ、4 名の学生が名乗りを上げてくれた。

奄美大島の赤木名小学校へ訪問した際には、学生達からの提案で寸劇を実施した。スマホを使って会話している学生達から漏れ出る個人情報に対して、悪役の学生が悪用しようとしている姿がコミカルに描かれ、聴講者は興味深く見ていた。また、このときはコロナ禍で技術が進んだりモートシステムを活用して、この活動に興味のある学生に遠隔聴講してもらい、次の訪問から参加するという持続可能な活動を目指す取り組みも行った。

2022 年度には、委嘱式が南日本新聞にて紹介され、その年度末には活動した学生達に対して県警から感謝状が授与されている。2023 年度は 9 名の学生が登録されており、委嘱式は KYT ニュースで放送され、ボランティア活動は軌道に乗ってきたと感じている。

これから先も防犯ボランティアのニーズが低下することは考えにくく、多くの学生が賛同して活動してくれることを期待している。

離島訪問は後援会補助を受けており感謝申し上げる。





## Robogals の活動を通して 伝えたいこと

情報工学科5年 脇田 七夏

私は、鹿児島高専で5年間学びながら、それと同時に Robogals Kagoshima のメンバーとしてボランティア活動を行ってきました。多分、この名前や活動をご存じの方は少ないのではないのでしょうか。そこでまずは、Robogals Kagoshima について説明させていただきます。

Robogals は工学分野に興味を持つ女子を増やすことを目的に、2008年にオーストラリアのメルボルン大学の学生が設立した国際的ボランティア団体です。私たち Robogals Kagoshima は、東京・函館に続き2017年に日本で3番目の支部として鹿児島高専の女子学生有志によって発足し、今年度で6年目を迎えます。

Robogals Kagoshima の主な取り組みは、県内の小中学生を対象に、LEGO社の教育版LEGOマインドストームEV3やSONY社のMESHという小さなIoTブロックを用いたプログラミング体験などで工学の魅力を伝えるワークショップを行っています。

この6年間で、ワークショップだけでなくメンバーの知識と技術向上のために、Robogals本部やアジア支部とのオンラインミーティング、世界会議 Robogals SINE(サイン)やイギリスの大学教授によるオンライン講義などに参加し、海外との交流も行ってきました。その成果もあり、本部より年間最も活動した支部として「Robogals Up Award」を、本年度はアジア支部から最も持続可能な支部として「Most Sustainable Honorable Mention」という栄誉ある賞をいただき、国内では2020年に第3回日産財団リカジョ賞で奨励賞を受賞いたしました。さらに、テレビ・新聞などのメディアや、令和3年度版の中学校公民の資料集にも取り上げていただきました。このように、私たちの活動を評価していただいておりますが、校内においてはなかなか知名度が上がりづらいのが現状です。

コロナ禍の3年間は思うように活動をする事ができなかったうえに、メンバー不足にも陥りました。しかし今年度は、コロナウイルス感染症が5類に移行し更に新メンバーも加わり、コロナ禍前よりも活動が活発になりました。特に9月以降は、毎月1回以上のワークショップを実施しています。県本土だけでなく、念願だった離島の小中学校も訪問することができました。

私はこの5年間の活動で、人前で話をしたり、小中学生に教えたりという貴重な経験をさせていただきました。小中学生においてはプログラミング自体が初めてという生徒も多く、不安や戸惑いも見られましたが、グループで作業を進めていくなかでプログラムの理解を深めていき、終盤では自分たちで考えられるまでになります。その生徒たちの笑顔や達成感を感じられる時、私もとても嬉しく同じように達成感を得られます。以前は、プログラムの説明を1つ1つ行い手順に沿って一緒に進めていくような教え方でワークショップを行っていましたが、今年度からは顧問の新徳先生のアドバイスもあり、一通りの説明を終えた後いくつかのヒントを与えプログラミングを行ってもらおうという、生徒たちで考える力をつけてもらえるようなスタイルに変更しました。その結果、生徒たち一人一人の学ぼうとする意欲や自主性をとても感じられるようになりました。私自身も小学生で同じような体験をし、そのことがきっかけで工学の道に進もうと決めたように、私たちの活動が、体験してくれた生徒たちの将来に少しでも何かヒントになればいいと願っています。

最後に、このように多くのワークショップの機会を下さった小中学校及び教育機関の方々、そして私たちの日頃の活動を支えてくださる鹿児島高専及び先生方に心より感謝申し上げます。今後も、Robogals Kagoshima の活動にご協力をよろしくお願いいたします。

5年間お世話になり、ありがとうございました。







## IoT・プログラミングとふれあう

電気電子工学科3年 田上 蒼大

私達「IoT・プログラミング教育支援テーマ開発プロジェクト」は、小・中学生向けに開催するモノづくり公開講座について、学生主体でテーマ開発を行って実施することを目的に活動しています。今年度は昨年度に比べメンバーも増え、にぎやかに活動しています。

私達は、年に2・3回、小・中学生向けに公開講座を行っています。今年度は新たな試みとして高校生以上の方を対象とした「すごいぜ！マイコンプログラミング講座」を行いました。小・中学生向けの講座より少し踏み込んだ内容になったため少し難しくはなりますが、こちら側で進み具合に応じて追加の課題などを用意するなどして、「誰でも」楽しむことができるような公開講座を心掛けて企画しました。

ところで、このプロジェクト活動は学生主体で活動しているのですが、実際、どのようにして企画・設計・実施が行なわれているのでしょうか？

まず初めに決めるべきことは、「誰」に向けた「何」に関する講座を行うかです。メンバー全員で集まり、意見を交換するのですが、ここでは毎回とても多くのアイデアが挙がります。その中からターゲットにも理解しやすいもの、また自分たちで実現可能と考えられるものをピックアップし、その年度内で行われる講座に振り分ける、という流れです。

次に講座内容の設計です。今年度行われた「すずらん風のLEDイルミネーションを作ろう！」を例に取り上げます。この講座は対象が小学生であったため、理論を長々と説明するのではなく、シンプルに電気・電子、



また、プログラミングに触れてもらうことを念頭に置いて設計にあたりました。また、はんだ付けなどの危険を伴う作業は行うことが厳しいため、いかにして楽しんでもらうかという点にも特に注意しました。

そして製作です。設計図に従って、回路基板製作、プログラミングを行い試作品を作りますが、一回でうまくいくことはほとんどありません。担当の先生方に手伝っていただきながら、一つ一つ修正をしていき、試作品を作ります。しかし、ここからが勝負です。試作品ができるころには公開講座の日程はかなり近づいているため、急いで参加人数分の回路基板を作っていきます。作らなければならない回路基板はどの講座でも十数個あるので、メンバーは、はんだ付けがうまくなります。

最後に、作った回路基板を公開講座で参加者に配布し、パワーポイントを使って講座を行います。今回の場合は「すずらん風イルミネーション」を作ってもらいました。講座の最後にアンケートを取って講座は終了です。このアンケートをもとに反省点を見つけ、次回の講座内容に反映します。

公開講座では、普段の授業では学べない多くのことを学ぶことができます。1～3年生までは、自ら企画を立て、設計を行うということは授業では行われません。また、その企画を外部の方々に教える体験なんて、他ではすることのできない貴重な体験です。そのため、私を含め、メンバーはこの活動に参加して、とても有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。今年度の活動では、多く上がったアイデアの中から一部のみしか公開講座にすることができませんでした。そのため、来年度は今年度できなかったアイデアに挑戦できたらと思います。

この記事を読んで興味が出た学生は、ぜひ、水曜日の放課後、一般科目棟2F電気磁気実験室に来てみてください。



## 「工学チャレンジ!～小学生向け工学教室in鹿児島高専～」の実施について

一般教育科 篠原 学

令和5年9月16日に、本校と始良市の連携協定の一環として始良市教育委員会の要請を受けて上記の工学教室が行われ、その1教室を担当しました。私が実施すると「物理」の内容になってしまいますが、始良市の小学生8名を迎えて「音と風と光の実験」と題する実験教室を行いました。前年に続いて2回目の担当です。

内容は、「音」をテーマに、空気が振動して音が耳まで伝わることを体験するための真空実験（写真1）、音叉を使って行う共鳴やうなりの実験、可変型の発信器を使った可聴域の限界の体験、スピーカーの上にアルミの平板を載せ、様々な振動数の音を共鳴させて作る音の模様の実験（写真2）を、「風」をテーマに、プラスチックカップに開けた小さい穴から線香の煙を吹き出させて作る空気の小さい渦輪、これを段ボールで大型化した空気砲の実験（写真3）、送風機から吹き出した風でボールなどを空中で支える実験を、「光」をテーマに、2枚の偏光板を組み合わせると光が見えたり見えなくなったりする実験や、セロハンテープを重ね貼りしたものを偏光板を通してみると、セロハンテープが赤や青など様々な色に見える実験（写真4）などを行いました。

当日は、環境創造物理研究部の部員4名が中心になって実験教室を進めてくれました。私が解説するのと比べると年齢がはるかに近いこともあり、参加していた小学生たちは気兼ねなく、体験中心の実験教室を大いに盛り上がりながら楽しんでくれました。

もちろん物理部員たちにとっても、小学生に実験の手順を教えたり、物理的な仕組みを分かる言葉で伝えようとしたりと、貴重な体験になったと思います。

3時間の実験教室はとてにぎやかに過ぎて行き、最後は、小学生たちも高専生たちも満足そうに終了の挨拶を交わしていました。次年度以降の開催も楽しみです。



写真1 真空の実験で空気が音を伝えることを体験



写真2 スピーカーに載せたアルミ板を振動させ、音の共鳴の模様を作る



写真3 空気砲で風の渦を飛ばす



写真4 偏光板を組み合わせると、セロハンテープが様々な色に輝く



# 学生表彰

## 令和5年度 第1回学生表彰一覧

### ◎スポーツ賞

#### ○団体の部

団体	大会等名	成績
バドミントン部	第58回全国高等専門学校体育大会バドミントン競技 兼第47回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会 男子団体	優勝
バレーボール部	第60回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 バレーボール競技	優勝
ハンドボール部	第60回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 ハンドボール競技	優勝
柔道部	第60回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 柔道競技団体戦	優勝
弓道部	第10回全国高等専門学校弓道大会 女子団体戦	準優勝 射道優秀賞
ラグビーフットボール部	第32回九州地区高専新人ラグビーフットボール大会 7人制の部	優勝

#### ○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
機械工学科 4年 相葉 洵之介	第58回全国高等専門学校体育大会 バドミントン競技 兼第47回全日本高等専門学校 バドミントン選手権大会 男子ダブルス	優勝
電子制御工学科 3年 松永 幸丸		
電子制御工学科 4年 大堂 翔太郎		準優勝
電子制御工学科 2年 阿比留 弘平	第60回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 ソフトテニス競技女子個人戦	優勝
都市環境デザイン工学科 5年 下大迫 陽花		
情報工学科 4年 上村 夏生	第60回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 柔道競技 個人戦男子73kg級	優勝
電気電子工学科 3年 内園 春輝		
情報工学科 2年 尾辻 朱蓮	第60回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 柔道競技 個人戦男子81kg級	優勝
情報工学科 3年 園田 健治郎	第60回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会 剣道競技 男子個人の部	優勝
機械工学科 3年 山田 莉世	第10回全国高等専門学校弓道大会 女子個人	準優勝
電子制御工学科 2年 阿比留 弘平	令和4年度鹿児島県高等学校バドミントン 1年生大会男子シングルス	優勝

### ◎文化賞

#### ○団体の部

団体	大会等名	成績
将棋・囲碁部	第30回全国高等専門学校将棋大会 団体戦	3位

#### ○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
都市環境デザイン工学科 3年 水流 瑞季	第59回建築設計競技	金賞
都市環境デザイン工学科 2年 西 裕莉愛		銅賞
都市環境デザイン工学科 3年 柴田 夏希空		審査委員長特別賞
都市環境デザイン工学科 3年 近藤 瑛奈		佳作
都市環境デザイン工学科 3年 廣森 敬士		佳作
電子情報システム工学専攻 志々目 葵	日本シミュレーション学会国際会議 (JSST2023)	Student Poster presentation award
電子情報システム工学専攻 柳原 大空	日本シミュレーション学会国際会議 (JSST2023)	Student Poster presentation award

### ◎善行賞

学年・氏名	対象行為
電子制御工学科 5年 上野 優樹	アルバイト勤務中にうそ電話詐欺(パソコン修理の名目でプリペイド カードを購入させる手口)の被害を防いだ



## 令和5年度 第2回学生表彰一覧

### ◎スポーツ賞

#### ○団体の部

団体	大会等名	成績
バドミントン部	第18回九州沖縄地区高等専門学校バドミントン新人大会	優勝
バレーボール部	第28回九州沖縄地区高等専門学校バレーボール新人大会	優勝

#### ○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
電子制御工学科 2年 阿比留 弘平	第18回九州沖縄地区高等専門学校 バドミントン新人大会 男子シングルス	優勝

### ◎文化賞

#### ○団体の部

団体	大会等名	成績
うさぎとかめ (揚野研究室)	ETロボコン2023九州北・南地区大会	地区特別賞
インフラマネジメント テクノロジーコンテスト 2023	インフラマネジメントテクノロジーコンテスト2023	グランプリ
8位	鹿児島コンクリートコンテスト2023 ドラコン部門	優勝
インフォメーション デザイン	鹿児島コンクリートコンテスト2023 ドラコン部門	準優勝
高強ドリームス	鹿児島コンクリートコンテスト2023 ドラコン部門	第3位
ひき肉	鹿児島コンクリートコンテスト2023 ニアピン部門	優勝
チームえらぶ	鹿児島コンクリートコンテスト2023 ニアピン部門	準優勝
テトラポット	鹿児島コンクリートコンテスト2023 ニアピン部門	第3位

#### ○個人の部

学年・氏名	大会等名	成績
電子制御工学科 3年 大田 早記	第17回全国高等専門学校英語プレゼンテーション コンテスト シングル部門	特別賞 (COSET賞)
都市環境デザイン工学科 5年 宮原 慎之助	8th STI-Gigaku 2023	Best Research Presentation Award
建設工学専攻 2年 志戸 遥風	廃棄物資源循環学会九州支部研究ポスター発表会	優秀ポスター賞
建設工学専攻 1年 内園 翔太	廃棄物資源循環学会九州支部研究ポスター発表会	優秀ポスター賞
建設工学専攻 1年 内園 翔太	令和5年度土木学会全国大会第78回年次学術講演会	優秀講演者賞
電気電子工学科 1年 濱砂 妃茉莉	第43回全国高校生読書体験記コンクール	優秀賞
電子制御工学科 3年 大田 早記	第43回全国高校生読書体験記コンクール	入選
機械工学科 3年 山下 琳太郎	第25回全国高校生・留学生作文コンクール2023	奨励賞
都市環境デザイン工学科 2年 今村 彩乃	税に関する高校生の作文コンクール	加治木税務署長賞



## 鹿児島高専 Supporting Student Dreams とは

鹿児島高専では、学生のもつ潜在的な能力・向上心を引き出し、それらの涵養と実現に向けた支援を全学的に行うために、鹿児島高専Supporting Student Dreams (SSD) を実施しています。学生たちの「こんなことをやってみたい」「こんなコンテストに出てみたい」といった夢や目標をサポートするための取り組みです。

具体的には、(1)学生が自主的かつ主体的に取り組むもの、(2)本校教職員のサポートのもと取り組めるもの、(3)高専の学生が取り組む活動として相応しいもの、という3つの条件を満たした活動に対して、必要な経費を校長裁量経費から補助しています。今年度は、下記14件の活動が採択されています。

- ・コンクリートコンテストへのチャレンジ
- ・キング・オブ・コンクリート2023へのチャレンジ
- ・デザコン 空間デザイン部門・プレデザコン部門 応募プロジェクト
- ・高校生向け建築設計競技応募プロジェクト

- ・鹿児島県主催「住まいと建築展」出展プロジェクト
- ・百人一首競技かるた大会への参加
- ・IoT・プログラミング教育支援テーマ開発プロジェクト
- ・The 2023 Breakthrough Junior Challenge
- ・小学校への出前授業と科学館イベント
- ・e-sportsの認知と普及を通じた主体性のある学生の育成
- ・サイバーセキュリティボランティア
- ・Robogals Kagoshima
- ・高校生・ビジネスプラングランプリへのチャレンジ
- ・インフラマネジメントテクノロジーコンテスト2023

以下では、鹿児島高専SSDで支援を受けた活動について、参加学生やサポート教員から報告をしてもらいます。

### KING OF CONCRETE

都市環境デザイン工学科5年 甲斐 頌盛

こんにちは。突然ですが、皆さんは「KING OF CONCRETE」というイベントをご存じですか？このイベントは日本コンクリート工学会が主催しており、大学や高専を対象に毎年開催されています。競技内容はコンクリートの強度を競ったり、球体の供試体を作製し、その形状や性能を競ったりと毎回違う内容となっています。今年度も7月に福岡県で「KING OF CONCRETE 2023」が開催され、私は専攻科生2人と一緒にこのイベントに参加しました。全国各地の大学、高専から24チームが出場し、競技内容はコンクリート製のコマを2種類（軽量部門、手回し部門）作製し、それぞれで回る時間を競うというものでしたが、コマの軸部分を交換式にしたり、回し方が昔ながらの紐を用いたものであったりと各チームで様々な工夫がされており、どれも興味を惹かれるものばかりでした。

私たちのチームでは、軽量部門において鹿児島に大量に堆積しているシラスを骨材として用いることで軽

量化を図り、わずか35gのベイゴマモデルのコマを作製しました。ただ、軽いだけに回すのが難しくなるため、その工夫としてベイレードというおもちゃを基にすることで、効率よくコマを回すことができるようになりました。また、手回し部門では、骨材に軽石を用い、回しやすい重量にする工夫が施されています。

イベントの結果、コマがうまく回らなかったり、土台との相性が合わなかったりと課題が残りと、上位入賞はかないませんでした。しかし、結果以上に先輩方と試行錯誤してコマを製作、試験した思い出ができたことや他チームとの交流やアイデア交換ができたことが私にとってこれからの活動の刺激になりました。後輩たちにもこのような活動のことを知ってもらい、来年以降も積極的に参加してそれぞれの経験にってもらいたいです。



## 羽根から変わる風景

都市環境デザイン工学科4年 中村 日和子

今回、私は「住まいと建築展」出展プロジェクトに参加させていただきました。3年時に羽根の彫刻を使った景観デザインの課題を行いました。これを建築展に出展するために展示スペースの設計を行いました。

まず、レイアウトをどうするか考えることから始めました。4人の作成チームで様々なアイデアを考えた結果、ノリ付きパネルを使い作品を浮かす案になりました。作品は風景が多く情景が浮き出てくるイメージにしたかったので、高さを変えながら重ね、影を作ることでもく完成することが出来ました。

また、動画作成にも手掛け、より羽根の良さとおんなの工夫が伝わるようにしました。

出展場にはたくさんの学校も作品を展示していました。私たちが授業でしていた設計や模型をより専門的に作り上げた作品ばかりでとても良い刺激になりました。また、レイアウトを斬新な形にしている学校もあり

ひと際目立っていたので、どう興味を持たせるかというレイアウトの大切さを知りました。

このプロジェクトに参加したことで細かな工夫や仕組み、その場所の思いなどと再度関わることができ、より魅力を知ることが出来ました。

自分の作品が出る出展をお手伝いすることは初めての経験だったので、出展場にたくさんの方がご観覧しにきていただきとても嬉しかったです。

観覧していただいた方に少しでも作品の魅力が伝わっていただければと思います。



## BREAKTHROUGH JUNIOR CHALLENGEに挑戦してみよう

一般教育科 アニス・ウル・レーマン

BREAKTHROUGH JUNIOR CHALLENGE は、2015年に始まった、18歳以下の中高生を対象にオンラインで開催される世界最大級のチャレンジです。毎年4月から11月にかけて開催されます。チャレンジに参加する学生には、物理学、数学、生命科学のいずれかのテーマについて、すでにある難しい理論をわかりやすく説明することが求められます。動画には、アニメーションやドキュメンタリー、シミュレーションや物理的なデモンストレーションなど、対象を効率的かつ分かりやすく説明するための手法が盛り込まれていなければなりません。

参加者は、独創的でクリエイティブなビデオを作成することが求められます(最大2分)。作成された動画は、オンラインで多段階評価され、チャンピオンを決定します。タイムスケジュールと厳しいルールに従わなければならないませんが、チャンピオンになった学生への賞品も素

晴らしく、25万ドル相当の奨学金を受け取れます。この奨学金は、アメリカ国内での大学の授業料と生活費に充てられます。

今回は、情報工学科2年小牧優介さんが数学のテーマを選び、“Graphical Explanation of Characteristic Equation of Trinomial Recurrence Formula”というタイトルで動画を作成し、チャレンジしました。代表アドバイザーとして、今回の小牧さんとの経験は素晴らしいと思います。考える力、数学、ITスキル、英語力など様々な面から素晴らしい学生です。小牧さんも今年の学びを生かして来年もう一度BREAKTHROUGH JUNIOR CHALLENGEに挑戦したいと考えています。







## 高校生・ビジネスプラングランプリ へのチャレンジ

都市環境デザイン工学科4年 伊瀬知 海

私たちは、起業家としてのスキルを学ぶ活動を行い、ビジネスコンテストへの入賞を目標としています。

具体的な活動は、専門が異なる学生同士でアイデアを出し合い、起業の立案をしてコンテストで提案する、ということですが、計画を実現するためには「夢」だけでは不可能なので、社会やマーケットの変化を読んで、投資先になりうるか、という視点を入れたアイデアを練るよう日々励んでいます。

右の写真は、11月中旬に投資家の方々を招いてアイデアピッチしている時の様子です。私がビジネスとして展開していきたいと考えている「メタバースによるデジタルとリアルな循環型社会」の発表です。メタバースは2021年10月にFacebook社がMeta社に社名を変更して一時はブームとなりましたが、現在はそのブームは過ぎ去り9割方が赤字事業となっている、という発

表がありました。しかし、私の提案するアイデアは、膨大な資金のかかる独自のプラットフォーム開発にはリソースをかけずに、既存のプラットフォームを活用するものです。例えばFORTNITEの世界を作るクリエイターとして建築家としての視点を入れたアイデアを提案しようとしています。都市環境デザイン工学科の学生の視点だけではなく、他学科の学生の考えも入れられるのが高専の強みです。

2023年1月に開催したMicrosoft、Metaなどが主催するIdeactive Japan Projectの1次審査には通りませんでした。今後、さらにアイデアを仲間とブラッシュアップし、2024年のビジネスコンテストへの入賞、そして将来的には実際に起業をすることを目標にしています。自分たちの自由なアイデアで新しい事業を起こしていく人が増えれば、より柔軟な働き方も可能になるように思えます。

そのような未来を目指して頑張ります。



## インフラマネジメント テクノロジーコンテスト2023

都市環境デザイン工学科3年 水流 瑞季

インフラマネジメントテクノロジーコンテストは、「産業や生活の基盤」となるインフラの維持管理・マネジメントに対して新たな価値やサービスを創造・提供する「アイデア」をプレゼンするコンテストです。対象は全国57の高等専門学校生で、今回で第4回目の開催です。

都市環境デザイン工学科3年の4人でこのコンテストに参加しました。対象とするインフラや提案する「アイデア」を決めるために、メンバーで意見を出し合ったり、色んなインフラの状況などについて調べてみました。色々な意見の中から最終的に都市部を対象とした循環型マンションの提案に決定しました。提案した循環型マンションはリサイクル率80%以上の大崎町の事例を参考にしたものです。マンション内で発生する、生ごみや生活排水をマンション内の植物工場等で利用することや住民によるマンションの維持管理や作物の収穫体験

会を通して住民同士の繋がりを強くすること等を提案しました。

提案を具体的にするために、「一般社団法人水土の技術研究協会」の方々との意見交換会や霧島市の下水処理場「国分隼人クリーンセンター」の施設見学を行い、地域とインフラの関係を実際に体感することもできました。今回のコンテストに参加し、インフラの現状の調査やプレゼン資料の作成を通じて、インフラマネジメントの当事者意識を感じることができ、今後の学生生活にも活かしていきたいと感じました。





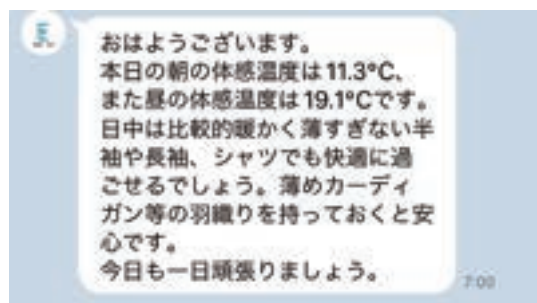
# 頑張ってます！課外活動！

## 起業クラブの活動

電気電子工学科3年 谷 黎音

こんにちは！鹿児島高専で後期から始まった新しいプロジェクトである起業クラブについて紹介します。起業クラブは、学生たちが自分のビジネスプランを構築し、実現するためのサポートと交流の場です。クラブメンバーは学年学科に関係なく様々なアイデアを持っており、独自のアイデアとビジョンを共有し合っています。学科に関係なくできた新たなチームは各々自分ひとりではできない壮大なビジネスプランを実現することができます。すでにビジネスプランを持っている人は起業クラブでアイデアをブラッシュアップしてさらに洗練させましょう。たくさんのアイデアがある中で、私のチームのアイデアを紹介します。私のチームは「Feelfit」という名前で、私を含めて2人で活動しています。Feelfitは寒暖差に困る方々を支援するためのサービスを作っています。右図のようにFeelfitのLINE公式アカウントを登録していただくと、毎朝設定された時間に設定された地域の体感温度とその体感温度に適した服装を提

案します。このサービスでは朝と昼の寒暖差に困っている人や服装を考えるのが面倒くさい人、苦手な人を支援することができます。このサービスのアピールポイントは使えば使うほど、ユーザーに適した体感温度、ユーザーの好みに合う服装を提供できるということです。起業クラブではFeelfitの方向性や必要な機能とそうでない機能、どうやったら知ってもらえるか等について話し合いを行ったり、開発を行ったりしています。今は、文章での服装提案ですが、ユーザーが持っている服装を登録してくれたらユーザーが持っている服の中から画像で服装を提案できるようにしていきたいと思っています。起業クラブ、Feelfitの活動を応援してくれたら嬉しいです。



## グローバルクラブ(GC)

電気電子工学科5年 永谷 玲葉奈

こんにちは。私たちグローバルクラブは、本校における国際交流活動に学生主体で取り組んでおります。こちらは部活動とは異なり、国際交流に意欲のある学生が集う学生組織です。日々、英語でのコミュニケーションスキルを高めつつ、海外からの学生受け入れの際には学生アンバサダーとして案内役を担っております。

令和5年の1月に行われたNTIストックホルム高校の学生との交流においては、グローバルクラブの学生が事前に計画した交流プログラムに沿って、英語でコミュニケーションを取りながら学内を案内したり、学外でのアクティビティを楽しみました。

また、鹿児島市立科学館において、プログラミングのワークショップをNTIストックホルム高校の学生と鹿児島高専の学生がタッグを組んで行いました。対象は市内の小・中学生とその保護者で、NTIの学生が先生役、本校グローバルクラブの学生が翻訳などの手助けをするチューターとして協力して取り組みました。ワークショップ後、参加してくれた親子からは、「最初は言語の壁がありうまく質問できなかったが、日本語で教えてくれるお兄さんお姉さんがいたので安心して質問できて、ワー

クショップを楽しむことができた。」「スウェーデンの学生さんたちが笑顔で、ジェスチャーを使ったり、実際にPCを



一緒に動かしたりして教えてくれたから分かりやすかった。」などという嬉しい感想をいただきました。

グローバルクラブの活動を広めるべく、同月には鹿児島高専グローバルクラブとしてFMきりしまのラジオ番組にも出演し、これまでの学内での活動やNTIストックホルム高校の学生たちとの交流について紹介しました。

英語に対する苦手意識が強い学生も少なくないと思いますが、実際にコミュニケーションの道具として英語に触れることで今後のモチベーションも上がっていくのではないかと思います。どのタイミングで始めても、遅すぎることはありません。海外研修や留学に興味がある学生はもちろんですが、英語が苦手な学生もぜひこれを機に、一緒にグローバルクラブで色々なアクティビティにチャレンジしてみましょう！

新しい活動については、鹿児島高専の国際交流センターにてお気軽にお尋ねください！



# 学生会だより

## みせる学生会

機械工学科4年 北迫 生海

今年度学生会長を務めさせて頂きました北迫です。昨年度行われた選挙で信任を受けてから早一年が経ちました。あっという間に過ぎてしまった今年度を自分なりに振り返ってみたいと思います。

私の学生会長としてのこの一年を簡単にまとめると不安と充実の2つです。今年度の学生会役員は全員で49人でした。恐らく過去最多となった役員数を自分がまとめ切ることができるのかという不安、自分が見てきた歴代の会長の方々ほどの仕事ができるかという不安、また、自分が学生会の活動や名を衰弱させることがないかという不安等、不安まみれのスタートでした。私は、今年度の活動が始まるに当たり役員に対して「可視化」というワードの共通認識を持たせることを行いました。これまでの学生会は、活動を行っていても学生の皆さんには見えていないというのが現状でした。そのため、学生の皆さんに伝わる活動を行い、学生の皆さんにもっと学生会という存在を認知してもらいたいと思いました。1つ目に行ったこととして、学生会役員の腕章を作製し、活動を行う際に着用しました。2つ目に moodle に学生会のページの作成を行いました。今年度は上手く活用することはできませんでしたが、来年度以降の学生会活動において、有効に活用していくことができるかと思っています。様々な学生会としての活動をする中で私が役員をまとめ、活動を行うことができたのかと言われたらまだまだで力不足な部分が多かったと思います。ですが、副会長を始め、各局局长に支えられ、また、先生方や学生課の方々には活動しやすい環境を作ってください、たくさんの方々に助けて頂きながらの今年度の活動になりました。

鹿児島高専の最大行事である高専祭は今年度からコロナ禍の制限から解放されての実施でした。私たちはコロナ禍以前の高専祭を経験しておらず、ほとんど0からのスタートでした。入場制限無し、飲食物の販売の許可、1日での開催など規制緩和に伴い、初めてのことばかりで不安でした。また、今回の制限を無くして開催されるということで規則などが変更されたりもしました。時間に追われながらでしたが、文化祭実行委員長 4M 山元大心君と体育祭実行委員長 4C 稲葉陽大君の2人を始めとする実行委員を中心に入念な準備を行い、

無事成功させることができました。

ここで、両実行委員長からのコメントを紹介します。

山元君：「今年はコロナの制限から解放され、かなりパワーアップしたものをお届けできたと思います。特に、飲食の露店は大盛況でした。露店や展示、企画に参加して頂いた皆さん、ありがとうございました。一般のお客様にも楽しんで頂けたので良かったと思います。来年の高専祭も盛り上げましょう！」

稲葉君：「今年の高専祭は、一般開放ということもあって、応援団だけじゃない、学生全員が楽しめる体育祭を目指し、運営しました。開会式は、マイクトラブルがあり、どうなることかと心配しましたが、皆さんのおかげで、無事成功させることができました。感謝です！」

また、学生会役員もテントの設置や交通整理など、今までほとんど無関与だった高専祭の運営に携わることができました。今回の高専祭で情報を伝えることの難しさや、新たなことをする難しさを痛感しました。全体に誤解なく正しい情報を伝えるための言葉選びなど、毎日反省する日々でした。しかし、大変だったからこそ終わった時の達成感、充実度は今までに無いものがありました。これは学生主体での運営をサポートして下さる学校関係者の方々のおかげであり、もし他の学校に通っていたら味わうことはできなかっただろうと感じました。

失敗し反省することばかりでしたが、たくさんの経験ができ、今後の自分にとっても学生会にとっても大きな財産になる1年になったと思っています。次年度に今年の反省を引き継ぎ、より学生のための活動をしてもらいたいと思います。今後とも学生会への協力をお願いいたします。







# 寮生活会だより

## これまでの寮生活を振り返って

都市環境デザイン工学科4年 稲葉 陽大

今年度、寮長を務めさせていただきました稲葉です。  
私は鹿屋市立上小原中学校を卒業して鹿児島高専に入学しました。新しい学校生活、新しい寮生活、新しい友達、生活が180度変わり、不安でいっぱいでしたが、さすが約500人規模の寮。すぐに友達ができ、新生活にも慣れ、不安は消えていきました。

2年生の時、寮生会オーディションで、霜降り明星せいやの「なんなんじゃそりゃ」という一発芸を披露し、無事合格、そこから、(寮の中で一番いい部屋に入れると噂だった)寮長を目指し、寮をよりよくするため、寮生会役員として奮闘し、3年の1月、寮長選挙で、寮長に選ばれました。目標だった寮長になれた時の感動は今でも忘れられません。

いざ、令和5年度、自分たちの代になって、これまでの偉大な寮長の方々のように、ちゃんとやっていけるだろうか、とても心配でしたが、一生懸命、計画を立てて、やっていけば、みんな支えてくれる。と気づき、今日まで、寮長を務めることができています。

私が寮長になって、直面した問題は大きく2つありました。1つ目は、ごみの処理の問題です。今年度から、ごみの分別の条件が厳しくなり、これまでは、多少分別されていなくても清掃業者の方が持って行ってくださったのですが、そういうわけにもいなくなり、寮生会が厳しく分別できているか確認するようになりました。前期のうちは、寮生会内で、話し合い、ごみ出しできる日を制限し、試行錯誤したのですが、なかなかうまくいかず、前期の退寮の日にごみステーションの中の分別されていないごみを寮生会総出で分別し、掃除する事態となってしまう、反省しました。この経験を元に後期からは、ごみを出せる時間を毎週月木の21時10分から21時30分に限定し、寮生会立ち合いのもと捨てるようにしました。この方法では、すべてのごみに寮生会の目が行き届くこともあり、分別できていないごみが0になりました。

2つ目は、アフターコロナでの寮行事の開催です。ここ2年程、コロナ禍の影響で、7月の七夕パーティ、1月の寮生パーティなどの寮行事が、放送での開催となっており、実際に会場に集まるのは、私が1年生の時ぶりで、どのように運営するか、探り探りでやっていかなければなりません。

ればなりません。

7月の七夕パーティでは、4年生を中心に、役割分担し、早食い競争、イントロどんなどの企画で盛り上がり、いい形で開催できたと感じています。

この原稿を書いている時点では、1月の寮生パーティはまだ計画段階ですが、寮生の皆さんに楽しい思い出を作っていただけるよう頑張ります。

1年間、寮長を務めて、寮務の方々、寮の先生方、寮生会、寮生のみんな、たくさんの方にお世話になりました。感謝しかありません。これからも、この歴史ある自由な高専志学寮を引き継いで、より良い生活が送れる寮にしていってほしいです。



七夕パーティでの早食い競争の様子



令和5年度寮生会集合写真



# 部活動紹介

## 硬式野球部

- ①主将：(高学年) 脇田敦大 (低学年) 春田悠元
- ②顧問・コーチ：田中智樹 川添敦也 橋口博芳 他2名
- ③活動内容：チームの目標(県ベスト8)に向けて、練習、練習試合などを行っている。



- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出：今年1番のビッグニュースは、長きにわたり高専野球部を務めてきた、橋口コーチの引退である。橋口コーチは鹿児島高専設立のころから、この野球部を支えてきてくださった大ベテランであり、お世話になった人も山ほどいるだろう。もちろん僕たちも、指導や激励を受けた。そんな橋口コーチが今年で引退となった。だから僕たちは来年の夏、引退した橋口コーチへの感謝の気持ちを持って、一戦一戦勝ち取って、目標を達成したい。

## 男子バスケットボール部



- ①部長・副部長：深江優良成 鯨坂悠真
- ②顧問・コーチ：前蘭正宜 杉本良成 冨師淳一
- ③活動内容：バスケットボール！！高専大会やウインターカップに向けての練習や合宿
- ④今年一番の思い出：今年1番の思い出、九州高専大会で3位になったこと！！私たちは第二体育館で毎週月、水、金、土、日で活動しています。初心者でも試合で活躍しています！！ぜひ遊びにきてください

い！マネージャーも募集中なので興味があれば是非！お待ちしております♪

## 女子バスケットボール部

- ①共同部長：古賀莉佳子 中村ほしな
- ②顧問・コーチ：鞍掛哲治 渡辺創 塩盛秀彰 松下静香
- ③活動内容：九州沖縄地区高専体育大会出場
- ④今年一番の思い出：女子バスケットボール部は現在部員数が9名と多くはないものの、とても仲が良く、日々楽しく活動を行なっています。今年度の九州沖縄地区高専体育大会では3位になりました。この3位という結果を得るまでの日々の練習や大会当日の緊張感、試合で勝った喜びを分かち合った瞬間全てが良い思い出です。私たちは年末に行われる冬の女子全日本高専大会に出場します。この大会は5年生と一緒に出場できる最後の大会なので、この大会を私達にとって今年一番の思い出にできるように日々の練習に取り組んでいます。



## 男子バレーボール部



- ①部長・副部長：井上雅斗 笠毛陽斗 石原汰一
- ②顧問・コーチ：拜田稔 田畑隆英 片平智仁 池田匠児
- ③活動内容：全国高専大会優勝を目標に活動しています。
- ④今年一番の思い出：昨年に引き続いて九州沖縄地区高専大会で優勝できたことです。今年はコロナの影響も少なく強豪校の出場もある中での優勝ということで、チーム一丸となって練習に励んだことがこの結果に繋がったと感じました。来年は全国高専大会で良い結果が残せるように頑張ります。



## 剣道部

- ①部長・副部長：廣池諒太
- ②顧問・コーチ：山本聡 節政徹也 蒲生義幸 他1名
- ③活動内容：日々剣道の修練を積み、各種大会に出場する。
- ④今年一番の思い出：昨年目標に掲げた「団体での全国高専大会出場」を成し遂げ、さらに全国3位に入賞できたことです。来年も油断することなく予選を勝ち抜き、さらに上の成績を目指せるよう稽古に励んでいきたいと思えます。



## 空手道部



- ①部長：瀧崎瑠偉
- ②顧問・コーチ：澁田諭 中村格
- ③活動内容：トレーニング 打ち込み 型 組手
- ④今年一番の思い出：組み手や型の練習を通して空手部として大きな成長をすることができました。今年はタイミング的に大会に参加できず、悔しい思いをしたので来年度は大会に出場し、良い結果を出したいです。

## 柔道部

- ①部長・副部長：須田光揮
- ②顧問・コーチ：野澤宏大 精松祐介 内村秀樹（8月迄）
- ③活動内容：トレーニング、打ち込み、投げ込み、乱取り、筋トレ
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、久留米で開催された九州沖縄地区高専大会です。今年の大会では、昨年引き続き団体優勝することができました。しかし、昨年と違い人数が充実しておらず、危ない場面がいくつかありました。それらを乗り越えて掴み取ることができた優勝だったので、良い思い出になりました。来年も優勝し三連覇を達成できるように、日々練習に励んでいこうと思います。



## 卓球部



- ①部長・副部長：伊藤 慎祐 堀之内 大紘
- ②顧問・コーチ：入江智和 堤隆 田中郁昭 基島慎之介
- ③活動内容：卓球競技
- ④今年一番の思い出：今年一番思い出に残ったことは、7月にあった九州高専大会です。僕にとって3回目の高専大会であり、僕はチーム内では上級生であったこともあり、今年はキャプテンを任せられました。去年の大会の団体戦ではあと一歩というところで全国高専大会への出場を逃してしまったので、先輩や卒業生の方のためにも今年は絶対に勝つという思いで大会に臨みました。しかし、鹿児島高専は予選リーグで負けてしまい、全国高専大会へ行くことはできませんでした。悔しい思いが強く残る大会となりましたが、その中で部員同士の仲を深めたり、僕たちの課題も多く見つけたりできました。そこで見つかった課題をこれから克服して僕たちの代で全国高専大会へ行けるように頑張ります。





### 陸上部



- ①部長・副部長：佐藤勇人 橋口健志郎
- ②顧問・コーチ：古川翔大 新徳健 他3名
- ③活動内容：高校・大学などで行われる陸上競技大会への参加
- ④今年一番の思い出：こんにちは、上部部長の佐藤勇人です。僕の今年一番の思い出は、やはり九州高専大会です。僕は元々、水泳部に所属していたのですが、コロナ禍の影響で中々大会が開催されませんでした。しかし、陸上競技の大会は、規模は縮小されていましたが、大会が行われており、自分の力を試してみたいと思い転部しました。今年の九州高専大会は最後の大会でしたが、残念ながら全国大会へは出場出来ませんでした。しかし、この2年間やり投げに集中的に取り組み、怪我などもありましたが、部活動を楽しむことができました。陸上部は現在、高専駅伝大会に向けて、精力的に練習に励んでいます。きっと良い成績を残してくれると信じています。

### 弓道部

- ①部長・副部長：福元理桜 福富将矢 山田莉世
- ②顧問・コーチ：吉満真一 豊平隆之 揚野翔
- ③活動内容：1) 的前練習 2) 基礎練習：体配、ゴム弓、素引き、巻藁など
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、全国高専弓道大会です。全国大会で、女子団体準優勝という結果に加え、射道優秀賞をいただきました。残念ながら今年は男子の部で結果を収めることができなかったので、来年は男女ともに良い結果を残すことができるよう、日々の練習を頑張ります。



### サッカー部



- ①部長・副部長：宮脇仁崇 吉田敦貴
- ②クラブ顧問・コーチ：北蘭 池田 山田 國谷 椎 木原 竹下
- ③活動内容：58名の部員で全国高専大会優勝を目指して練習し、高校年代はトップリーグでも奮闘しています。国体やスマイルカップなど、スポーツを通して地域貢献も積極的に行っています。
- ④今年一番の思い出：今年はコロナによる規制が減り、様々な地域貢献活動に参加することができました。子供達と一緒にサッカーをしたり、花壇の草抜きをしたり、さらに、「燃ゆる感動かごしま国体」では、補助員として参加し貴重な経験をすることができました。地域の方々に応援してもらえるようなサッカー部を目指し、日々頑張っていきます。

### 水泳部

- ①部長・副部長：當房直大 柴垣滯
- ②顧問・コーチ：鎌田清孝 安井賢太郎 赤塚道信
- ③活動内容：スイム、筋トレ、夏合宿、ランニング等
- ④今年一番の思い出：前期は九州大会が行われ、部員全員で頑張った結果準優勝という結果を残すことができました。全国大会にも出場することができました。霧島市の大会にも参加し、入賞することもできました。後期はプールの水が張ってないため、主に筋トレを中心とした身体づくりをメインとし、来年の高専大会に備えた。今後も全員で優勝を目指して頑張っていきたい。



## ソフトテニス部

- ①部長・副部長：川元隆太郎 藤田聖良 村上大心
- ②顧問・コーチ：安楽四郎 東雄一 今村成明 島名賢児 有村峻
- ③活動内容：放課後、休日の練習、大会出場
- ④今年一番の思い出：今年の1番の思い出は、初めて全国高専大会に出場出来たことです。一年生の頃からずっとお世話になっている先輩方と一緒にいく大会はものすごく緊張しますが、それ以上にとっても楽しかったです！来年は楽しいことも大事ですが、良い成績も残せるよう、より一層日々の部活動に取り組んでいきたいと思えます！



## 硬式テニス部



- ①部長・副部長：山崎英司 吉田光
- ②顧問・コーチ：屋地康平 奥高洋 岸田一也
- ③活動内容：硬式テニス部は気軽に運動に取り組むことができ、先輩後輩の仲が良いです。また、練習を学生たちが主体となって行っているため、したい練習を自由に行うことができます。
- ④今年一番の思い出：今年は目標としていた団体戦での全国高専大会への出場ができ、個人スポーツの中でもお互いを助け合いながら勝つことができました。また、練習では選手同士が意識し合うことで目標に対する認識が高められていたと感じました。

## バドミントン部

- ①部長・副部長：山下水輝（5M） 徳森愛季（5S）
- ②顧問・コーチ：堂園一 新田敦司 佐藤正知 小原裕也
- ③活動内容：バドミントンというスポーツを通してファンや関係者と喜びを共有できるように、そして、愛されるアスリートになるために日々バドミントンを探求しながら楽しんでいます。
- ④今年一番の思い出：全国高専大会男子団体戦において2年ぶり2度目の全国制覇を達成できました。また、男子ダブルスにおいても創部初の優勝、準優勝、男子シングルスにおいても3位入賞を果たすことができました。バドミントン部を応援してくださる方々に結果で恩返しをすることができてよかったと思えます。



## ハンドボール部



- ①部長・副部長：堀之内太凱 石神凜太郎
- ②顧問・コーチ：白石貴行 熊華磊 谷口康太郎
- ③活動内容：ハンドボール競技を通じた体力増進と精神鍛錬
- ④今年一番の思い出：全国高専大会で3位入賞したことです。令和元年から昨年度まで、予選リーグ敗退という悔しい結果が続いていました。今年こそは予選リーグを突破し、全国優勝するぞとの思いで大会に臨みました。予選を2戦2勝で突破し、準決勝に進出しましたが、優勝チームに敗れてしまいました。全国大会優勝を目標に活動してきた中で3位で終わってしまったことは悔しかったです。しかし、その悔しさ以上に、今のメンバーで3位という結果を残すことができた喜びが大きかったです。

したが、優勝チームに敗れてしまいました。全国大会優勝を目標に活動してきた中で3位で終わってしまったことは悔しかったです。しかし、その悔しさ以上に、今のメンバーで3位という結果を残すことができた喜びが大きかったです。





### 極真空手部



- ①部長・副部長：本高德郁 秋元秀介
- ②顧問・コーチ：瀬戸山康之 竹覚照
- ③活動内容：私たちは、火・水・木曜日に練習を行っています。ミット打ちやスパarring、補強を主に行っています。木曜日には外部コーチの竹先生がいらっしゃるの、色々なことを教わりながら練習することが出来ます。
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、新入部員が来てくれたことです。未経験者ですが入部してくれてうれしかったです。ちょっとでも

興味のある方はぜひ見に来てください！

### ラグビー部

- ①部長・副部長：佐竹航陽（5M）
- ②顧問・コーチ：拜田稔 岩田富雄 柳原哲夫
- ③活動内容：タッチフット、タックル練、合同練習、試合etc.
- ④今年一番の思い出：11月上旬に、佐世保で秋季高専大会がありました。鹿児島高専ラグビー部は、13人(他女子3人)という少ない人数で未経験者が多い中、皆で切磋琢磨して練習を頑張りました。久留米高専と7人制で対戦しました。前半から次々とトライを決めて、更にはトライ後のキック(コンバージョン)もしっかり決め、見事に勝つことが出来ました。勝った瞬間は、これまでの練習が実を結んだと、嬉しかったです。部員皆、凄く輝いていました。5年生は最後の大会だったので、勝てて本当に良かったです！



### 写真部



- ①部長・副部長：池亀せいら 鮫島琉生
- ②顧問・コーチ：保坂直之 三原めぐみ
- ③活動内容：撮影会や写真展示
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は、文化祭で行った写真コンテストです。毎年の伝統で、写真部が主催して行っています。ポスターやSNSを用いて募集を呼び掛けたところ、抱いていた不安とは裏腹に、思っていたよりも多くの人から応募をいただきました。どれも良い写真ばかりで、写真部としても学ぶものがありました。来てくださった人たちの投票により、右の写真が最優秀賞になりました。来年度以降も、後輩たちが盛り上げていってくれたらうれしいです。

### 吹奏楽部

- ①部長・副部長：4 I 本村遼太 3C 坂元こよ莉
- ②顧問・コーチ：松田信彦 町泰樹
- ③活動内容：定期演奏会や夏の巡回演奏旅行、高専祭での演奏はもちろん、地域のイベント等への参加も積極的に行っています。
- ④今年一番の思い出：高専の吹奏楽部は他の高校と違い、コンクールには出場しませんが、学生主導で定期演奏会を行うことができます。今年度は、歌やダンスや映像作品など自由な構成で演奏会を開催でき、特にYOASOBIのアイドルを演奏した際は、ミラーボールを用いた演出や部員によるダンスで、お客さんと一緒に盛り上がる事ができました。





## 英語部

- ①部長・副部長：大田早記 山下未誉
- ②顧問・コーチ：逆瀬川栄一 曾山夏菜 嵯峨原昭次
- ③活動内容：実践英語・英会話・英文法・発音などの学習・文化祭での英語劇・プレコンへの出場
- ④今年一番の思い出：英語部では毎年文化祭で英語劇を行っています。今年は文化祭の入場制限がなく、地域の方々にもご覧いただけるといことで、部員も劇の練習に一層励みとても良い劇にすることができました。そして、多くの保護者の方や地域の方々にご覧いただくことができました。また、毎年参加している九州沖縄プレゼンコンテストでは部員1名がシングル部門で優勝、他の部員も大健闘することができました。



## 軽音楽部



- ①部長・副部長：大山貴斗 有馬風優 山本悠暉
- ②顧問：南金山裕弘
- ③活動内容：月一の校内ライブ、高専祭ライブ
- ④今年一番の思い出：今年一番の思い出は高専祭ライブと鹿児島軽音サークルで集まって行ったライブです。高専祭のライブでの活躍を経て個人個人で外部のイベントに出演することも多いですが、メンバーのみんなと協

力して演奏して盛り上げるのはとても楽しかったです。また先輩後輩とでバンドを組むことでより人とのつながりを持ってました。

## エコラン部

- ①部長・副部長：上ノ園悠大
- ②顧問・コーチ：嶋根紀仁 永岩健一郎 江崎秀司
- ③活動内容：エコラン大会出場、機体製作・整備
- ④今年一番の思い出：エコランとは自作の車両でどれだけ低燃費で走れるのかを争う競技です。そんなエコランに取り組む私達ですが今年は九州大会で2位に入賞し全国大会でも無事完走することができました。全国大会では、猛暑のなか2日間にわたり機体を調整し、少しでも記録を伸ばそうと部員達一丸となって協力しました。このことはみんなにとっても良い思い出になったと思います。最後に普段から積極的に活動してくれている後輩たちにはとても感謝しています。そんな後輩たちと活動できたことが私にとっての1番の思い出です。



## メカトロニクス研究部



- ①部長・副部長：阪口純寛 加納龍弥
- ②顧問・コーチ：渡辺創 上野孝行 上沖司 岸田一也
- ③活動内容：高専ロボコンに出場するロボットの製作 他
- ④今年一番の思い出：思い出は仲間と共にロボットを作った何にも代えがたい一日です。大会のルールには達成すべき条件が多く、すべての要素において頭を悩ませました。そんなときに、皆の力を集めてベストを突き詰めていく、そしてロボットが力を発揮する、その高めあっていく過程が、部員の宝となりました。大会当日こそ色々な条件が重なりうまく動作しなかったものの、自分たちが思い描いたロボットを作ることにに対して同じ方向を向き、同じ景色を夢見て走ったこの大会はかけがえのないものとなりました。



### 電子・情報・システム研究部



- ①部長・副部長：斜木太心 小牧優介
- ②顧問・コーチ：武田和大 原崇
- ③活動内容：高専プロコンに向けたアプリやシステムの開発など
- ④今年一番の思い出：今年の高専プログラミングコンテストの競技部門は陣取りゲームを模したボードゲームでした。解決しなくてはいけない課題が多く、何度も試行錯誤を繰り返しました。結果、ベスト16まで勝ち上がることができました。また、高専祭では部員が開発したゲーム等を展示しました。今年の高専祭からは来場者制限が無くなり、たくさんの方に展示を見て頂きました。

### 将棋・囲碁部

- ①部長・副部長：大久保郷平 久保凜竜
- ②顧問・コーチ：栢健一
- ③活動内容：対局、感想戦、高専大会、詰将棋など
- ④今年一番の思い出：今年、岐阜県岐阜市で行われた全国高専将棋大会に部員4名で出場しました。団体戦では第3位入賞を果たしました。部員一人一人の努力と日々の練習の成果が十分に発揮でき、この結果につなげることができたのだと思います。来年も練習に励み、高専大会でよい結果を残せるように腕を磨いていきます。



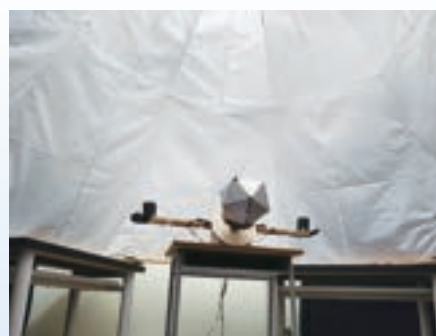
### 環境創造物理研究部・物理チーム



- ①部長・副部長：有菌諭志 前山あかり
- ②顧問・コーチ：篠原学 杉村奈都子
- ③活動内容：モデルロケット・CanSatの製作、科学イベントの運営
- ④今年一番の思い出：今年の文化祭では、部員が工夫を凝らして制作したモデルロケット計9機を無事に打ち上げることができました。個人的には、カメラ付きロケットが撮影まで完璧に成功したのが一番の思い出です。物理実験の実演も、練習の成果を発揮しご来場の皆様に楽しんで頂くことができました。また、種子島ロケットコンテストの2023年大会ではロケット部門一滞空・定点回収にて2位と3位に入賞しました。次回大会は大賞を目指し頑張ります。

### 環境創造物理研究部・天文チーム

- ①部長・副部長：西美乃里 橋口怜生
- ②顧問・コーチ：篠原学 杉村奈都子
- ③活動内容：プラネタリウム解説、観測会、星座絵本の作成
- ④今年一番の思い出：高専祭では、私たちは例年部員一同でドームを組み立て、オリジナルの解説を披露しています。今年は入場制限の撤廃によってようやく外部のお客様を多く入れて解説を行うことができました。また、昨年度までは一季節15分で公演していたのですが今年は感染症対策の規制緩和に伴い一季節30分で解説を行うことができ、昨年度までよりもさらに詳しく解説をすることができました。部員一人一人が高専祭に向けて練習を頑張っていたので、その成果をより多くの人にお披露目できたことが一番の思い出です。



## 航空技術研究部

- ①部長・副部長：上村風太 西美乃里
- ②顧問・コーチ：福添孝明 橋口正平
- ③活動内容：RC航空機の研究、製作、飛行
- ④今年一番の思い出：今年も全国室内飛行ロボットコンテスト一般部門、ユニークデザイン部門に出場いたしました。両部門出場機体ともに残念ながら受賞は逃してしまいましたが、エキシビジョンマッチで大会会場の圧巻のフライトに成功し、今年引退の部員、初出場の部員それぞれに大きな意義のある大会とすることができました。新入部員への良い刺激ともなり、現在はそれぞれが「見てみたい！」と思う機体を自分たちの手で設計し、製作しています。来年度以降の大会で彼らの機体が大きく羽ばたくことを願います。



## 創造設計部（建築部門・模型部門）



- ①部長・副部長：部長:宮下大起 宇治小春 副部長:犬童悠李 川越乙葉
- ②顧問・コーチ：内田一平 高安重一
- ③活動内容：ジオラマ制作、建築物スケッチ、建築見学など
- ④今年一番の思い出：私たち創造設計部は、模型と建築の2部門に分かれて活動しています。建築部門の今年1番の思い出は、11月初旬に行った建築見学です。部員やOGの方、顧問の計13人で、鹿児島や熊本の建築物を訪れました。見学したのは、天草の世界遺産の本造教会、建築家が設計した牛深ハイヤ大橋などです。晴れ空の下、教会や橋はとても美しく見えました。本やインターネット上ではなく、建物を実際に訪れその空間を体験することで、部員たちの建築への関心がさらに高まったのではないかと思います。みんな良い写真をたくさん撮っていたので、後日の部活では写真をお互いに見せ合いました。高学年と低学年は年の差もあり、普段なかなか話をする機会が少ないですが、部員同士の仲も深まった1日でした！







# 旅立ちに寄せて ～卒業生あいさつと担任の贈る言葉～

## そうむ

機械工学科5年 山下 水輝

鹿児島高専に入学してクラスメートとの思い出で最初に思いつくことは、クラスの総務を務めることになったことです。入学して初めてのホームルームで担任の先生から総務に任命され、クラスをまとめる役割を担うことになりました。まだお互いの名前もわからないときに総務になってしまったので、クラスメートからは「そうむ」と呼ばれるようになりました。そのあだ名が定着してしまい、ついには5年間総務を務めたのです。しかし、当初は嫌だった総務も、今ではこのクラスの総務を務めることができよかったなと思います。

それを実感できたのはやはり体育祭でしょう。4年生のときの体育祭で私は応援団副団長を務めました。それまで機械工学科は10年以上優勝しておらず、私たちは今までになかった新しい演舞を作ろうと試行錯誤していました。みんなで話し合い、練習して、最高の演舞を作り上げ、優勝を果たすことができました。優勝が決まった瞬間は今でも忘れません。私一人の力では成し遂げることはできませんでした。それまで積み上げてきた信頼関係があったからこそ、全員自分の意見を素直に出して、いいものを作り上げることができたのだと思います。演舞を見た家族や友達、そして先生方からも称賛の言葉をいただき、本当にうれしかっ

たことを覚えています。

「鹿児島高専に入学してよかったことは何ですか？」もしそのように聞かれたのなら、私は「クラス替えがなかったことです」と答えると思います。5年間ともに過ごせてよかったと心から思える仲間たちと出会えたことが、私にとって一番かけがえのないことなのです。そんな仲間たちの「そうむ」になれたことは幸福であり、私の誇りです。

最後になりますが、私は来年度からは鹿児島を出て、一人の社会人として仕事に励むことになります。正直不安な気持ちはあります。しかし、次仲間たちと再会したときに「そうむが総務でよかった」と言ってもらえるよう、高専生活で培った知識や技術、経験を活かし、精一杯頑張ろうと思います。そして、入社まで残りわずかではありますが、残された時間でお世話になった方々に感謝を伝えていこうと思います。多くの方々に支えられてここまでくることができました。ありがとうございました。



## 高専の友達、これからの出会いを大切に！

機械工学科5年 担任 東 雄一

機械工学科5年生の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。鹿児島高専に入学して5年が経ったわけですが、この5年間は皆さんにとってどのような5年間でしたか？「勉強が大変でやっと卒業できる。長かった…」、「勉強は楽勝、学校も早く終わって自由な時間も沢山あって天国だった!」、「コロナがなければもっと楽しかったはず…」等、色々な思いを抱いていることと思います。楽しい思い出や苦い思い出、いずれもこの5年間という時間を一緒に過ごしたクラスメイトや他学科の友達に支えてもらえたからこそ無事に卒業を迎えられたのだと思います。この5年間の思い出と感謝の気持ちを忘れることなく、新たなステージへと足を踏み入

れて下さい。そして、高専で出会った友達をこれからも大切に、時には誰かが号令をかけて集まり、思い出話に花を咲かせてほしいですね。

高専に残り専攻科へ進学する学生、社会人として自立する学生、環境を変えて大学へ進学し学びを深める学生とそれぞれの道に進んでいきます。これからやってくる色々な人生のイベント、その節目節目で新しい友達や同僚、先輩、上司等、多くの人達との出会いが待っています。時にはこれまでの自分の考えや価値観に「ビビビッ!」と刺激を与えてくれる出会いもあるでしょう。これから待っている長く楽しい人生、これから出会う多くの方々との出会いを大切に、人として魅力あふれる大人に成長して下さい。

最後になりましたが、これからの皆さんの活躍を祈念しております。担任としての2年間、皆さんと楽しく過ごすことができました。Thank you and good luck!

## 五年間

電気電子工学科5年 山口 幸村

私は、高専出身の父の勧めで鹿児島高専に入学を決めました。入学直後の私には、やりたいことや将来の夢がぼんやりして実感できなかったことを覚えています。しかし、高専の五年間の中で様々な活動を経験し、その中でたくさんの人と関わることでいろいろな考え方を知ることができ、自分が何をしたいのかを考えることができました。経験してきた活動の中でも、野球部と応援団での活動は最も心に残っています。私は、中学で野球をしていたこともあり、高専でも野球部に入部しました。最初は、顧問の田中先生がとても怖くておびえていましたが、チームメイトと日々練習した日々は、私にとってかけがえのないものになっています。今年（学生生活最後）の夏には、高専大会で全国に行くことを目標にしていたのですが、九州大会で準優勝に終わってしまいました。それでも同級生と後輩みんなで決勝まで進出したことは良い思い出になりました。

野球部と同じぐらい心に残っている活動は応援団です。応援団のために、1ヶ月間練習したことは今でも鮮明に覚えています。応援団は日ごろ関わることのない学科の人たちと、交流することができる良い機会です。この応援団を通して、とてもかわいい後輩ができました。



た。写真の男子（最前列）は、電気科の一個下の後輩のひとりであり、夜遅くまで練習して頑張って演舞を覚えたことも良い思い出です。約五十人の人とひとつのものを作り上げることの大変さを知り、また大きな達成感を得ることができました。

これらの活動を通して、私はたくさんの考え方を感じることができ、自分の価値観や考え方を広げることができました。現在は、もっと幅広い経験をするために、大学に進学し海外留学をしたいという目標をもって、勉強に励んでいます。

高専の五年間の中で、尊敬できる先生方にご指導いただき、私は勉強することの楽しさや、目標をもって取り組むことなどの重要性を学びました。これらを生かして、卒業後も勉学や様々な活動に励んでいきたいと考えています。時にはレポートやテストで苦しんだこともありましたが、とても楽しい高専生活でした。ご指導いただいた先生方ありがとうございました。

## 電気電子工学科の卒業生みなさんへ

電気電子工学科5年 担任 屋地 康平

この特別な瞬間に、電気電子工学科から卒業される皆さんに心からの祝福を送ります。また、皆さんが私たちの鹿児島高専 電気電子工学科を選んでくださり、そこで学び、また成長してくれたことに感謝します。

電気電子は、世界の革新と未来を担う分野の一つであると思います。したがって皆さんがこの分野で培った知識と経験は、この世界を変える力を持っています。ただし、その力をどのように用いるかは、皆さん次第です。技術は、人々の生活を向上させるための手段であり、また工学は、その手段を学ぶ学問です。したがって皆さんにとって大切なことのひとつは、皆さんが謙虚な姿勢で常に学び続け、かつ新しく独創的な視点を常に持

つことです。また、皆さんが未来に向かって進む際には、自らの信念を貫き通すことをお勧めします。そのとき、成功と失敗の両方から学ぶ姿勢を持ち続けてください。皆さんが困難に直面したときこそ、皆さん自身が成長し、進化するチャンスでさえあると、私は思います。

さて、ここで、皆さんが鹿児島高専での学びを終え、新たな章を迎えることができることを誇りに思いつつ、教員として最後の言葉を贈ります。皆さんは、これまでに皆さんが築いてきたつながりを忘れずに、またこれから新たに出会う仲間との絆を大切にしてください。世界中の人々と知識を共有し、協力し合い、世界をより良くするために努力し続けてください。

改めて、皆さんの卒業に心からのお祝いと感謝を申し上げます。皆さんの未来が、輝かしいものでありますように。



## 卒業を迎えて

電子制御学科5年 入佐 叶太郎

入学してから五年が経ち卒業を迎えようとしています。不安しかなかった入学式や「今から五年もあるのか」と思っていた頃が懐かしく、長いと思っていたものも短く感じてしまいました。三年生までは、授業や課題が多く時間が過ぎるのが遅かったのですが、四・五年生になってからの時間の流れが早く、この二年はほんとはあつという間でした。

入学したての頃は、寮生活に抵抗を感じており、毎週帰省していました。一年の後期から、友達との共同生活がはじまったことで、寮生活が楽しいと感じるようになりました。最初は、なじめるか不安で緊張もありましたが、个性的で明るい二人と過ごすのは楽しく、他の友達が集まることもあり、今思えばこの時期の寮生活が一番充実していたと思います。学年が上がるにつれ、仲は深まっていきましたが、同時に寮を出ていく友人が増え、少し残念でした。

勉強では、一年生最初の数学のテストで周りの点がなくて不安になったことを今でも覚えています。それに加えて、絶対に単位を落とすたくないという思いから、一生懸命勉強しました。この恐怖心がなければ、テストに一生懸命にはならなかったと思います。

高専での五年間を振り返ってみると、もっと様々なことに挑戦すればよかったと思いました。特に三年生

までは、課題等が終われば友達と遊ぶことやのんびりした時間を過ごすことしか考えていなかったのとでももったいないことをしたと思いました。アルバイトも重要ですが、学生としての時間を有効に活用してさまざまなことに挑戦したかったです。四年生の後期からは、進路活動があるとはいえ、自由な時間が増え、また寮生でもあったことから、ただ時間を潰して過ごすことが嫌になり、少しでも興味のあることに取り組むようにしました。四・五年生になって、応援団や英語で討論する JSTS というイベントに参加しました。特に JSTS は、留学生や留学経験者が多く参加する中で、異なる英語のレベルや考え方に触れ、大きな刺激を受けました。グローバルなこの世界で、海外を経験することはとても大事だと思い、学生のうちにぜひ行ってみたいと思います。

この五年間は、多くの方に支えられ、恵まれた環境で勉強等に励むことができました。お世話になった先生方、家族、友人、本当にありがとうございました。

これからは大学に編入し、新しい環境で過ごしていくことになり、不安もありますが、少しでも成長していけるよう挑戦していきたいと思います。



## まだまだこれから！

電子制御工学科5年 担任 谷口 康太郎

ご卒業おめでとうございます。本校教員に着任し、2年目で皆さんの4年生担任になってから早いもので、もう2年が経とうとしています。当時はまだ高専のことが良く分からず、皆さんから色々教えてもらいながらで、迷惑をかけたこともありましたが、新任教員に優しく付き合ってくれてありがとうございます！高学年は HR が無いので、意外と話す機会はありませんでしたが、一応、社会人歴 18 年ということで、自分の就活の経験や企業での経験を話す機会もあり、色々と感じてもらえたかもしれません。印象に残っていることは、クラス写真の授業風景の撮影の際に、何の授業のフリをしたらよいか思いつかず、とっさに質問タイムを始めて、自分の馴れ初めまで話す羽目になったことでしょうか(^^)

さて、本題ですが、学校で習ったことがどれくらい社会でためになるかは人それぞれでしょうが、経験や人間関係は絶対に無駄になることはありません。授業や学校行事、課外活動等の様々な活動を通して人間関係の構築の仕方、答えのない物事の進め方等、これからの人生を生き抜いていくために必要な様々なスキルを身につけてきたことと思います。定期試験で評価されるフェーズは終わります。これからは総合力で人生を切り拓いていってください。

皆さんもご存知の通り、私はこれまでに二度も転職し、様々な経験をしてきました。私からすると皆さんは“まだまだ人生これから！”。もし高専でできなかったことがあったとしても、これから挑戦できることも多いはずです。私の 18 年を振り返っても様々な人生の転機が訪れました。

帰鹿した際には是非高専に寄ってお土産話をきかせてください。また会える日を楽しみにしています。



## 成長を感じた5年間

情報工学科5年 精松 玲王

私の高専生活は、知識や経験が膨らんでいく5年間でした。情報工学科ではプログラミングや電気回路、ネットワークなど様々な知識を習得できました。工学実験では、コンパイラやWebアプリケーションを作り、実践的な体験ができました。また、レポートやスライドを使った発表も良い経験でした。これらの経験を通じて、専門的知識の成長は著しいものとなりました。しかし、それ以上に成長を感じた出来事がありました。それは、総務や応援団の団長の経験です。

3年生から始まった総務のポジションは、私にとって初めてのリーダーシップの経験でした。初めは自分なんかクラスの代表になっていいのかという思いでした。積極的にグループの中心に立って取りまとめるような人ではなかった自分でしたが、総務を経験してからは授業のグループ活動でも進んでリーダーを務めるようになりました。

その後、応援団の団長は、更なる挑戦でした。はじめは、自分がこの役割を全うできるのか不安しかありませんでした。しかし、活動を続けていく中で仲間の存在の大きさや、みんなで一から作り上げていく大変さと楽しさを実感しました。そして、学科の代表として先頭を歩いた経験は、大きな成長につながりました。

一年間という長い準備期間の中で、リーダーシップ力、コミュニケーション能力、計画を立てる力、臨機応変な対応力などたくさんを学びました。中でも一番成長を感じたのは「自信」です。

優柔不断な性格で自分になかなか自信を持ってなかった私には大きすぎる成長でした。仲間と協力して難題を克服する過程で、自分の決断や行動が良い結果につながることを実感したことで、得られた自信は一生大事にしていきたいと思います。

挑戦と成長に満ちた5年間でしたが、共に協力し合い、努力し、成功や失敗を共有する中で、一人では決して得ることのできない成長がありました。これが将来の職場での価値ある経験となることは間違いありません。これまでの高専生活で学んできたことを土台とし、これからも新たな経験を通じて自己成長を続けていきたいです。

つたない文章ではありましたが、最後までお読みくださりありがとうございました。



## 卒業に寄せて

情報工学科5年 担任 豊平 隆之

情報工学科5年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。5年前、高専に入学したばかりはまだ幼い感じでしたが、この5年間でしっかりと成長したようです。この5年間は、以前の高専生の5年間と違い、一日体験入学が中止になり、高専祭は無観客での実施となりました。4年次の高専祭が観客制限有でも実施できたのがせめてもの救いでした。

これから就職・進学と進路が分れ、新しい環境で仲間ができると思います。不思議なもので同郷の仲間とは特に親しみを持って接することができます。また、10代後半の時期を一緒に過ごした仲間は特別なものです。新しい友人を増やして人の輪を大きくしていくこと

は大切です。困ったときには、苦楽をともにした高専時代の仲間に相談してみるのもよいかもしれません。情報工学科棟の中身は年々変わりますが、建物は現在のままですので、たまには尋ねてみてください。

皆様のこれからの活躍を、建物とともに見守っています。





## 成長

都市環境デザイン工学科5年 池亀 せいら

思い返してみると、鹿児島高専に入学した時のことが、たった2、3年前かのように思えます。まさか、もう高専生になって5年も経つとは、驚きです。これまでの5年間で、高専だよりに書くには多すぎるほどにかけがえのない楽しい出来事が山ほどありました。コロナ禍でいくつかの行事が制限されていたものの、とても充実していて楽しい日々でした。

私は実家が種子島なので、高専に入学してからは寮で生活していました。親元を離れて生活することは不安でしたが、優しい先輩や友達のおかげですぐに打ち解けることができました。家族よりも友達との距離が近いのはとても新鮮で、勉強など、日々助け合いながら生活していました。寮生活を通して他学科の人や先輩、後輩とも仲良くなることもでき、協調性が育まれたと思います。

学生会では総務局長を務めました。総務局では主に学生総会や学生会長選挙、リーダー研修の進行などを行いました。学生会の仕事は、プリントの配布など雑用も多かったですが、そういった地味な仕事が社会を支えていくものだ実感できました。中学生の時までの私は大勢の前で話すことに苦手意識がありました。

ですが、会の進行などで強制的に人前に引きずりだされる機会が多く、だいぶ人前に立つことに慣れました。学生会活動を通じて多くの人と連絡を取ることは必須だったので、交流の輪も広がりました。

私は、鹿児島高専を卒業した後は、鹿児島高専専攻科の建設工学専攻コースに進学します。この5年間で多くのことを学んできましたが、自分はまだまだ未熟で、学ぶことが多いと感じました。自分の専攻である建設分野は、自然災害や地震に対する被害を未然に防ぐ可能性がある、やりがいを感じる分野です。災害に負けない長く後世に残る建築物を作るために、そのために必要な知識を得るために、専攻科でより深く学んでいきたいです。そこで吸収した内容を今後の仕事への経験に活かしたいです。



## さらなる成長を

都市環境デザイン工学科5年 担任 川添 敦也

都市環境デザイン工学科5年生の皆さんご卒業おめでとうございます。私は皆さんの担任を2年間務めました。今振り返るとコロナ禍に振り回された、なんとも不完全燃焼の2年間でした。そんな状況でも SNS 等の情報共有ツールを利用してコミュニケーションをとれたのは不幸中の幸いでした。連絡があった時は私からできるだけ早く返事をするように心がけていましたし、皆さんもマメに連絡・報告してくれました。中には進路関連の難しい相談もありましたが、ゆっくり考えてやり取りできたのでとても助かりました。

かつて SNS や携帯電話が普及する前の私達世代の「卒業」といえば、大げさに言えば「今生の別れ」でした。しかし、現在ではその気になればほとんどの卒業生の現況を知ることができます。多くの教員にとって仕事の

最大のモチベーションは、皆さんが卒業後優れた技術者に成長し、会社だけでなく社会全体に貢献してくれることです。これから辛いことやスランプに陥ったりすることも当然あると思いますが、それらに負けることなく乗り越えてくれるものと確信しています。皆さんの成長と活躍を心から楽しみにしています。



## 挑戦すること

機械・電子システム工学専攻2年 木ノ上 博基

私は専攻科修了後、大学院へ進学します。面接試験対策として本科5年間と専攻科1年間の合計6年間を振り返る機会がありました。勉強、研究、部活をそれなりに全て努力してきました。しかし、面接試験で自分をアピールするにはどれも中途半端で納得できるものがありませんでした。課外活動などのプログラムに参加したわけでもなかったため、「高専生活で特に注力したこと」という想定問題の解答を探すのに大変苦労しました。これを機に今年度は挑戦することを決意し、International Symposium on Innovative Engineering 2023 (ISIE2023)に参加しました。

ISIEとは九州沖縄9高専マレーシア・ペトロナス工科大学(UTP)で開催している国際シンポジウムです。論文概要、論文原稿を事前に提出し、口頭発表12分、質疑応答3分、全て英語で行いました。英語に苦手意識があった自分には大きい挑戦でしたが、英文での論文記述や口頭発表の練習などの準備を通して、より多

く勉強する機会を得ました。

他の学生の発表におけるスライド構成や見せ方、話し方など吸収することは多く、発表ではトップバッターでしたが練習の成果を発揮することができました。さらにUTPの学生との会話、観光及びスポーツなどの交流を通して、異文化を知り、視野を広げることができました。正直、このプログラムを終えて、劇的に英語が話せるようになったり、研究に対するアプローチが180度変わったりすることはありませんでした。しかし、挑戦し最後までやり遂げた達成感は自信へ繋がりました。

挑戦への壁の高さは人それぞれだと思います。自身の中で大きな壁を超えた経験は自信となり、武器となり、成長させてくれます。現在、「高専生活で特に注力したこと」という問いの解答がまだ見つかっていない人は、自身で大きな壁を設け、挑戦してみたいはいかがでしょうか。



## 支えられた7年間

電気情報システム工学専攻2年 田中 瑠七

鹿児島高専に入学してから7年間、様々なことにつまずいてきましたが、周囲の人々の支えがあったからこそ、ここまでたどり着けることができました。

私に立ちふさがった最初の壁は、高専に入学してすぐの頃にあって、プログラミングの授業での出来事です。その授業の最初の課題は、「Hello World!」という文字列を表示するというものでした。課題といっても、プリントに印刷されたソースコードをパソコンに入力し、実行するだけだったのですが、そこで問題が起きました。そのソースコードには、#などの記号が含まれていたのですが、当時の私はシフトキーを使った入力を知らなかったのです。プログラミング以前の、キーボード入力ができないという問題が発生し、進学する学校を間違えたかもしれないと後悔の念にさいなまれました。しかし、親切な同級生に入力の仕方を教えてもらったことで、なんとかソースコードを打ち込み、画面に文字列を表示することができました。今では、タッチタイピング

ができるぐらいには、キーボード入力がうまくなりましたが、あの時の出来事は忘れられない苦い思い出です。

最初につまずき以外にも、実験レポートや課題に苦しむことが多くありましたが、なんとか専攻科に入学することができました。専攻科では、共通科目が多くあり、情報工学以外の知識について学ぶ機会もありました。私が入学した頃は、本科1年の時点から学科ごとに分かれていたため、他の学科と接する機会というのは、ほぼありませんでした。専攻科での共通科目を通して、少しでも他の学科の授業内容について知ることができ、楽しかったです。

専攻科に入ってからでも、つまずくことは多く、一番つまずいていたのは研究でした。研究は、うまくいかないことの方が多く、くよくよすることも多かったです。そんな時に、研究の悩みを聞いて支えてくれた同級生や先生がいたからこそ、諦めずに最後まで頑張ることができました。

このように様々な人に支えられながら、7年間の高専生活を無事に過ごすことができました。これからは、社会人として働くこととなりますが、今まで支えてもらった分を他の人に返せるように頑張りたいと思います。





## 専攻科へ進学して

建設工学専攻2年 仮屋園 恵

7年に渡った高専生活が遂に終わりを迎えます。終わりが近づいた今だからこそ感じる専攻科に進学する魅力は、何ととっても本科を含めた3年間みっちり研究活動に携わることが出来る点にあると思います。

私は、資源循環を目標とする焼酎粕等のバイオマスを用いたきのこ栽培の研究でヒラタケを育てていました。研究と勉学の両立で慌ただしい日々でしたが、本来処理に困っている副産物から機能性の高いきのこが生みだされるのです。とても興味深くやりがいのある研究でした。もちろん大変なことも多かったです、それ以上にメンタル面・コミュニケーション面での成長や、継続して研究に励んだからこそ得られる気づきも多く実のある貴重な経験となりました。作業を通した対人関係が大部分を占める日々の中で、読書や登山、温泉巡りなど新たな趣味も見つかり、自分なりのストレスの発散方法に出会えたことも成果です。

私が研究のみにとどまらず生きていく上で大切にしていきたいと感じたのは心のゆとりです。心にゆとりがあると急な出来事にも快く応じることができます。また、優先順位を立てて一つずつ確実にこなしていくことや、後や先だって考えても仕方ないことに思い悩

まないこと、任された作業は責任をもってやり切ることなど当たり前前の土台をこれまで以上にしっかりと築



くことが出来ました。就職前に研究活動を通じてこれからの人生の糧となる経験が出来たと感じています。“全ては今に繋がってるけど、別に今が全てじゃない”。自分の選択の結果を受けるのは未来の自分です。私は、本科の時に勉強に精を出し、進学という選択肢にたどり着くことができて本当に良かったと思っています。一人でも多くの人に専攻科の魅力が伝わると幸いです。寮生活・一人暮らしを経て最後の半年間は、6年半ぶりに実家で生活をさせてもらいました。共に生活することで家族の温かさをこれまで以上に感じる事ができ、かけがえのない期間となりました。家族には感謝と愛でいっぱいです。これから沢山恩返しをしていきたいです。

最後になりますが、支えて下さった皆様ありがとうございました。これまでのすべての出会いに感謝申し上げます。お世話になりました。(o^ー^o)

## 新たな舞台への飛躍

—専攻科修了生への祝辞—

専攻科長 新田 敦司

専攻科修了生の皆さんへ、

心よりおめでとうございます。専攻科修了生として、この特別な瞬間を迎える皆様に、誠実な祝福の言葉を贈ります。鹿児島高専の専攻科で過ごした2年間は、確かに挑戦と努力に満ちた日々だったことでしょう。産業界が求める実践的なスキルや先端技術に精通し、創造力を発揮できる技術者としての基盤が、皆様の内にしっかりと築かれたことを信じています。特に、専攻科での特別研究や学会での発表など、皆様が達成された数々の成果は素晴らしいものです。特別研究進捗状況報告会では、英語によるプレゼンテーション及びポスター発表が素晴らしい内容でした。さらに、国際会議等で表彰された学生もいます。専攻科での学びと努力が実を結んだ証です。おめでとうございます。また、今

年度より始まった九州大学との連携教育プログラムは、専攻科生の学びを一層多様化させています。専攻科に在籍しながら最先端の研究にも挑戦できる素晴らしい機会です。現在、半導体の人材育成プログラムもスタートしており、その先頭を走るのが専攻科生の皆様だと確信しています。最後になりますが、これまでの専攻科修了生は大学や産業界で高い評価を受けています。その先輩たちの足跡を辿り、そして超えていくことが、皆さんの使命でもあります。どんな困難にも立ち向かい、自らの可能性を広げ続けてください。

心よりのお祝いと共に、これからの未来に向けて更なる飛躍を期待しています。おめでとうございます。



## 卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就職・進学一覧

### 《機械工学科》

株式会社 JAL エンジニアリング
NOK 株式会社
旭化成株式会社 (3名)
いすゞエンジニアリング株式会社
株式会社エクセン
大岡技研株式会社
京セラ株式会社国分工場 (6名)
九州電力株式会社
全農サイロ株式会社
株式会社ニューフレアテクノロジー
日本精工株式会社
株式会社三井 E&S
三菱電機株式会社名古屋製作所 (2名)
村田機械株式会社 (2名)
(進学) 鹿児島高専機械電子システム工学専攻 (4名)
(進学) 鹿児島大学 (2名)
(進学) 熊本大学 (2名)
(進学) 佐賀大学
(進学) 千葉大学
(進学) 豊橋技術科学大学

### 《電気電子工学科》

株式会社 A・R・P
JFE プラントエンジニア株式会社
アズビル株式会社
株式会社アルバック
大分キャノン株式会社
関西電力株式会社
京セラ株式会社 鹿児島国分工場 (2名)
株式会社タダノ
大和ハウス工業株式会社
中部電力株式会社
浜松ホトニクス株式会社 (2名)
パナソニック株式会社
株式会社日立アドバンスシステムズ
ファナック株式会社
三菱電機株式会社 名古屋製作所 (4名)
三菱電機ビルソリューションズ株式会社 (2名)
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
ルネサスエレクトロニクス株式会社
(進学) 鹿児島工業高等専門学校専攻科 電気情報システム工学専攻 (4名)
(進学) 鹿児島工業高等専門学校専攻科 電気情報システム工学専攻/ 九州大学工学部融合基礎工学科
(進学) 鹿児島大学工学部 先進工学科 情報・生体工学プログラム
(進学) 九州工業大学工学部 電気電子工学科
(進学) 熊本大学工学部 情報電気工学科 (2名)
(進学) 佐賀大学理工学部 電気電子工学分野 (5名)
(進学) 東京都市大学理工学部 電気電子通信工学科
(進学) 長岡技術科学大学工学部 電気電子情報工学課程



《電子制御工学科》

ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社
CTC システムマネジメント株式会社
NEC プラントエンジニアリング株式会社
株式会社 SUBARU
SCSK ニアショアシステムズ株式会社
株式会社 USEN-NEXT HOLDINGS
旭化成株式会社
アズビル株式会社
キャノンマーケティングジャパン株式会社
京セラ株式会社 鹿児島隼人工場 (2名)
京セラ株式会社 鹿児島国分工場
セイコーエプソン株式会社
西部電機株式会社
株式会社ニコン
パナソニックインダストリー株式会社
パナソニック株式会社 くらしアプライアンス社
株式会社 日立アドバンスシステムズ
株式会社 福井村田製作所
富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社
本田技研工業株式会社
三菱電機株式会社 名古屋製作所
株式会社 メンバーズ
ルネサスエレクトロニクス株式会社
(進学) 鹿児島工業高等専門学校 専攻科 機械・電子システム工学専攻 (7名)
(進学) 鹿児島大学 工学部 先進工学科 電気電子工学プログラム (2名)
(進学) 鹿児島大学 工学部 先進工学科 情報・生体プログラム (2名)
(進学) 九州工業大学 情報工学部 知的システム工学科
(進学) 電気通信大学 Ⅲ類(理工系) 電子工学プログラム
(進学) 豊橋技術科学大学 工学部 機械工学課程
(進学) 豊橋技術科学大学 工学部 電気・電子情報工学課程
(進学) 豊橋技術科学大学 工学部 情報・知能工学課程

《情報工学科》

ANA ベースメンテナンステクニクス株式会社
CAL 株式会社
株式会社 FIXER (2名)
KDDI エンジニアリング株式会社
NEC ネットズエスアイ株式会社
株式会社 RKKCS
TDC ソフト株式会社
アイ・システム株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社 (3名)
ソフトマックス株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社ニコン
株式会社ニコン
西日本旅客鉄道株式会社 (2名)
日本空港テクノ株式会社
パナソニックコネクト株式会社
株式会社ファインディックス (2名)
株式会社ラック (2名)
(進学) 鹿児島高専専攻科電気情報工学専攻 (6名)
(進学) 鹿児島大学 工学部 先進工学科 情報・生体工学プログラム
(進学) 神奈川大学経済学部経済学科
(進学) 九州工業大学情報工学部情報・通信工学科 (2名)
(進学) 九州工業大学情報工学部知的システム工学科
(進学) 九州工業大学情報工学部知能情報工学科
(進学) 千葉大学工学部総合工学科情報工学コース
(進学) 東京工業大学情報理工学院情報工学系
(進学) 豊橋技術科学大学工学部情報・知能工学課程



《都市環境デザイン工学科》

株式会社 CTI グランドプランニング
JFE シビル株式会社（2名）
伊佐市
インフラテック株式会社
株式会社大阪防水建設社（2名）
小野田ケミコ株式会社
鹿児島県庁
鹿児島市役所（3名）
鎌田建設株式会社
川田工業株式会社
国土交通省
株式会社サタコンサルタンツ
サンコーコンサルタント株式会社
東京水道株式会社
西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社（2名）
西日本旅客鉄道株式会社
株式会社日水コン
日本都市技術株式会社
パシコン技術管理株式会社
株式会社ピーエス三菱
福岡国際空港株式会社
湧水町
（進学）鹿児島高専専攻科 建設工学専攻（5名）
（進学）鹿児島大学工学部建築学科
（進学）九州大学 芸術工学部 芸術工学科・ 未来構想デザインコース
（進学）九州工業大学 工学部 建設社会工学科 国土デザインコース
（進学）熊本大学工学部土木建築学科（2名）
（進学）豊橋技術科学大学 工学部 建築・都市システム学課程（2名）

《機械・電子システム工学専攻》

GMOペパボ株式会社
株式会社SCREENセミコンダクターソリューションズ
京セラ株式会社
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
株式会社中央エンジニアリング
日東電工株式会社
パナソニック株式会社
パナソニックインダストリー株式会社
株式会社マツダE&T
株式会社リクシル
（進学）九州工業大学 大学院 生命体工学研究科 生体機能応用工学専攻
（進学）東京大学 大学院 新領域創成科 学研究科 人間環境学専攻

《電気情報システム工学専攻》

NECソリューションイノベータ株式会社
NECネットエスアイ株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社タマディック
トーテックアメニティ株式会社
日本電気通信システム株式会社
パナソニックコネクト株式会社
ファナック株式会社
株式会社ユピテル

《建設工学専攻》

旭化成株式会社
エヌ・ティ・ティ・インフラネット株式会社
鹿児島空港ビルディング株式会社
株式会社国土技術コンサルタンツ
株式会社横河ブリッジ



# 卒業生の現在

## 在校生の皆様へ

令和3年度 機械・電子システム工学専攻修了  
(機械工学科出身) 中村 俊介

私は機械工学科を卒業して専攻科を修了した後に、奈良先端科学技術大学院大学という大学院に進学しました。ここは、全学生の4分の1を留学生が占めており、海外の大学や企業との交流が盛んに行われています。例えば、私はヨーロッパに1ヵ月間滞在し、1人で大学や企業と共同研究するという貴重な経験をしました。もちろん通訳の方や教授の付き添いなどは無いため、英語でのコミュニケーション能力や大学レベル以上の専門や数学の知識、論理的思考能力が求められました。このとき、高専で学んだ専門や数学の知識、実践的な英語の授業、3年間の研究を中心に身に着けた論理的思考能力が非常に役立ちました。

鹿児島高専を卒業して、もうすぐ2年が経ちます。まだ社会人にもなっていない未熟者ですが、在校生の皆様へ伝えたいことが1つだけあります。それは、「目標を持つこと」の大切さです。私自身、高専本科時は

将来の目標は無く、正直なところ、積極的に勉強や研究に励むことはありませんでした。

しかし、5年生のある日、将来は自動車の研究開発に携わり、グローバルに活躍したいという目標を持ち始めてからは、やるべきことが自身の中で明確になり、勉強や研究に積極的に取り組むようになっていました。その結果、大学院卒業後の来年度からは目標である自動車の研究開発に携わる仕事に就くことが決まりました。目標を持つことで勉強や研究のモチベーションが劇的に変化すると思います。全く目標が無いという方はこれからゆっくり探してみてください。

最後に、鹿児島高専にはモチベーションさえあれば、勉強や研究に取り組むにはこれ以上ない環境が整っています。この環境を活かして、充実した楽しい高専生活を送って下さい。



## 編入学ってどんなもん？

令和2年度 電気電子工学科卒業 山下 燿梨

私は2021年に電気電子工学科を卒業後、鹿児島大学に編入学しました。ここでは近況と大学に編入して気づいたことを2点お伝えします。結論、編入学してよかったです。

現在、私は大学院の修士課程に属し、鹿児島大学が主体となって研究している小型ハイブリッドロケットの通信システムに関する研究をしています。具体的には、ロケットに搭載する模擬人工衛星の開発や、地上局のアンテナの製作です。私は小惑星探査機はやぶさの影響で、小学生の頃から宇宙が好きでした。実際、在学時には環境創造物理研究部(物理部)でロケット製作を行っていました。今では研究に携わることができ、とても充実した大学院生生活を送っています。研究のロケットは年1回打ち上げているため、ニュースなどで見かけた際は応援していただけると幸いです。

私が大学編入して気づいたことは2点あります。1点目は大学には本当に色々な人がいるということです。

高専こそ十人十色を超えて百人百色のように感じていましたが、そこから1歩出るとまた違った個性で溢れた世界が広がっていることを実感しました。2点目は、高専でみなさんが努力したであろう実験・実習とレポートを書く力が大学で非常に役立つことです。大学の先生方からは、高専卒は実験時によく手が動く、実験メンバーからは高専卒がいると実験がスムーズだと好評でした。在学当時は「この努力は何に役に立つのだろう」と考えながらレポートを書いたこともありましたが、努力が報われたと思います。特に考察力と忍耐力が役に立ったと感じました。つまり皆さんが乗り越えた実験・実習は確実に皆さんの力になっています。自分に自信をもって社会に踏み出してほしいです。最後になりますが、高専生活を悔いのないように楽しんでください。



## 高専に入って良かったこと

平成23年度 電子制御工学科卒業 中野 和彦

私は、電子制御工学科を卒業後、専攻科修了後に九州大学大学院を経て、トヨタ自動車に就職しました。今回、高専に入って良かったことを三つお伝えします。一つ目は、幅広く技術を習得できたことです。九州大学大学院では、小惑星探査機「はやぶさ」にも使用されたイオンエンジンの長寿命化に関する研究に取り組みました。部品の設計にも関わり、高専で身につけた設計スキルが活かされました。また、トヨタ自動車では、AIを使った燃料電池のシミュレーション開発に取り組んでおり、高専で学んだプログラミングの経験が活かされています。現在は、約200人の部のリーダーとしてAIの活用推進に取り組んでいます。

二つ目は、グローバルな視点を養えたことです。私は英語力向上のため、カナダでの海外語学研修に参加し、現地の高校生との交流を通して異文化を体験しました。この経験が英語への取り組みを促し、専攻科では、タイでの海外インターンシップにも参加しました。これらの経験は、トヨタ自動車での国際的な環境で役立っています。2024年度からアメリカ・カリフォルニア

にあるAIの研究開発拠点で、燃料電池の開発に携わる予定です。

三つ目は、チームで問題解決する経験ができたことです。高専では、創造設計や環境創造工学プロジェクトのように、仲間と協力して課題に取り組む機会があります。社会では通常、個人ではなくチームで仕事をすることが多く、時には異なる意見が生じることがあります。こうした状況で皆の意見をまとめて解決策を見つける能力が求められます。高専での経験が、チームでの問題解決の際に活かされています。

最後に、高専在学時には、数多くのチャンスがあります。技術的なこと、グローバルなこと、部活動など、とにかく色々チャレンジして、様々な経験を積むことをお勧めします。将来、これらの経験が貴重な財産になるはずです。皆様が社会で活躍されることを心から願っています。

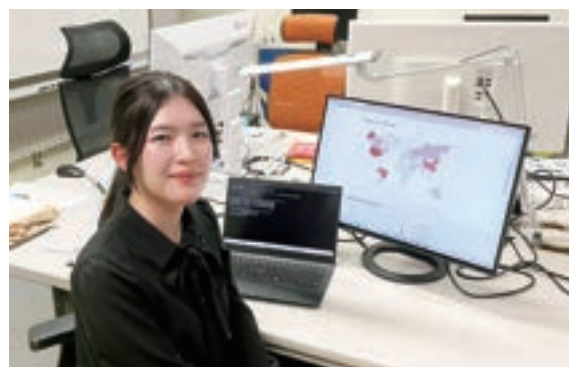


## 研究と大学生活

令和3年度 情報工学科卒業 木原 百々香

皆様、こんにちは。令和3年度情報工学科卒業生の木原百々香です。在学中は吹奏楽部やロボギャルズ鹿児島に所属していました。高専での一番の思い出は、高専祭や定期演奏会、巡回演奏旅行などで、5年間部員のみなどと演奏したことです。

さて、皆さんの中に、横浜国立大学（通称横国）という名前を聞いたことがある方はいらっしゃいますか？おそらく少ないと思います。横国は九州での知名度があまり無く、鹿児島高専からの進学実績もほとんどありません。そんな大学で、私は情報セキュリティ、特にルーターやプリンターといったIoT機器のセキュリティについて研究をしています。IoT機器の普及に伴ってそれらを狙った攻撃も増えており、マルウェア感染した大量のIoT機器によるDoS攻撃（一度に大量のリクエストを送ることで、サービスをダウンさせる攻撃）など



が問題となっています。そのため、IoT機器のセキュリティの実態を調査するのが、私の研究です。横国を選んだ理由は、セキュリティについての実践的な研究が多いのと、実績がありハイレベルな研究ができると思ったからです。学部3年に編入し、それから1年は希望の研究室に入れるように、真面目に授業を受けました。高専ではあまり勉強しなかった機械学習や画像処理プログラミング、コンピュータグラフィックスといった授業もあり、新鮮で面白かったです。その甲斐あって、4





年生でセキュリティの研究室に配属されました。

私の所属する研究室には学部4年から博士課程まで30人以上おり、研究分野ごとにユニットを組んで研究をしています。同期や同じユニットの先輩方とはよく会うので、一緒に学食でご飯を食べたり、飲み会をしたりしています。週一のミーティングのほかは基本自由なので、研究室で先輩と作業をしたり、家でじっくりと論文を読んだり、メリハリをつけながら研究を進めています。学部4年になってからは授業もないので、研究とバイトを両立しながら自分のペースで生活しています。また、お芝居を見たり美術館を巡ったりすることも好きなので、時間を見つけては東京に向かい、趣味に没頭しています。このように、個人の裁量に任せてくれる雰囲気の研究室なので、とても気に入っています。

また、先日福岡で行われたセキュリティ分野の学会にも参加しました。私は論文の共著者として参加したので研究発表は行わなかったのですが、他大学の研究に触れる貴重な機会で、とても勉強になりました。また、学会で行われたワークショップにも参加しました。研究の方向性や具体的な調査についてブレインストーミングを行うという内容だったのですが、似た研究を行っている他大学の先輩方から新たな知見を得ることがで

き、研究のモチベーションに繋がりました。その他にも、懇親会で企業の方との新たな出会いが生まれたり、研究室のメンバーでもつ鍋や水炊きを食べたりと、充実した時間を過ごすことができました。学会には高専在学中から参加してみたかったので、今回機会をいただけて嬉しかったです。次は発表者として参加できるよう、大学院に進学した後も研究に励みたいと思いました。

大学での様子をつらつらと書いてみましたが、いかがでしょうか。在校生の皆さんの中には、就職か進学か、または鹿児島に残るか県外に出るかといった進路で迷っている方もいらっしゃると思います。県外進学を選択した卒業生の立場でコメントしますと、受験や定期試験は大変でしたが、高専在学中には想像もなかったくらい世界が広がりました。海外の大学の先生と研究について議論したり、企業の方と共同研究を行ったりと、ハイレベルな環境に身を置いていることで、自信がついてきたような気がします。挑戦したい気持ちがあれば、道はおのずと開けます。少しでも大学に興味があれば、ぜひチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。最後に、皆さんの学校生活や将来が素晴らしいものになりますよう、お祈りいたします。

## 教職への道のり

令和2年度 都市環境デザイン工学科卒業  
有川 皓大

私は令和2年度に都市環境デザイン工学科を卒業し、地元鹿児島で高校教員として働いています。高専卒業後は、長岡技術科学大学に編入・卒業し、新卒として今に至ります。山田真義先生から教員について、皆さんに知ってもらいたいとご要望を承り、今回、「高専だより」を執筆させていただくことになりました。

それはさておき、私は幼少期から先生になりたいと夢を抱いており、その気持ちを抱いたまま、鹿児島工業高校に入学しました。高校で、土木について学んでいく中で、土木の魅力に惹かれていきました。高校3年間土木を学んでいく中で、学んだ土木の魅力を教員の立場として教えたい、そして社会に出ても通用する土木技術者を育てたいと思うようになりました。高校3年間の知識だけでは、選択の幅と土木の魅力を伝えるのは難しいと思い、土木の知識を広く深く学ぶこと

ができる高専に編入しようと決意しました。高専では、座学はもちろん、実験や研究などを通して、今まで得た知識をさらに深めることができました。高専では教職に関する単位がなく、高校教諭の資格を取ることができません。悩んでいる際に、山田先生から、教職の単位も取れて、今行っている研究も行うことができる長岡技術科学大学を勧めてもらい、編入することになりました。卒業単位とは別の教職単位取得と研究などの両立はとても大変でしたが、無事に教職単位も取得することができ、卒業することができました。

教員の仕事は、やりがいに溢れており、とても充実した日々を過ごせています。皆さんもやりたい!と思える仕事を探し、高専生活を最後まで楽しんでください。



## 伝えたい2つのこと

令和2年度 機械・電子システム工学専攻修了  
福地 凜太

私は令和2年度に機械・電子システム工学専攻を修了後、TOPPAN 株式会社に就職し現在東京で勤務しています。簡単に自己紹介すると、平日は生産技術部としてCADを使って機械設計を行い、自社工場生産ラインの工程改善業務を。休日は同じく上京した高専の同級生とラップの曲制作をしている city boy です。今回はこれから社会に出るみなさんに2つのことをお伝えしようと思います。

1つ目は私が仕事をする上で意識している「さっさとやって、さっさと失敗して、さっさともう一回やる」という言葉です。入社当初こんなことがありました、「今週末までに打ち合わせ用のPPT資料を作ってきて」上司にそう言われ、失敗をしたくなかった私はフォントサイズやスライドのデザインにも凝り時間をかけて資料を作りました。そうして完璧に仕上げた資料を1週間前日に上司へレビューしたところ、「話の論点がずれている」、「結局何を伝えたいのかわからない」等のダメ出しを喰

らい、大幅な修正をする羽目になりました。あの時、中間レビューをしてダメ出しをもらっておけば、こんなことにならなかったのにと反省した記憶があります。はなから入社したての若造の力だけで完璧なものができるわけないのです。このことはこれから社会人になる方々に持っておいてほしい認識です。

2つ目は「気が置けない友人と定期的会って下さい」です。社会に出てから周りには仕事という関係性で繋がった人間関係が大半を占めていき、気を遣うことも増え、思ったことを気軽に話せる相手が減っていきます。その中で私はストレスの一番の解消方法は「友人と直接話すこと」だと気づきました。私が仕事やこれからの人生のことで悩んで気持ちが落ち込んでいる時、友人と会ってバカ話することで気持ちが晴れることが多々ありました。みなさんも落ち込んでいる時は無理してでも友人と会って下さい。

最後になりますが、社会人生活もなかなか楽しいので学生生活が終わることに憂鬱にはならないで下さいね。



## 在校生へのアドバイス

令和3年度 電気情報システム工学専攻修了  
知識 凜

私は、電気情報システム工学専攻を修了し、長岡技術科学大学電気電子情報工学分野に入学しました。修士課程では研究の日々です。私は、パワーエレクトロニクスの技術を使って、工場や家庭内の省エネルギー(省エネ)に関する研究を行っています。高専の研究で、回路の製作や実験は行っていましたが、異なる環境に初めのうちは研究の進め方が分からず、つらい日々が続きました。それでも、結果を出して学会に発表することを繰り返すうちに、自分の研究に愛着が湧き、気付いたら夢の中でも研究していました。

大学のある新潟は、これまで数cmの積雪で喜んでいた私にとって別世界でした。初めて新幹線で新潟へ行ったとき、「長いトンネルを抜けるとそこは雪国だった」。その通りの白銀の光景に驚きとこれからやっていけるのかという不安でいっぱいでした。一晩で1m近く積もった雪を見て、嬉しさより恐怖を覚えました。研究室では、先輩や同期に助けられながら楽しく生活しています。

例えば、中学生の時に参加したオープンキャンパスで「ここに来れば電気が見える」と言われたことがモチベーションとなって入学した高専。この言葉で、電気のことを勉強し、電験二種を取得しました。電験の勉強をしたことで授業の理解が進み、なおかつ現在の研究にも存分に活かしています。

もちろん電気は肉眼では見えないのですが、オームの法則やオシロスコープを駆使することで数字や波形として「見る」ことができます。在校生の皆さんは、今まさに電気回路や電磁気学に苦戦していると思います。教科書を読んだだけでは電気は見えません。先生に抵抗やテスタを借りて教科書の回路を組んで、計算値と正しいか見てみると面白いかもしれません。

最後に高専5年間または専攻科までの7年間を楽しんで欲しいと思います。資格を取る、ラジオを作ってみる、海外や旅行に行く、部活、バイト、応援団等々。高専で得た経験は、後々自分の生活に効いてくると思います。





## 在校生のみなさんへ

令和4年度 建設工学専攻修了  
林 航輝

私は、令和4年度に建設工学専攻を修了し、現在愛知県にある(株)加藤建設で働いています。

私が、社会人になってから聞かれたことについて紹介します。ご参考になれば幸いです。

### 1. どうして加藤建設に入社したの？

これは、会社内外問わず、多くの人から聞かれました。回答は、「面白そうだから」です。もちろん、ただ面白そうだからで入ったわけではなくて、他にはない技術を持っている、環境対策を昔から行っている、雰囲気が良いなどあります。全部まとめて、面白いと感じたので入社しました。気になった方は、会社説明会に参加してみてください。

### 2. 実際面白い？

面白いです。今までは、座学で学ぶだけで、現場に出て作業することはありませんでした。現場に出ることで、現地の状況に合わせて、学んだことを活かすことができます。しかし、初めての作業では、経験がないため不安になりますし、知識の扱い方も分からないの

で失敗ばかりします。それでも、慣れてきて円滑に作業が進められるようになると、面白くなりました。

### 3. 休みの日は？

休みの日は、ドライブかイラストを描いています。ドライブは高専生の頃からの趣味で、イラストは社会人になってから始めました。初任給で液タブを買ってからは、描くのが楽しくてほぼ毎日描いています。私は、出張が多く友人や同期と会う機会も少ないため、休みの日の最高の暇つぶしになっています。

### 4. 在校生に伝えたいことは？

最後の学生時代は、人生の夏休みといわれるほど、時間があります。社会人になると、仕事に時間が割かれ、まとまった時間を確保するのが難しくなります。学生のうちに、今、やりたいことをやっておくことをお勧めします。

やりたいことが無い方は、本を読むのをお勧めします。本には、著者の人生が詰まっています。他人の人生を体験してみたいかたがでしょうか。やりたいことが見つかるかもしれません。

最後に、一度きりの学生生活、後悔が残らないよう、応援しております。皆様の人生が幸多き日々でありますように。







# 教務だより

## 前向きな勉強のすすめ

教務主事 玉利 陽三

学生の皆さん、学校でスマートフォンはどのように使っておりますか。昨年度3年生以下では、スマートフォンは、学校に来たら、ロッカーへ入れておくことになっておりました。授業で使うときにロッカーから取り出して使用することもあったかと思います。今年度からは、そのような指示は行なっておりません。5月末に教務主事名で“教室への不要な物品の持ち込み禁止ならびにスマートフォン等の利用方法について”を案内しました。学内でのマンガ閲覧、ゲーム機等の教室への持ち込みは禁止しております。そこで、マンガの閲覧、ゲーム機での使用など娯楽のためのスマートフォン等の使用も学内では終日禁止しております。娯楽のためのスマートフォンの使用を禁止しておりますが、学内での一切の使用を禁止しているわけではありません。勉学においては、スマートフォン等の積極的な利用をするように案内もしました。

先日、ある科目の授業を参観しました。まず、授業の冒頭にスマートフォンやPCを使って小テストを実施しており、学生の小テストの終了状況を先生の手元で確認できるようになっておりました。また、実際に授業では、プロジェクタを使つての授業を行っており、プロジェクタで映し出された文字が見えにくい場合のため、スマートフォンやPCを使って学生の手元でも確認できるように工夫されておりました。令和4年度入学生からはBYOD (Bring Your Own Device) 導入として入学時にPCを購入しておりますが、スマートフォンに関してはほぼ全ての学生が所有しているため、スマートフォンを積極的に使つた授業が始まることもそう遠い将来ではないと思います。スマートフォンやPCを使つた授業を行う場合、教員と学生間の信頼関係が重要です。授業中にスマートフォンやPCの使用が許可されている場合、スマートフォンやPCでその授業とは関係ないこともできてしまいます。その授業を担当している教員は、当該授業に集中していると学生を信じております。それを裏切らないようにお願いします。某漫画に、「スマホ一つで勉強して東大に合格する!」というシーンがあります。皆さんも、スマートフォンやPCを有効利用して学習効果を最大限に上げてください。スマートフォンをゲーム機だけにするのはもったいない。ぜひ、勉強に積極的に利用することをおすす

めします。

ところで、1年生では放課後を使つた自学自習の時間を設けておりました。現在は、その時間帯にTAの専攻科生や5年生の先輩に指導してもらっております。わからないことがあったら、TAの先生に積極的に質問できておりますか。TAに質問できなくても友達に質問して教えてもらってもいいです。最初は自分で考えて欲しいですが、わからないことがあったら、周りに質問してみてもいいかでしょうか。質問する相手は、先生だけでなく、友達であっても構いません。友達同士でお互いに教え合える関係になるとみんなで勉強する雰囲気が変わっていきます。わからないことをそのままにせず、積極的に聞いて学びましょう。

本年度より開講のリベラルアーツI(2年)では、グループに別れていろいろな問題に取り組んでもらいました。アンケート結果より、向上した能力に関しては協調性があげられておりました。また、リベラルアーツIで人間関係を一番学んだという結果も得られています。このように、友達と検討し合うことは重要であります。社会においても同僚と一緒に仕事し、話し合つて問題に取り組むことがあり、きつこの経験が役に立つことでしょう。

最後に、積極的に学ぼうとする気持ちを持ちましょう。今年度当初に教務係より、奈良先端科学大学院大学の次世代科学技術チャレンジプログラム (NAIST-STELLA) を案内しました。このプログラムは、研究者・技術者による特別講義等を通じて科学技術や探究・研究への理解とモチベーションを高め、データサイエンス、プログラミングならびにプレゼンテーションのやり方や論文の書き方を勉強し、研究に取り組む内容です。このプログラムに本校の低学年の学生5名が参加し、積極的に取り組んでおります。これらの学生さんの成長が楽しみです。皆さんも積極的に自分を高めようとする行動をとってみてはいかがでしょうか。日頃の授業においても単位取得を目標とする勉強ではつまらないです。自分を高めるために勉強し、その結果、単位がついてきます。高専を卒業しても一生勉強です。卒業後は、仕事のため、自分の価値を高めるために勉強することになるでしょう。学生時代から積極的に自分を高めるために勉強をやりましょう。



# 総務企画だより

## KTCインターンスタートアップ教育環境整備事業

総務企画委員会からは、キャリア支援の新しい取り組みである KTC インターンとスタートアップ教育環境整備事業についてご案内します。

### (1) キャリア支援室

キャリア支援室長 白石貴行

今年度から新たな取り組みとして始まった KTC インターンについてご紹介します。KTC インターンは、本校学生が有償で企業の業務を行い将来の仕事（興味、適性等）について考える体験ですが、わかりやすく言えばアルバイトです。

期間は夏休みと春休みで、対象学年は全学年で、なんと1年生からでも参加できます。また、企業様とマッチングが取れば何年度でも実施できます。

鹿児島高専テクノクラブ（KTC）は、南九州地域のものづくり企業を中心とした団体で、本校学生の教育にも協力してくださっています。また、県内各地にあるため、寮生でも実家からインターン先に通える可能性も高いです。

これまで長期休業中の学生のアルバイトといえば、飲食店やコンビニなどが多かったと思いますが、せっかく工学を専門的に学んでいるので、自分の将来に繋がるための経験をしてほしいとの願いに KTC 企業が応える形でスタートしました。

高専は求人倍率が高いことが特徴で、その点では大変恵まれた状況ですが、それ故に、学生は自己分析や自分なりの価値観が何なのか、向き合う経験が少ないように思います。KTC インターンを通して、低学年のうちから少しずつ経験を蓄積して、それを元にして自分に向けた進路をご家族と一緒に考えていって欲しいと考えています。

なお、令和5年度夏休みの KTC インターンのすべての参加者が、参加してよかったとアンケートに回答しています。普通はアルバイトを募集していない企業様がほとんどで、貴重な経験になります。高専の特色でもある長い夏休みや春休みを KTC インターンで有意義なものにしましょう。

### (2) スタートアップ教育環境整備事業

総務企画主事 岸田一也

鹿児島高専では、スタートアップ教育環境整備事業

の予算を使って令和5年度にインキュベーションプログラム（プロジェクト）を実施しています（図1）。



図1 インキュベーションプログラムの概念図

インキュベーションプログラムでの取り組みは主に、以下の3つとなります。

- ①起業文化の醸成のための低学年を中心としたアントレプレナーシップ教育講演会の実施
- ②起業意欲の高い学生向けに起業クラブを創設し、スタートアップ教育プログラムの実施
- ③鹿児島高専発「起業の取り組み」

本稿執筆時点（11月27日）では、10月26日に1年生向けのアントレプレナーシップ教育講演会を実施しています。また、起業クラブ向けには、10月にクリエイティブアイデア講座、11月に MVP (Minimum Viable Product) 開発講座を実施しています。そして、起業クラブの活動の拠点となる起業家工房の整備も進めており、ビデオウォールシステム（図2）、VR 機器、3D プリンタ、簡易レーザー加工機、人協働ロボット等を配置しています。来年度以降も、起業クラブの活動は継続して行う予定としていますので、多くの学生に参加してほしいと考えています。



図2 ビデオウォールシステム



# 学生だより

## 学生のパワー

学生主事 北蘭 裕一



『Smile OK!』学生の個性がキラキラと輝き、若者らしいエネルギーが溢れ、学内に明るい笑顔の花が咲き誇ることを願ってのキャッチフレーズです。学生の皆さん、2023年度はいかがでしたか？

私としては、学生の素晴らしい活躍や個性の輝き、そして満面の笑みを、これまで以上にたくさん見る事の出来た1年であったと感じております。

まずは今年の高専祭、4年ぶりの観客制限無しということで文化祭・体育祭共に期待と不安の想いを抱きながら、実行委員を中心に準備して開催まで辿り着くことが出来ました。一昨年、昨年から実行委員のメンバーへは、「制限が解除されたとき、コロナ前とコロナ禍が融合した最高のイベントにしよう」と声掛けしてきておりました。文化祭では飲食を伴う文化祭を経験したことのない4年生が実行委員の中心となり、体育祭においても観客制限無し・終日開催を経験したことのない4年生が実行委員の中心でした。しかしどうだったでしょう。学生のおかげで本当に素晴らしい高専祭だったと私は心から思っております。

多くの露店・展示、賑やかな会場、予想以上の来場者数、売り切れ続出の露店、保護者も参加した綱引き、圧巻の櫓絵、伝統の応援団、そして何より、学生の素敵な笑顔と明るい声が溢れる高専祭となりました。これこそが『Smile OK!』です。

私はあらためて本校学生のパワーを強く感じ、良さにもたくさん触れることができました。実行委員の学生だけではなく、学生全員のチャレンジに魅了されました。さらには本校学生の可能性を強く感じた高専祭でした。

次に、課外活動での学生の活躍です。多くの課外活動において学生の活躍も多く報告されております。高専大会をはじめとする運動系部活動も例年以上に上位入賞しており、文化系部活動もSSD含め各種コンテストにおいて多く活躍しております。

また地元鹿児島国体にも2名の学生が出場したり、作文コンクール等でも複数の学生が受賞したりと、こ

れまでには無かった分野においても幅広い学生の活躍が学校に活力を生み出しており、この活力が学内に波及し、鹿児島高専全体として学生の活気が漲っている証でしょう。

ところで皆さん、ちょっと昨日の過ごし方を思い出してみてください。昨日1日過ごしてみて、何か失敗しましたか？昨日失敗が無かったという人は、もしかしたら昨日、1度もチャレンジしていないからかもしれません。チャレンジしてエラーして改善して、そしてまた次のチャレンジへ挑む、若い今だからこそ、どんどんチャレンジしてみてください。

昨日の自分にプラス1、昨日の行動にプラス1、昨日の笑顔にプラス1、そんな毎日を過ごしていきたいですね。だからこそ、皆さんの持っている素晴らしいパワーをチャレンジへ活かし、もっともっと個性を発揮していきましょう。

笑顔あふれるキャンパスを、『Smile OK!』みんなの力で作り出していきます。そして、元気な挨拶と明るい笑顔の花が咲き誇る鹿児島高専を共に創っていきましょう！







# 志学寮だより

## 密な青春が戻ってきた

寮務主事 椎 保幸

令和5年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたことで、コロナ禍の中で制約を受けたり、実施できなかった学寮の諸行事も、6月以降は以前のようにフル規格でできるようになりました。ただ、学寮行事の多くを企画・運営する寮生会も3年間のブランクのため、当時の雰囲気や内容を思い出すのに苦労していました。以下に、本年行った各種行事を振り返ってみたいと思います。

### ◇学寮リーダー研修

4月8日（土）に、本年度の寮生会役員（寮長の4C稲葉君以下、27名）が集まり、年間行事の確認や各担当者間での打ち合わせ、また、寮生活改善のための協議を行いました。寮生活改善の議題としては、グラウンド点呼の在り方やごみ捨ての必要性などが話し合われました。研修では、寮長の指揮のもと活発な意見交換が行われていました。



写真1 リーダー研修の様子

### ◇新入生集合自習

4月11日（火）から4月27日（木）にかけて、新入寮生を対象とした集合自習が行われました。これは、完全自習時間の前半に、各学科の1年生が多目的ホールに集まり勉強するもので、学寮における自学・自習の習慣づけを目的として行われているものです。各学科日替わりで2回ずつ行われ、皆真剣に勉強に取り組んでいました。

### ◇寮生マッチ

4月15日（土）に、新入生歓迎の寮生マッチが行われました。あいにく当日は天候が悪く、男女とも体育

館種目のみとなり、男子はバレーボール、女子は鬼ごっこで汗を流していました。新入生にとってはこれから始まる集団生活に向けて、同級生や先輩寮生との絆を深め、楽しみながらも規律ある寮生活を始めるための良い機会となったと思います。



写真2 寮生マッチの様子

### ◇七夕パーティ

7月6日（木）に、学寮駐車場を利用し、早食い大会やイントロクイズ、抽選会などの催しが開催されました。小雨の降る中ではありましたが、久々の七夕パーティに寮生は大いに盛り上がっていました。人と人が近づき、互いの気持ちを分かり合う場がいかに大事であるかをあたためて痛感しました。他にも、学生総会（4月）、学寮避難訓練（4月）、学寮チュートリアル（各試験前）、志学寮パーティ（1月実施予定）など様々なイベントについて、寮生会と関係教職員が連携しながら取り組んでまいりました。



写真3 七夕パーティーの様子

最後に、寮務委員会としてのあらたな取り組みとして、外出・外泊カードおよび欠食届の電子化を目的として寮管理システムを導入しました。まだ試行段階ではありますが、徐々に精錬し、他の業務も含め全体的な効率化を図っていきたいと考えています。



# 専攻科だより

## 特別研究 I・II 進捗状況報告会

電気情報システム専攻 専攻長 今村 成明

令和5年9月28日に特別研究II（専攻科2年生）、9月29日に特別研究I（専攻科1年生）の進捗状況発表会が実施されました。機械・電子システム工学専攻、電気情報システム工学専攻、建設工学専攻の3専攻合同で実施され、1年生24名、2年生27名が、これまでの成果について発表を行いました。

10:00より3分間のショートプレゼンを行い、13:00から15:00でポスター発表を行いました。教員だけでなく、専攻科進学予定の本科5年生も参加しており、9月28日が62名、9月29日が64名の参加があり、ポスター発表会場では活発な議論が繰り広げられました。

ポスター発表では、全参加者が最も良いと思うポスター発表に対し、1年生3名、2年生3名が選出され、11月20日に表彰され、賞状と副賞が授与されました。専攻科生皆さんの今後の益々の活躍に期待します。

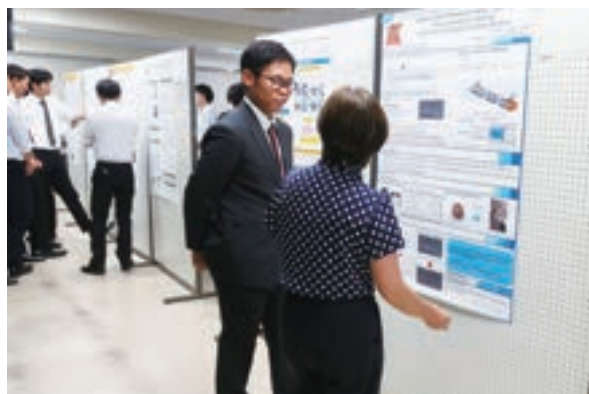


図1 校長先生と専攻科2年生の活発な議論



図2 教員と専攻科1年生の和やかな議論

## 環境創造工学プロジェクトの今

建設工学専攻 専攻長 安井 賢太郎

専攻科では、1年次に「環境創造工学プロジェクト」という課題解決型学習（PBL）に取り組んでいる。これは3専攻の学生が分野を横断したチームを編成して、地域課題に対してSDGsを念頭に置いた目標設定、解決策の検討、試作や実験等による検証を経て、得られた成果を発表する実習である。

令和5年度から、「学生自ら発掘した課題」に加えて、「教員から募集した課題」、「過去に取り組まれていた課題（継続）」からも選択可能とし、また時間割は1コマ/週で通年であったものを2コマ/週で前期に集約し、課題の選択肢を増やして集中して取り組めるように変更した。これによって、表1に示すバラエティに富んだ課題の成果について発表があった。中でも、教材開発に3班が取り組み、教材は高専の体験入学や小中学生向けワークショップで利用された。教材利用者の感想を聞いたことは学生にとって大変良い経験となったものとする。今後も学生諸君の持つ創造力で課題解決に向け前進することに期待したい。

表1 令和5年度のプロジェクト課題

班名	課題
A	Society 5.0 体験型教材としてのメタバースワールドの作成
B	高専や鹿児島にまつわるエッセンシャルオイルの作製
C	生成型AIを用いたプロンプト伝送の評価
D	奄美大島群島における歴史的資料の復元
E	STEAM 教育のためのまちづくり教材の開発
F	土砂災害及び砂防ダム理解向上のための土石流模型の作製



図3 ワークショップで利用されたまちづくり教材



# 国際交流だより

## COVID-19を超えて

国際交流センター長 徳永 仁夫

2023年、鹿児島高専では3年ぶりに海外との人の行き来を伴う交流活動を再開しました。ここでは、今年度の活動をいくつか紹介します。

### 夏季研修プログラム

「スウェーデン・NTI Stockholm校 異文化研修」

- ・期間：2023年9月11日～9月21日
- ・訪問機関：NTI Stockholm校（スウェーデン）
- ・参加人数：13人
- ・活動内容：

#### 1) NTI高校生に向けた英語でのプレゼンテーション

鹿児島県の文化、身の回りで関心の高いトピック、趣味等に関するプレゼンテーションを英語で行いました。プレゼンテーションテーマの選定や、資料作成、リハーサルなど入念な事前研修を行いました。

#### 2) 授業への参加

NTI高校は、ITやデザインに関するユニークで専門的な授業が多数あります。これらの授業にて、グループワークを中心とした活動を行いました。プログラミング、サーバー構築、アート系のデザイン、3Dコンピュータグラフィック作成などに取り組みました。

#### 3) 放課後アクティビティ

放課後や週末は、学生だけの自由活動により交流を深めました。ピクニックや旧市街地の探索、美術館での鑑賞など様々な活動を通して交流しました。NTI高校生の関心は高く、連日20人を超えるNTI高校生が放課後アクティビティに参加してくれました。

最終日は、お互い別れを惜しんで涙を流しました。

### 春季研修プログラム（2024年2、3月に実施予定）

#### 1) 台湾での海外研修（異文化交流）

- ・期間：2024年3月6日～3月10日（予定）
- ・訪問機関（活動内容）：台北科学技術大学、TSMC 半導体博物館見学、烏山頭ダム見学、市内見学など
- ・参加人数：15人

#### 2) マレーシアでの海外研修（語学研修）

- ・期間：2024年2月25日～3月3日（予定）
- ・訪問機関（活動内容）：マレーシア日本国際工科院（MJIT）、語学研修、MJIT学生との共同学習（研究体験）、市内見学など

・参加人数：21人

以上に挙げた3つのプログラムだけで、49人の学生がグローバルな活動に参加しています。これら以外にも、個人でのグローバルプログラムへの参加、JSTS2023など国際セミナー、海外での研究発表などさまざまな活動に多くの学生が参加しています。コロナ前と比べても、最も多くの学生が自主的にグローバルな活動に関わった1年間となりました。

また、日々の高専生活の中で学生各位のグローバルマインドを伸長するためのプログラムも多数取り組んでおります。

#### 1) グローバルコミュニケーションセミナー

1、2年生全員を対象とした取り組みです。学生は5人程度のグループを作り、英語ネイティブ講師とグループディスカッション（オンライン）を行いました。積極的に、楽しんで英語を使っている姿が見られました。

#### 2) 放課後英会話

放課後を利用して、英語ネイティブの講師と対面形式の英会話レッスンを行います。

#### 3) 九州沖縄地区国立高等専門学校とマレーシア・ペトロナス工科大学との合同国際シンポジウム

マレーシアにて、対面形式でのシンポジウム（オンラインとのハイブリッド形式）が行われ、専攻科生2名が参加しました。

#### 4) ToEIC スコアアップチャレンジ

e-learning教材を活用した、自学自習を推奨する取り組みです。

学生たちのグローバルな活動に対する渴望を感じつつも、なかなか再開ができなかった3年間でした。対面での活動が再開できた2023年、多くの学生が活動に参加してくれました。これらを実現するにあたり、保護者及び関係する皆様には、多大なご支援・ご協力を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。

また、ここで紹介した活動は一部に過ぎず、さらに多くの学生が、グローバルに関連した活動を通して自己研鑽に励んでいます。国際交流センターでは、来年度以降も学生の活躍の場を提供・拡充します。





# 地域共同テクノセンターだより

## 地域共同テクノセンターだより

地域共同テクノセンター長 武田 和夫

地域共同テクノセンターは鹿児島高専と地域企業・自治体との連携、共同研究の推進、知的財産に関するマネジメント等を業務としています。運営はセンター長の武田、副センター長の前薮・瀬戸山、各科からの運営委員、総務課企画係で行っています。

昨年7月にSTEAM教育支援室が地域共同テクノセンターに置かれ、前薮副センター長を室長として今年度より本格的に稼働しています。また、コーディネーターが無くなり、代わりに副センター長2名の体制になりました。

### STEAM 教育支援室

STEAM教育とは、科学・技術・工学・リベラルアーツ・数学を主な領域とした学びを行うことで、探究心や創造力を育てるものです。驚きや発見、ワクワクする心で特に理系分野への興味や親しみを持ってもらいたいと考えています。現在、地域共同テクノセンターに置かれているSTEAM教育支援室では、県内小・中学生を主に対象にしたSTEAM教育講座を「来校型」と「出前型」に分類しています。来校型は、本校でこれまで公開講座として開講していた講座を、STEAM教育対応を謳って実施するものです。出前型は新たな講座を含めて、希望する小・中学校に高専から出向いて講座を開きます(図1)。離島を含めた県内全域が対象です。出前型については現在、教員が出向くことが多いですが、将来は本校学生も児童・生徒らに教えるようなものに育っていくことを期待しています。

### 地域企業との連携

鹿児島高専には鹿児島高専テクノクラブ(KTC)という産学官連携組織があります。会員は、鹿児島に拠点をもち企業104社と自治体などの19の公的団体であり、教育・研究活動をはじめ、様々な分野で協力関係のもと鹿児島高専とともに活動しています。

県外企業に対して劣らない優良企業は県内にもあるにも関わらず、それを学生が知る機会がほとんど無いのは、学生にも企業にも地域にも不幸です。学生に対して研究会や特別講義、見学会を開いて、働きがいのある企業の存在を「知ってもらう」ことから始め、また、本校OB/OGの講演で「鹿児島で働くこと」「地域の現状と課題」「鹿児島の企業の活動」を知る機会を設けています。インターンも実施しています。学生は

地域の企業を知り、本人にとっての県外・県内就職の良し悪しを理解して就職に臨むことができるため、ミスマッチも減ると思われます。県外就職しても、その後鹿児島にUターンする卒業生も少なくはなく、これらの活動が10年後のUターンのきっかけになると信じています。

前号でお知らせした、昨年度にKTCと本校学生チームとが共同作業で完成させたKTCロゴマークが、今年度のKTC総会で発表されました(図2)。このロゴマークは情報工学科の小牧優介君のデザインを基に採用されました。KTCの活動で積極的に使用されます。

また鹿児島高専60周年に際しては、地域の産学官連携に役立てるための公用車をKTCから寄贈していただきましたのでここにも記しておきます。

### 地域とともに

今年度12月時点で、KTC会員との共同研究の件数は本校の共同研究の4割を占めています。共同研究には学生も参加しているものも多く、大変喜ばしいことです。

地域共同テクノセンターでは、地域企業と鹿児島高専の研究者・職員、地域企業と鹿児島高専生、の距離をもっと近くし、身近に感じる仲にしたいと考えています。地域の隣人として対等に、産学官連携を意識しなくても普段からふと声をかけることができるような関係で「高専×地域企業」の力を発揮できる土壌を作りたいと考えて活動しています。

学生の皆さんも、デジタルサイネージを観たり、研究会に参加したりして気になった企業に、話を聞きたいことがあれば、ぜひ誰か近くの教職員に相談してください。地域共同テクノセンターに繋いでくれます。



図1 出前講座の様子



図2 KTC ロゴマーク



# 学生何でも相談室だより

## 学生何でも相談室だより

学生何でも相談室長 野澤 宏大

学生「何でも」相談室…。いかに「何でも」という枕詞がついていても、相談室とは一般に、あまり立ち寄りたくないものです。しかし、我々一同、「誰でも気軽に立ち寄ることができる相談室」を目指し、日々活動しています。

学生何でも相談室では、学生、保護者、教職員からの様々な相談に対応しています。当然ながら、その内容をここに書けるわけがありません。相談員としては、カウンセラー6名、ソーシャルワーカー2名、教員3名がおり、誰がどの日に担当しているかは、毎月教室に掲示される案内で確認することができます。かつては空欄が多かった予定表ですが、近年はおかげさまで、ほぼ毎日相談員が待機できる状況となっています。せっかくの機会ですので、ご利用してみたいはいかがでしょうか。対応時間は、14時半から17時までとなっています。

相談予約をする際は、これまでは「保健室に確認・連絡をする」というのがはじめの一步でした。個人的には、わりと低めのハードルだと思うのですが、それでも人によっては難しいことかもしれません。そこで今年度は、新たに Microsoft Forms を用いた予約フォームの運用を始めました。このフォーム提出をもって予約完了とはなりません、人を介しませんので、はじめの一步としてのハードルは、かなり下げられたと思います。もっとも、このフォームができたのは12月の話ですが・・・(この原稿を書いている時点では過去形ではありません)。

実は今年度から、ひっそりと Well-being センターも立ち上がっており、厚生会館の維持管理の任を、学生何でも相談室長が担っています。それと厚生会館1階の改修が行われたこととは無関係ですが、「誰でも気軽に立ち寄ることができる相談室」のために、「誰でも気軽に立ち寄ることができる厚生会館」が必要であることは間違いありません。ジャングルの様だった中庭も、お洒落に生まれ変わりました。改修に併せて1階には、鹿児島高専後援会に購入していただいた、1900Wの業務用電子レンジが2台設置されています。2階のレンジとは、電力コンセプトが真逆ではありますが、学生生活は明らかに向上していると思います。せっかくですので、厚生会館の1階を利用して、近々何かイベン

トを開催しようと思っておりますが、中々実現できていません。

話は学生何でも相談室に戻しますが、相談室の前にある当日の予定表ボードに何も記載がない場合は、飛び込み相談も可能となっています。1階の業務用レンジ、2階の家庭用レンジを経れば、学生何でも相談室はすぐそこです。一度、フラッと立ち寄ってみてはいかがでしょうかでしょう？相談員一同、皆様のご来訪を待ち望んでおります。ただし、私以外の相談員が担当の日に、物理の質問に来るのはやめましょうね。



図1 予約フォームの案内



# 退職の挨拶

## 魔法のことば、チワ（一）

一般教育科 鞍掛 哲治

小生は、2006（平成18）年に新潟の高専より鹿児島高専に赴任して参りました。その時、「元気よく挨拶してくれる学生が多いなあ」というのが本校の第一印象でした。それ以来約18年の時が経ちましたが、これまでキャンパス内外で学生と行き交う際には、「チワ（一）」と元気よく挨拶してくれる学生が多く、気分の良い時や睡眠不足で眠たい時でさえも、この挨拶のお陰ですぐに正気を取り戻し、元気になりました。この挨拶は、小生にとっては魔法のことばと言っても過言ではありませんでした。

一方、この「チワ（一）」という挨拶は、学生全員が同じようにしてくれるわけではありませんでした。なかには、「こんにちは」と短縮せず挨拶してくれる学生もいました。女子学生が多かったでしょうか。また、男子学生、特に運動系の部活に入部している学生は、「チワッ」と短く歯切れよく言ってくれる学生もいて、シャキッと背筋が伸びる感じがした時もありました。さら

に、留学生の中には日本人学生の習慣を身につけたのか、日本人学生同様に「チワ（一）」と挨拶してくれる学生もいて、ふとこちらの顔もほころんでしまった経験が幾度もありました。

このように、多くの学生、保護者の方々、そして教職員の皆様の日々の挨拶を始め様々なご支援や励ましをいただきながら、何とか退職の日を迎えることができました。この場をお借りして皆様に感謝申し上げます。

最後に、退職後もどこかで学生諸君や皆様にお会いできることがあろうかと思えます。魔法のことば「チワ（一）」と声を掛けていただけますと幸いです。

## 退職のご挨拶に代えて

一般教育科 保坂 直之

長い間お世話になりありがとうございました。最後に何か書いて、となると忘れられない学生たちや高専の名誉のために捨て身のレースをしてくれた自転車競技部員たちのことなど、書くべきことは無数にありますが、研究については学外で公にしていたため高専で語ったことがほぼありません。とはいえ、専門外の方に文学研究を語るのは失礼に思えますので、硬い話は避けて研究活動に伴うエピソードを紹介してお別れの言葉に代えたいと思います。

教育・研究を同時にする高専教員は超人の一種です。若い世代の方も今苦しんでいるだろうと拝察します。私も削れるのは睡眠時間だけの状況で無理を重ねてきました。疲れていたがために失敗が多く、ベルリンの地下鉄で寝落ちして気がつくとき真っ暗な車庫にいた話や、ザルツブルクの牧場で馬（3頭ほど）に追いかけられた、など、教室で話すとウケる話題に事欠かないのは無理の賜物です。トラークルが間借りして

いた Villa（邸宅）がまだ残っていると知って「家の中を見せてください」と頼みに行くのも超人（空気を読まない人）ならではでしょうか（もちろん「いきなり呼び鈴」ではなくインスブルック大学の人たちに仲介してもらいましたが）。窓からの眺めを確かめたかった彼の部屋は、今の持ち主の娘さんの部屋で女学生の服が普通にベッドに散らばっていました。さすがに写真を撮るのは躊躇われると言うと、「はあ？何言ってるんだ、ヨーロッパ人には隠し事はないよ、どんどん撮れ！」と家主（父）が肩を叩いてくれるので遠慮なく調査を続けました。ハイデガーが論文に書いて有名になった『ある冬の晩』というトラークルの詩がありますが、数年前、従来訳を構文把握から完全に変えた新解釈で訳しました。今後反論がくるはずですが、建物の中に入って五感で感じた体験を元に行っているため、少し自信があります。

欧州での調査も学振だけでなく本校の助成を受けることで続けることができました。退職後も精進して書き続けて、恩に報いたいと思っています。改めまして感謝申し上げます。





## 着任と退職の挨拶

情報工学科 永岩 健一郎

### ①出身地は？

鹿児島県生まれです。高校卒業まで、旧末吉町、旧金峰町、旧有明町、鹿屋市、鹿児島市と転々となりました。現在は、霧島市隼人町内山田です（両親の終の棲家）。

### ②好きな食べ物・苦手な食べ物

肉系、麺類が好きです。もちろん、鹿児島ラーメン、日本そばが良いですね。苦手なものは特にありません。

### ③趣味は？

ウィンタースポーツ（スキー・スノーボード・スケート）、ラジコン飛行機、ウォーキング、読書（推理小説系）

### ④どんな科目を担当されていますか？

情報工学特論、アルゴリズムとデータ構造、コンピュータリテラシ等です。

### ⑤専門分野と研究テーマについて教えてください

流通に関する数理計画問題です。最近では、輸出入折りたたみコンテナ導入における経済性分析と搬出入の管理手法について研究しております。

令和5年度から、高専機構の同居支援プログラムを活用しまして、広島商船高専流通情報工学科から鹿児島高専情報工学科へ配置替えとなり、本校に赴任いたしました。赴任と同時に退職の年齢となりましたので、両方のご挨拶をさせていただくことになりました。ただ、もう2年は再雇用となり、学校で顔を見ることもあると思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。前任校には、38年6カ月おりました。ネット検索していただくと、お分かりになると思いますが、瀬戸内海のほぼ中央部の大崎上島という離島にあります。自然の豊かさ、風景の良さは、両校とも素晴らしいものがあります。

短い間ではありますが、よろしくお願ひ申し上げます。（瀬戸内の夕日です。筆者撮影）



## 退職に寄せて

情報工学科 豊平 隆之

平成2年4月に、情報工学科助手として採用されて以来34年間、鹿児島高専にお世話になりました。平成2年度は、情報工学科の1回生が5年生になった年度でした。

当時の国道223入口から見次交差点までには、ベスト電器（現：ドコモショップ隼人東インター店）、ホームセンター江夏（現：山形屋ストア）があるくらいで、サンキュー隼人店もイオン隼人国分店もなくコンビニも見次交差点付近に1軒あるくらいでした。

平成5年8月の鹿児島市付近での集中豪雨（8.6豪雨）で被害にあわれた教職員や学生もいました。また、直前の始良市・霧島市付近の集中豪雨（8.1豪雨）と合わせて県内の交通網が寸断され、計画していた一日体験入学が中止（延期？）になりました。それから、電子制御工学科ができ、創造教育研究センター（現：地域共同テクノセンター）の設置、学内ネットワークの設置や専攻科の設置と学校は拡充してきました。この34

年間に、3年担任を3回、4、5年担任を5回受け持たせていただきました。3年担任では、3回中初めの2回で懲戒処分を受ける学生を出してしまい、指導力の無さを感じました。また4、5年担任の最初の2回でも4年次に、女子学生が負傷する事件がおきました。このままでは次の担任を引き受けるときにも何か起こるのではないかと、内心不安でしたが何も起こらずに良かったです。

今年度の3月末をもって定年退職となります。34年間、ご迷惑をおかけしました皆様方にお詫びを申し上げます。退職後は、再雇用により2年間お世話になりそうです。またまた、ご迷惑をおかけしますが、よろしくお願ひいたします。ありがとうございました。



# 新任教員の紹介

## 学生のみなさんへ

都市環境デザイン工学科 山本 聡

- ①出身地は？ 鹿児島県始良市です。
- ②好きな食べ物は？ 漬物だけは少し苦手です。
- ③趣味は？ 美術・建築鑑賞です。
- ④どんな科目を担当されていますか？ 建築学（基礎製図Ⅰ、建築環境工学、施工学等）です。
- ⑤専門分野と研究テーマについて教えてください。

専門分野は建築学と都市計画で、研究ではコンパクトシティを対象としています。コンパクトシティとは、人口減少・高齢化社会においても生活利便性と地域経済を維持できるよう、公共施設・商業施設などの生活機能と居住をコンパクトに集約させた都市構造を指します。現在500余りの自治体がまちのコンパクトシティ化を目指していますが、人口増加や経済成長を前提としたこれまでの都市計画とは正反対の考え方であるため、その具体的な実効性や有効性に関しては模索中です。研究ではそれらの実態や課題を明らかにし、まちのコンパクトシティ化のための具体的な方法やデザイン手法を探ることを目的としています。

## ⑥学生たちへのメッセージ

大学院修了後、学生時代の指導教官で建築家としても活動されている恩師の建築設計事務所で集合住宅やまちづくりに従事し、その後県工学系専門学校にて10年間教壇に立ちました。



前職において学生を相手に教員生活を過ごす中、教育者として何が出来るかを考えさせられることが度々ありました。専門的な知識を教え伝えるのは無論、教育はやはり学生の専門分野に対する興味をより高めるきっかけを作ることにあると今は考えています。高専では半数が15から18歳の多感な時期にいる学生です。興味やちょっとしたきっかけ一つで今後の人生を大きく切り開く可能性を秘めた時期にいます。私は建築に大きな夢を抱いてこの世界に入り、これまで様々な建築やまちづくりを訪れ経験してきました。これまでの見識をもとに学生の皆さんの興味を高めるきっかけ作りをしていきたいと考えています。





# 学舎リニューアル

## 屋外運動場整備

総務課施設係 明 徹

施設整備費補助事業にて屋外運動場の整備を実施しました。整備前は路盤層の軽石が露出して安全性に懸念があり、また、雨天後は水はけが悪く長時間水溜まりが発生し、体育の授業や部活動等に支障が生じていました。これらの不具合を解消するために本工事では、インフィールド（走路トラックより内側）の約40～50センチの深さに透水管を敷設しています。透水管とは硬質ポリエチレン管に多数の穴があいている管で、この管のまわりをフィルター材（単粒度碎石）と不織布



で巻いて土の流入を防ぎ、土の中の水は管内へ流れ込み、側溝へ排水するという構造になっています。

インフィールド表層部は黒土から真砂土へ入れ替え、直走路2レーンは全天候系舗装（ゴムチップウレタン舗装）に整備し、アウトフィールドには天然芝（高麗芝）を張りました。安全・安心な屋外運動場で思いっきり運動・スポーツを楽しんでもらいたいです。



## 地形を参照したコミュニティスペース

都市環境デザイン工学科 高安 重一



厚生会館の1階改修では未利用の中庭と非常勤講師室も開放し、授業以外の様々な活動をサポートする空間を考えた。

中庭から室内にかけてはイスとテーブルをやめて新たな地形のような凸凹を設計した。これにより中庭へはどの窓からでも出られるひと続きのスペースとなった。公園で木陰を求めてお弁当を食べる場所を選ぶように、ここでもバラソルやプランター、様々な凸凹と

自分の行為の折り合いのつく場所を探して行動ができると良い。ここは食事や歓談以外にも、モニターでのプレゼンテーション、音楽の演奏、少人数のゼミ、などにも対応できると考えている。

「地形」の奥のスペースは、不定形な多角形の角を丸めた石ころのようなテーブルを設計した。丸いテーブルよりも壁に寄せて使いやすく。どのようにテーブルを寄せ集めても大テーブルにしやすい。

四角いテーブルは整列していないと雑然とした雰囲気になるが、ここでは庭にいくつもの石が配置されているかのように見えることで、使っていない時も庭園のような雰囲気を感じられると良いと思っている。







# 後援会だより

## いつまでも鹿児島高専応援団

後援会会長 引地 渉

「高専に行きたい」。そう告げられたのは、息子が中学3年になってしばらく経ってからだった。理由を聞くと「最短距離でプログラマーになる」との返事。のんびり構えていた親とは違い、潔い15歳の決断だった。

入学式終了後に向かった情報工学科1年の教室では、クラス理事の選定に難航。「それ、私でもできますか」と手を挙げたのが後援会との関りの一歩目だった。保護者が学校と関わる機会はそれまでの小中学校とは格段に少ないだろうと想像もできたので、クラス理事になったことで「行事はできるだけ参加しよう」と決心した。

初年度は、全国の高専生によるプログラミングコンテストに出場する機会を息子がいただいたので、「応援」と称して（笑）会場の徳島県に足を運んだ。阿南高専生のホスト校としての動きや、全国の高専生による研究発表やプレゼンテーションのすばらしさを実際に見て、高専生のポテンシャルの高さも感じたところだった。

次年度は全国大会の会場がお隣、都城ということもあり2年連続で全国大会を見ることができた。その次の年からコロナ旋風で、リアルで集まっていたのができなくなり、秋田や北海道に行けなかったのは残念だった（もっとも、悔しかったのは学生本人たちではあるが）。

コロナによる大会等の中止は高専での活動にも大きな打撃を与え、なにより高専祭の縮小はアオハル真っ只中の学生には残念であったろう。

その高専祭での私の楽しみの一つは文化祭の模擬店だ。外国からの留学生による「お国の味」がお気に入りだった。2023年は久しぶりに東南アジアのスイーツを食べることができて、日常のありがたさも味わった。また体育祭の演舞や櫓絵も毎年の見どころ。ほかに今回は競技に男女の別なく取り組めるものも新設されていたことも、女子学生が増えてきた本校の新しい姿なのだと感心した。

毎年11月に開催される「本校支部会」は、総会に次ぐ後援会のビッグイベントだ。なかでも恒例になった、卒業生らが話して下さる学生時代の過ごし方や就職・進学に至るプロセスは、保護者としてうなずくことばかり。来年以降も多くの保護者に参加してほしいし、現役の学生にもぜひ聞いて参考にしてもらいたい内容だ。

昨年本校は、創立60年を迎えた。還暦を越え、今年は新たな一歩を踏み出す一年になろう。「最短距離で…」と言っていた息子が6年かけて本校を後にする。私自身も1年長く関わられたおかげで後援会長という貴重な経験もさせていただいた。保護者としての伴走はゴールが見えてきたが、これからも鹿児島高専を応援したい。今後の本校と、後援会のますますの発展を願ってやまない。

## 私の高専記

後援会 副会長 水谷 香

息子の入学と同時にクラス役員を引き受ける事になり優れた工学教育機関という事は知りながら知らない事が多すぎて…

後援会という立場から、少しでも鹿児島高専を知れたらいいなという思いでした。

コロナ禍という事もあり、後援会活動もなかなか難しかった時を経て今年度、副会長として心強いメンバーと活動させて頂いています。

コロナも少し落ち着き、4年ぶりに入場制限なく盛大に行う事ができた高専祭。

子供達からの、こんなに楽しかったんだー！と言う声を聞き、ここ数年コロナで何も出来なかった事に慣れてしまっていた自分にハッとしました。

11月には後援会主催の本校支部会も開催され、理事の皆さんのご協力のもと卒業生・先輩方から貴重なお話を聞く事もできました。

先輩方の、迷いながらも芯のある軌跡はとても輝いて見えました。実りある会になったのではないかと思います。

入学時、慣れないリモート授業を何とかこなし、その中でも工学に特化したプログラム等の洗礼を早々に受けていた息子は4年生になり夏季海外研修プログラムスウェーデン・NTI Stockholm 異文化研修に参加し貴重な経験をさせて頂きました。

高専は学ぼうと思えば学生一人一人の成長を支え豊かな未来を切り拓く力を育ててくれる素敵な場所だと思います。

こうやって、親子で学び経験させて頂き沢山の人の出会いを頂けた事に感謝してあと1年すごしていこうと思います。



## 卒業ですが、もう2年間

電気制御工学科 5年 理事 瀬戸口 満高

入学時には、長いと思っていた高専の5年間も、あっという間に終わろうとしています。のんびり屋で人見知りの息子が、難しそうな授業について行けるのか、寮生活に馴染めるのか、親としては、かなり気を揉みましたが、私の手元に微妙な成績表が送られてきながらも、無事卒業できそう（気を緩めるといけないですが）なので、少しホッとしています。

振り返りますと、コロナ禍で様々な制約を受けながらの学校生活でした。

息子は高専での5年間のうち4年間は寮に入っていました。思いのほか彼には寮生活が性に合っていたようで、毎日を楽しんでいたようです。また自立心も養われ、今では大人びたと感じることも多く、寮を選んではよかったなと思います。

そんな寮生活を送りながら、彼は高専の体育祭（秋の高専祭）の風物詩の応援団活動に参加するようになりました。3年時にはそれが忙しくなり、その後は完全に応援団中心の学校生活になっていました。4年時には、電子制御工学科の副団長として赤いツナギに身を包み、オリジナルの型の演武をカッコよく！（親バカ）決めてくれました。そして、応援団の中心になって団をまとめ、引っ張っていたようで、控えめな性格の息子が、

そんな立ち位置で頑張っている姿は、かつては見られなかったな、と感心したものです。

体育祭が終わると、気が付けば間もなく最終学年、つまり、4年生の冬。大学編入や専攻科進学など学びを続けるか、それとも就職して社会に出るか、ようやく彼は考え始めました（のんびり屋！）

高専生卒業生の一人ひとりが、希望と不安を抱きながら様々な思いを巡らせ、進路について真剣に悩んできたものと思いますが、4年生の年末に、ようやく我が息子もその一人になったわけです。

かなり悩んでいましたが、その時点で彼は「自分がやりたいこと」を見つけられておらず、進学の推薦をもらえるほどの成績でもなく、決断がなかなか出来ませんでした。紆余曲折ありつつ、結局は幸運にも2024年春に専攻科に進むことが決まりました。息子にとっては、専攻科卒業後の「自分がやりたいこと」を決める延長戦に入ることになります。

私としては、また2年間、ちゃんとやっていけるのか？将来どうするのか？と、気を揉むことになりますが。

これまでお世話になった先生方、学校職員の皆様、寮職員の皆様、学友と保護者の皆様、そして後援会と理事の皆様、誠にありがとうございました。感謝申し上げますとともに、皆様の今後の健康とご活躍を祈念いたしております。そして、卒業ですが、もう2年間、どうか宜しくお願い申し上げます！



# 編 集 後 記

「鹿児島高専だより」第78号をお届けいたします。学生たちの活動や活躍はもちろん、教職員や校内の各種委員会の取り組みなど、学校のことを読者の皆様にお伝えできれば幸いです。

高専には多数の学生が在籍していますので、教員といえどもその全てを把握することはできません。しかし、編集作業をしていますと、企画や原稿の収集、校正を通じて、普段は接点のない学生の活躍や取り組みを知ることができます。授業とは違う姿を知り、「あの子にこんな一面があったのか」と感心することが多く、「役得かな」と感じています。不思議なもので、学生が夢や目標に向かって頑張っていることを知ると、これまで以上に応援したい気持ちが強まります。本誌を通じて、学生や本校の応援団を増やしていくことができれば素敵だなと考えています。

最後になりますが、「高専だより」の発行にあたり、ご寄稿いただきました執筆者の皆様には厚く御礼申し上げます。また、岸田広報センター長をはじめとする広報センター委員の皆様方には、様々な面でご協力・ご高配をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

「高専だより」主担当：町 泰樹

## 「高専だより」編集委員会（広報センター）

広報センター長	岸田 一也（電子制御工学科）
広報副センター長	町 泰樹（一般教育科）
委員	白石 貴行（機械工学科）
	佐藤 正知（電気電子工学科）
	谷口康太郎（電子制御工学科）
	新徳 健（情報工学科）
	堤 隆（都市環境デザイン工学科）

担当事務 学生課図書情報係

## 「鹿児島高専だより」第78号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報センター  
発 行 鹿児島工業高等専門学校  
〒899-5193  
鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1



